

博士前期課程

シラバス

(令和8年度)

2026

日本大学大学院総合社会情報研究科

## 日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

### 日本大学マインド

- ・ **日本の特質を理解し伝える力**  
日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。
- ・ **多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力**  
異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。
- ・ **社会に貢献する姿勢**  
社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

### 「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

#### < 自ら学ぶ >

- ・ **豊かな知識・教養に基づく高い倫理観**  
豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。
- ・ **世界の現状を理解し、説明する力**  
世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

#### < 自ら考える >

- ・ **論理的・批判的思考力**  
得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。
- ・ **問題発見・解決力**  
事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

#### < 自ら道をひらく >

- ・ **挑戦力**  
あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
- ・ **コミュニケーション力**  
他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。
- ・ **リーダーシップ・協働力**  
集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
- ・ **省察力**  
謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

# 日本大学教育憲章ルーブリック

		初年領域： Basic		中上級領域： Intermediate and Advanced		
		1	2	3	4	
		自主創造	自ら学ぶ	A-1：豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、倫理的な課題を理解し説明することができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の倫理観をもって、倫理的な課題に向き合うことができる。
A-2：世界の現状を理解し、説明する力	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状を概説できる。			世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を、自己の世界観をもって説明できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を、複数の世界観に立って解釈し説明できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を総合的に理解し、国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。
自ら考える	A-3：論理的・批判的思考力		仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察することの重要性を説明できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的な考察を通じて、課題に対する見解を示すことができる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。
	A-4：問題発見・解決力		事象を注意深く観察して、解決すべき問題を認識できる。	問題の意味を理解し、助言を受けて複数の解決策を提示し説明できる。	問題を分析し、複数の解決策を提示した上で、問題を解決することができる。	創造力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力または他者と協働して問題を解決することができる。
	A-5：挑戦力		新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。	新しい挑戦への計画を立て、準備することができる。	責任と役割を担い、新しいことに挑戦することができる。	責任と役割を担い、あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
自ら道をひらく	A-6：コミュニケーション力		親しい人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互の意思伝達を自由かつ確実に行い、他者との良好な関係を確立することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。
	A-7：リーダーシップ・協働力		集団の活動において、より良い成果を上げるために、お互いを尊重することができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、指導者のもとで他者と協働し、作業を行うことができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、指導者として他者と協働し、作業を行うことができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
	A-8：省察力		自己の学修経験の振り返りを継続的に行うことができる。	自己の学修に関する経験と考えを振り返り、分析できる。	学修状況を自己分析し、その成果を評価することができる。	学修状況の自己分析に基づく評価を、今後の学修に活かすことができる。

**必修科目**

国際情報論特講	神井 弘之・加藤 孝治	1
---------	-------------	---

**国際（関係）・政治コース**

現代政治学特講	井手 康仁	4
国際法特講	安藤 貴世	7
国際政治論特講	信夫 隆司	10
国際政治論特講	大八木時広	13
多文化共生論	市岡 卓	16
国際関係論特講	日吉 秀松	19
行政論特講	関根二三夫	22
危機管理論特講	大濱 明弘	25
組織倫理論特講	神井 弘之	28
日本政治史論特講	瀧川 修吾	31
都市計画論特講	山岸 輝樹	34
地方共生論特講	神井 弘之	37
知的財産論特講	宮下 義樹	40
国際メディア論特講	安江 伸夫	43
日中比較社会論特講	高綱 博文	46
日中比較社会論特講	松重 充浩	49

**経営・経済コース**

経済理論特講	後藤 康雄	52
国際経済政策論特講	前野 高章	55
国際経済政策論特講	陸 亦群	58
グローバル経営戦略論特講	黒澤 壮史	61
現代ファイナンス論特講	水谷 公彦	64
アカウンティング論特講	青木 隆	67
マーケティング論特講	雨宮 史卓	70
人材マネジメント論特講	加藤 孝治	73
多国籍企業論特講	井上 葉子	76
流通ビジネス論特講	白鳥 和生	79
ビジネス法特講	中村 良	82
ファミリービジネス論特講	加藤 孝治	85
ファミリーガバナンス論特講	階戸 照雄	89
事業承継論特講	曾根 秀一	92
事業創造論特講	中村裕一郎	95
地方創生・振興論特講	片上 敏喜	98
ローカルビジネス論特講	佐藤 奨平	101

**専攻共通科目**

調査分析特講	田中堅一郎	104
統計基礎Ⅰ	佐藤 友彦	107
統計基礎Ⅱ	佐藤 友彦	110
行動経済学特講	米田 紘康	113

# 国際情報専攻

(シラバス)

## シラバス

シラバスには、教材の概要・参考図書・履修上のポイント・レポート課題が掲載されています。履修登録時に参照してください。

レポートの提出期限は、9月・1月（予定）となっています〔詳細は研究科報（ホームページ）にてお知らせします〕。

科目名	国際情報論特講	担当者	カミイ ヒロユキ 神井 弘之 カトウ コウジ 加藤 孝治	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	---------	-----	---------------------------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>国際情報分野（国際・政治・経済・経営）において諸領域の研究を行う際に必要なリテラシーを学び、以下の能力を身に着ける。</p> <p>I. 問題発見・解決力：事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。</p> <p>II. 論理的・批判的思考力：得られた情報を基に、論理的な思考、批判的な思考ができる。</p> <p>III. 倫理観：豊かな知識を基に、倫理観を高めることができる。</p> <p>具体的な項目としては、①研究を行う上で欠かせない論文作成上の注意事項、②研究倫理、③文献検索の方法等の理解、及び④専攻の研究基盤となる知識・教養の涵養を含む。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 国際情報分野で研究および論文を作成するうえで「常識」とされる知識を理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文を作成するまでに必要な3つのリテラシーを理解できる。</li> <li>①研究課題を修士論文として纏める際に必要な条件の把握</li> <li>②自分の研究課題に関する先行研究を文献検索する方法</li> <li>③研究を進める上でやってはいけない研究倫理上の問題</li> <li>・自分の研究領域において必要な知識を得て、自分の研究課題を具体化することができる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>&lt;基本教材1：在宅学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、manaba folioを通して適宜科目担当者に質疑をする。</li> </ul> <p>&lt;基本教材2：スクーリング&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年5月3日～5月5日に実施される実質3日間の集中講義に出席することが、単位取得の要件となる。レポート課題についてはスクーリング後、指定された期限までにmanaba folioに提出する（ディベート、自主研究）。研究計画の作成にあたっては、指導教員と綿密に情報交換を行うこと</li> </ul> <p>&lt;学修時間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅学修では、レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする；1)教材の学修；20時間、2)レポート執筆；10時間、3)レポート推敲と最終稿の完成(教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む)；15時間。</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>レポートの推敲過程において、manaba folioの全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。</p>		
スケジュール	<p>この講義は大学院の初年度教育に関する内容なので、日程調整し、初年度に履修すること。</p> <p>&lt;通信授業（在宅学習） 2単位：基本教材1&gt;</p> <p>1) 基本教材1.のレポート課題1(前期課題提出期間に提出) 初稿〆切 2026年6月末 → 最終稿は学事暦に定める前期レポート提出期限</p> <p>2) 基本教材1.のレポート課題2(後期課題提出期間に提出) 初稿〆切 2026年11月末 → 最終稿は学事暦に定める後期レポート提出期限</p> <p>&lt;スクーリング 2単位&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三専攻合同講義及び専攻別講義は4月に、原則、対面にて実施(ただし、状況に応じてオンライン講義に変更する可能性あり)</li> </ul> <p>1) 前半：研究、及び論文作成に必要なリテラシー（三専攻合同講義）</p> <p>2) 後半：国際情報専攻分野における様々な課題（担当：各科目担当教員）</p> <p>1) スクーリング・レポート課題1：提出期限8月第1週</p> <p>2) スクーリング・レポート課題2：提出期限8月末日</p> <p>3) 科目担当教員からレポート提出を求められた場合は別途指示する期限までに提出</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	通信授業 (在宅学習)	レポート（論点、結論、ロジック、引用及び参照の明示）：35% 観察記録（取組、期限の順守、指摘事項への対応、説明）：15%	50%
	スクーリング	レポート（論点、結論、ロジック、引用及び参照の明示）：35% 観察記録（取組、期限の順守、指摘事項への対応、説明）：15%	50%
履修者への要望	<p>円滑な学習のため、履修届を提出したら担当教員にメールにて連絡すること。</p> <p>学修およびレポート作成についての注意事項については、全てmanaba Folioの「国際情報論特講」の掲示板で告知するので、必ず定期的にチェックすること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1(通信授業/在宅学習用)	
教材の概要	<p>著者名：船橋洋一編            教材名：『検証 日本の「失われた20年」』（東洋経済新報社，2015年）ISBN:978-4492396179 3,080円+税</p> <p>財政金融，人口動態，企業競争力，政治，原発，教育などの専門家が結集し，いわゆる「失われた20年」の検証を行ったものである。</p>
参考図書	<p>(1) 山家悠紀夫『日本経済30年史 バブルからアベノミクスまで』（岩波新書，2019年）ISBN:978-4004317999 900円+税            (2) 博報堂生活総合研究所『生活者の平成30年史 データで読む価値観の変化』（日本経済新聞社，2019年）ISBN:978-4532176549 2,080円+税            (3) 日本経済新聞社(編)『令和につなぐ平成の30年』（日本経済新聞社，2019年）ISBN:978-4492396179 2,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>国際情報専攻で学ぶ領域は，政治・経済・企業経営と幅広い分野に渡るが，それぞれの分野の研究に必要な知識は独立しているのではなく相互に関係している。近現代の日本の歴史を振り返りつつ，研究に必要な論点を幅広く把握してほしい。</p> <p>基本教材1を読み，レポートを作成することを通して，本専攻において，自分の研究テーマに沿った深い研究を進めるため，幅広い知識をに基づく多様な視点を獲得してほしい。</p>
レポート課題1	<p>自らが研究テーマとして取り上げる内容に最も近い章を一つ選び，その内容を要約し，筆者の意見に対して賛成するか反対するかを明確にして，自らの意見を述べてください(3000字程度)。</p> <p>留意点：レポートを作成する際には，事実と意見を峻別すること。また，意見のうち他者の意見と自分の意見を峻別し，前者については引用部分と出典を明らかにし，後者についてはその根拠を論理的に説明すること。</p>
レポート課題2	<p>自らが研究テーマとして取り上げる内容とは異なるテーマを取り上げている章を一つ選び，その内容を要約し，筆者の意見に対する自らの意見を述べてください(3000字程度)。</p> <p>留意点：レポートを作成する際には，事実と意見を峻別すること。また，意見のうち他者の意見と自分の意見を峻別し，前者については引用部分と出典を明らかにし，後者についてはその根拠を論理的に説明すること。</p>

基本教材 2(スクーリング)	
教材の概要	<p>著者名：小熊英二著            教材名：『基礎からわかる 論文の書き方』（講談社，2022年）ISBN:978-4065280867 1,320円(税込)</p> <p>論文を書くためには，基本的な条件を満たす必要があります。レポート課題2の研究計画を作成するために，必ず本書を読み，自分の研究したい内容を説得力のある形で伝えるように研究計画を作成してください。</p>
参考図書	<p>上記図書のほか，自らの研究を進めていくために必要な参考図書・論文について，指導教員と相談してください。研究計画書には，選択した参考図書・論文を記載してください。</p>
履修上のポイント	<p>スクーリング前半の「大学院における研究及び論文作成に必要な基礎的事項」には，①研究及び論文を遂行するための最低条件を理解する，②研究倫理を理解し研究を進めるための基本的なスキルを身につける，③研究及び論文作成のモチベーションを高める，という3つの目的がある。スクーリングを通じて修士論文を作成するために必要な研究リテラシーを涵養する。後半の「国際情報専攻分野における様々な問題」の学修において，自らの研究基盤となる知識・教養の涵養に努めること。</p> <p>研究計画は，上記スクーリング内容を踏まえ，指導教員と相談のうえ，「研究課題の明確化」と「実現可能な範囲」を意識して作成すること</p>
レポート課題1	<p>スクーリングの概要を要約し，それについての意見をまとめて提出してください。(1,000字から1,500字)。</p> <p>留意点：レポート作成に当たっては，前半の共通講義と後半の専攻ごとの講義を分けて意見をまとめてください</p>
レポート課題2	<p>スクーリングにおける各研究分野の研究手法の講義や基本教材および参考図書，並びにスクーリングでのディスカッションを踏まえて，「入学前に検討していた研究計画」を見直し，より精緻に再作成した研究計画書(3,000字から4,000字)を提出してください。</p> <p>留意点：なお，提出に先立ち，必ず指導教員のレビューを受けてください。</p>

## 基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」「研究の取り組み方」について全体的な理解をする
第2回	「学修の進め方」について教員と意見交換し、大学院の学び方を理解する
第3回	教材に基づく学修（第1章から第8章につき通読する）
第4回	教材に基づく学修（第9章から第15章につき通読する）
第5回	「学修の進捗状況・課題の取組方針」について、担当教員と認識を共有する（自らの取り組むテーマ2つを確定し、レポート作成方針のすり合わせを行う）
第6回	教材に基づく学修（テーマ①の対象章につき精読し、初期原稿を作成する）
第7回	教材に基づく学修（テーマ①に係る参考文献を探索し、提出原稿—初稿—を作成する）
第8回	レポート課題1について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第9回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第10回	教材に基づく学修（テーマ②の対象章につき精読し、初期原稿を作成する）
第11回	教材に基づく学修（テーマ②に係る参考文献を探索し、提出原稿—初稿—を作成する）
第12回	レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

## 基本教材2

第1回	三専攻合同講義 専攻主任が 分担して担当	研究及び論文作成に求められるもの（加藤孝治・釋文雄）
第2回		論文作成の基礎と先行研究のレビュー（島田めぐみ）
第3回		主な研究スタイルと論文の構成—研究目的の決め方と論証・検証の方法」（神井弘之）
第4回		研究・論文についての意見交換（グループワーク）①（神井弘之・島田めぐみ・釋文雄）
第5回		研究・論文についての意見交換（グループワーク）②（神井弘之・島田めぐみ・釋文雄）
第6回		研究倫理（釋文雄）
第7回		生成AIの使い方（島田めぐみ）
第8回	国際情報専攻 講義の順番は 変更される 可能性がある	日本政治史論（瀧川修吾）
第9回		人材マネジメント論（加藤孝治）
第10回		国際経済政策論（陸亦群）
第11回		国際法（安藤貴世）
第12回		国際秩序の行方について（日吉秀松）
第13回		グローバル経営戦略論（黒澤壮史）
第14回		国際政治論（大八木時広）
第15回		地方共生論（神井弘之）

**※各講義については、1回あたり90分で実施する。**

科目名	現代政治学特講	担当者	イデ ヤスヒト 井手 康仁	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	---------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講座はそもそも政治学の基本的テーマである民主主義とは何かという知識を修得することにより、以下の能力を身に付けることを目的とする。          コロナは言うに及ばず、格差や貧困、テロなど我々の生活を脅かす問題に対しての情報を集め、分析ができる。          既存の政治がそれらに応えることが可能なか、あるいは限界があるのか、自ら考えることができる。          現代の民主主義について、より深い見地から理解することが出来るようになることで、有権者としての自らの行動に責任を持ち、政治についてより深く理解することが出来るようになる。          現代政治の病巣でもあるポピュリズムや排外主義的な主張に対してどのような対処が可能なか、より深い理解に到達することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】          世界の現状を理解して説明し、有益な情報を選別するとともに、多角的に事象を分析し、独自の視点から解説できる力を身に付ける。</p> <p>【行動目標(SBOs)】          ① 学修者が世界各国の民主主義制度に関する情報を得た上で、各国の民主主義の特徴を比較して理解する。(知識)          ② 具体的に各国の民主主義制度に関する情報を得た上で、各国の民主主義の特徴を比較して理解する。(技能)          ③ 政治学的な理論(理想)と具体的な各国の民主主義制度(現実)の間には差異があり、そのことを理解しつつ各国の特徴にあわせた考え方を応用的に適用することで、例えば様々な選挙制度の比較や統治組織の比較など、テーマに応じて使いこなせるような思考・行動がとれる。(態度)</p>		
学修方略(方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】          まず教材を読み込むことが第一である。教科書そのものは1日あれば十分読破可能なものを選んでいますが、真に内容を理解するためには、具体的な事例の考察を自らやってみることが大切である。そのためにも、図書館を活用して教科書に挙げられている参考文献を調査するところまで進んで欲しい。そのためには、教科書読破にかかった時間の4~5倍の時間が必要であることを肝に命じて欲しい。以上より、レポート1本あたり、基本教材の熟読、初稿の作成、教員指導に基づく提出原稿の修正をあわせて45時間程度を要する。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】          Manaba folio並びにメールのやり取りによるインタラクティブな添削指導を実施する。また、科目の性質上、受講生の考え方を最大限に尊重してそれを発展させられるように、科目担当者の意見を押し付けるようなやり方の指導は行わない。</p>		
スケジュール	<p>前期：基本教材1のレポート課題1の最終稿は7月末までに提出。レポート課題2の最終稿は9月初旬までに提出。最終期限は学事曆に従う。          後期：基本教材1のレポート課題の最終稿は11月末までに提出。レポート課題2の最終稿は1月初旬までに提出。最終期限は学事曆に従う。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材の内容を十分に理解し、かつ自分の意見や主張を反映させたレポートになっているかどうか。	70%
	観察記録	意見交換などのプロセスを含めて、その取り組みの姿勢などを平常評価として勘案する。	30%
履修者への要望	<p>各教材、参考図書の意味内容の把握だけに終わることなく、こんにちの政治状況全般に関心を持ち、問題点を把握し、改善策を考えるなど、自らの意見が持てるように努力をすること。そのためにも、日頃から各種のニュースに関心を持ってほしい。他方で、ニュースで取り上げられた出来事だけが全てではないということにも注意して欲しい。例えば、最近の日本では高齢ドライバーの事故のニュースが連日のように報道されていて、ともすれば若者に比べて高齢者は非常に事故を起こしやすいので運転免許を取り上げなければといった議論に行き着きやすいが、実際には、10代、20代のドライバーによる事故発生率の方がはるかに高いのが現実である。マスコミが選んだ報道した出来事がニュースとなり、報道されなかったことに関しては、我々が知らないだけである。報道のみに依拠して議論することは危険であり、何事においても議論をする際には、自分の力で正しい資料を入手した上で議論をはじめると心に掛けて欲しい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：森政稔 教材名：『迷走する民主主義』（筑摩書房，2016年） ISBN:978-4-480-06881-1 1,000円+税
	主に最近の日本政治を題材として、民主主義の意義と限界を思想的に問い直して、現在の閉塞状況を打破するためにはどうすればよいかについて考える。
参考図書	荏部直・宇野重規・中本義彦編『政治学をつかむ』（有斐閣，2011年） ISBN:978-4-641-17715-4 2,200円+税
履修上のポイント	世界が目まぐるしく変動する中で、現代の民主主義が直面している困難について考えるとともに、民主主義をどのように変革していくべきかを考える。民主主義の起源は紀元前に遡るが、近・現代の民主主義は、時代に合わせて何度もモデルチェンジされながら、それぞれの時代に適応させて生き続けてきた。民主主義を我々の生活に活かすためにはどうすれば良いか、自分自身のこととして考えてみよう。
レポート課題1	現代の民主主義のメリットとデメリットとはどういった点だろうか。独裁体制のメリットとデメリットと比較しながら論じなさい。 留意点：教材を熟読した上で、具体的な例を挙げて論じて欲しい。
レポート課題2	弱者に厳しく彼らの利益にはなりそうにない新自由主義的な政府が、なぜ弱者によって支持される傾向が世界各地でみられるのか考察しなさい。 留意点：教材を熟読した上で、具体的な例を挙げて論じて欲しい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：中谷義和・川村仁子・高橋進・松下冽編 教材名：『ポピュリズムのグローバル化を問う 揺らぐ民主主義のゆくえ』（法律文化社，2017年） ISBN:978-4-589-03839-5 4,800円+税
	最初にポピュリズムとはどのような性格を持つものであるかについて検討した上で、各国のポピュリズムについて、それぞれの国の歴史的・文化的背景から分析するものである。
参考図書	W. リップマン著，掛川トミ子訳『世論(上・下)』（岩波書店，1987年） ISBN:978-4-589-03839-5 4,800円+税
履修上のポイント	21世紀になってから、ポピュリズム、ポピュリストという言葉がメディアに登場するようになった。そしてトランプ・アメリカ大統領登場以降、ポピュリズムという言葉は現代政治を説明するために不可欠な言葉となった気がする。ポピュリストと呼ばれるこんにちの政治家達は、どのようにして世論を動かし、味方に付けているのか考えてみよう。
レポート課題1	世論はどのように形成されるのか。世論はどのように操作される可能性があるのか。例えば日本の原発問題や、アメリカ大統領選挙での一連のトランプの行動など、具体的な事例を挙げて論じなさい。 留意点：教材を熟読した上で、具体的な例を挙げて論じて欲しい。
レポート課題2	あなたがポピュリストであると考えて現代の政治家1人を挙げて、どのような点においてそう考えられるか、具体的な政策や言動について検証しながら論じなさい。 留意点：教材を熟読した上で、具体的な例を挙げて論じて欲しい。

基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」についての全体像を理解し、教材に基づく学修①を行う
第2回	「学修の進め方」について理解を深め、教材に基づく学修②を行う
第3回	教材に基づく学修③(そもそも民主主義とは何か)
第4回	教材に基づく学修④(民主主義の歴史と成り立ち)
第5回	教材に基づく学修⑤(日本の民主主義度は他の民主主義国と比べてどの程度か)
第6回	教材に基づく学修⑥(理想の民主主義の条件について考える)
第7回	教材に基づく学修⑦(最もあなたの理想に近い民主主義国はどこか考える)
第8回	教材に基づく学修⑧(失敗した民主主義について考える)
第9回	教材に基づく学修⑨(民主主義の限界について考える)
第10回	レポート課題1に取りかかる
第11回	必要に応じてレポート課題に関して教員と意見交換する
第12回	レポート課題1を完成させる
第13回	レポート課題2に取りかかる
第14回	必要に応じてレポート課題に関して教員と意見交換する
第15回	レポート課題2を完成させる

## 基本教材2

第1回	「学ぶべき課題」についての全体像を理解し、教材に基づく学修①を行う
第2回	「学修の進め方」について理解を深め、教材に基づく学修②を行う
第3回	教材に基づく学修③(そもそもポピュリズムとは何か)
第4回	教材に基づく学修④(ポピュリズムの歴史)
第5回	教材に基づく学修⑤(ポピュリズムの危険性)
第6回	教材に基づく学修⑥(世界のポピュリズム)
第7回	教材に基づく学修⑦(日本のポピュリズム)
第8回	教材に基づく学修⑧(ポピュリズムとナショナリズム)
第9回	教材に基づく学修⑨(ポピュリズムと世論)
第10回	レポート課題1に取りかかる
第11回	必要に応じてレポート課題に関して教員と意見交換する
第12回	レポート課題1を完成させる
第13回	レポート課題2に取りかかる
第14回	必要に応じてレポート課題に関して教員と意見交換する
第15回	レポート課題2を完成させる

科目名	国際法特講	担当者	アンドウ タカヨ 安藤 貴世	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	-------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	国際法は国家間関係を規律する法であるが、今日、その規律対象は国家に留まらず、国際機関、個人などにも及ぶ。本講座は、こうした点を念頭に、国際法の形成と発展、国際法の主体、領域、武力行使禁止原則など、国際法の基本構造を理解したうえで、現代の国際社会が直面している個別具体的な論点や課題について国際法の観点から検討し、理解する力を身につけることを目的とする。								
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の現状を理解し、自らの言葉で説明する力を身につけることができる。</li> <li>現代の国際社会が直面する諸問題を発見し、国際法を手掛かりに論理的かつ批判的に思考することができる。さらにそれら諸問題の解決策について提案することができる。</li> </ul> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国際法の形成と発展について、国際法の主体(国家、国際機関、個人など)について留意しつつ、理解する(知識)。</li> <li>国際紛争の平和的解決における国際法の役割について、自らの言葉で説明する力を身につける(知識、技能、態度)。</li> <li>国際安全保障、紛争解決、領域などをめぐる現代的な諸問題について、国際法を手掛かりに検討し、自らの言葉で説明する力を身につける(知能、技能、態度)。</li> </ol>								
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>学修方略</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材、参考図書を熟読する(自習: SBOs①)。必要に応じて関連図書・文献などを参照する(自主研究: SBOs②)。そのうえで、レポート課題に沿って各レポートを作成する(レポート作成: SBOs③)。</li> <li>レポート作成に際しては、オンラインを通じた教員からの指導、コメントや双方向的な質疑応答に基づいて修正を重ね、最終的なレポートを完成させる。また必要に応じて対面指導も取り入れ、レポートの作成、履修生の学修を補完する(ディベート: SBOs④)。</li> </ul> <p>学修時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1つにつき、完成までに最低45時間の学修時間を要するものとする。目安の時間は以下の通りとする。</li> <li>基本教材および参考文献の読み込み: 20時間以上/レポート1本</li> <li>レポート執筆: 10時間以上/レポート1本</li> <li>レポートの推敲・最終稿の完成(教員とのやり取りを含む): 15時間以上/レポート1本</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folioを使用し、教員と院生との間での双方向性を重視した添削指導を実施する。</p>								
スケジュール	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1については初稿を7月末、レポート課題2については初稿を8月末を目安に提出すること。その間、レポート作成に関する質問・疑問に対しては適宜オンライン等を通じて対応する。</li> <li>最終稿は、レポート課題1、2ともに学事暦で定められた日までに提出する。</li> </ul> <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1については初稿を11月中旬、レポート課題2については初稿を12月中旬を目安に提出すること。その間、取り上げるテーマ、レポート作成に関する質問・疑問に対しては適宜オンライン等を通じ指導、対応する。</li> <li>最終稿は、レポート課題1、2ともに学事暦で定められた日までに提出する。</li> </ul>								
成績評価	種別	評価基準							割合
	レポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材、参考図書、その他の文献を用い、課題に沿った十分な検討がなされているか。</li> <li>レポートの構成、論理展開が明確か。</li> <li>脚注、参考文献リスト等レポートの体裁が整っているか。</li> </ul>							80%
	観察記録	教員からのコメントに対する対応、質疑応答など、レポートの最終稿提出までの取り組みを評価する。							20%
履修者への要望	基本教材の理解を前提としつつ、参考図書やそれ以外の関連文献をリサーチしたうえで、テーマ設定、レポート作成を行うことが求められる。レポート作成にあたっては、単に基本教材等をまとめるだけでなく、国際社会における現代的な問題に関心を寄せ、それらの問題について、国際法をとおり論理的に議論を展開することを心掛けてほしい。								

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：柳原正治、森川幸一、兼原敦子（編） 教材名：柳原正治ほか『プラクティス国際法講義 第4版』（信山社、2023年）ISBN 9784797225624 3900円＋税
	国際法のスタンダードなテキストであり、国際法の歴史的背景や国際的原則の形成過程について体系的に解説している。
参考図書	・浅田正彦（編）『国際法（第6版）』（東信堂、2025年）ISBN 978-4-7989-1946-1 本体¥3000+税 ・植木俊哉、中谷和弘（編代）『国際条約集 2025年版』（有斐閣、2025年）ISBN 978-4-641-00162-6 3000円＋税（2026年版は2026年3月に発売予定。条約集を初めて入手する場合には、2026年版を購入して下さい。なお、『国際条約集』は最新版でなくとも構いません。）
履修上のポイント	それぞれのレポート課題の留意点に沿って、基本教材のほかにも、参考図書や必要に応じて、関連の文献なども参照しつつレポートをまとめること。特に、国際法の形成と発展の過程、国際法の基本原則たる武力行使禁止原則について十分に理解し考えることは、今後の学修における基盤となる。
レポート課題1	国際法の形成と発展について、国際法の主体にも留意しつつ論じなさい（4000字程度）。  留意点：基本教材第1、6、7章などを参照しつつ、国際法の形成および発展の歴史について、伝統的主体である国家のみならず、国際機構、個人なども国際法の主体と認められるようになった過程についても留意したうえで論ずること。
レポート課題2	戦争違法化、武力行使規制の歴史について整理したうえで、武力行使禁止原則の例外について国連憲章の規定を挙げつつ論じなさい（4000字程度）。  留意点：基本教材第22章などを参照しつつ、戦争違法化の系譜と国連憲章の規定について留意しつつ論ずること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：柳原正治、森川幸一、兼原敦子（編） 教材名：柳原正治ほか『プラクティス国際法講義 第4版』（信山社、2023年）ISBN 9784797225624 3900円＋税
	国際法のスタンダードなテキストであり、国際法の歴史的背景や国際的原則の形成過程について体系的に解説している。
参考図書	・浅田正彦（編）『国際法（第6版）』（東信堂、2025年）ISBN 978-4-7989-1946-1 本体¥3000+税 ・植木俊哉、中谷和弘（編代）『国際条約集 2025年版』（有斐閣、2025年）ISBN 978-4-641-00162-6 3000円＋税（2026年版は2026年3月に発売予定。条約集を初めて入手する場合には、2026年版を購入して下さい。なお、『国際条約集』は最新版でなくとも構いません。）
履修上のポイント	それぞれのレポート課題の留意点に沿って、基本教材のほかにも、参考図書や必要に応じて、関連の文献なども参照しつつレポートをまとめること。特に、レポート1、2ともに、取り上げるテーマについては、現代的な問題・課題を念頭に置きつつ、担当教員に相談したうえで決定すること。
レポート課題1	「難民の保護」、「個人の国際犯罪」、「人権の国際的保障」をめぐる現代的問題からテーマを1つ設定し、国際法の観点から論じなさい（4000字程度）。  留意点：基本教材第16、17、18章などを参照しつつ、担当教員と相談のうえテーマを設置し、レポート課題に取り組むこと。
レポート課題2	「領土」、「海洋」、「国際環境保護」をめぐる現代的問題からテーマを1つ設定し、国際法の観点から論じなさい（4000字程度）。  留意点：基本教材第12、13、14、20章などを参照しつつ、担当教員と相談のうえテーマを設置し、レポート課題に取り組むこと。

## 基本教材1

第1回	教材の学習および本講座の課題の理解
第2回	基本教材1に基づく学修①（国際法の形成と発展について）
第3回	基本教材1に基づく学修②（国際法の主体について）
第4回	参考図書に基づく学修（国際法の形成と発展，国際法の主体について）
第5回	レポート課題1の作成：初稿の執筆
第6回	レポート課題1の作成：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1の作成：ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1の作成：最終稿の作成
第9回	基本教材1に基づく学修③（戦争違法化，武力行使規制の歴史について）
第10回	基本教材1に基づく学修④（武力行使禁止原則の例外について）
第11回	参考図書に基づく学修（戦争違法化，武力行使規制の歴史，武力行使禁止原則の例外について）
第12回	レポート課題2の作成：初稿の執筆
第13回	レポート課題2の作成：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート2の作成：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2の作成：最終稿の作成

## 基本教材2

第1回	教材の学習および本講座の課題の理解，課題として取り上げる題材の検討
第2回	基本教材2に基づく学修①（難民の保護，個人の国際犯罪，人権の国際的保障のいずれかについて）
第3回	基本教材2に基づく学修②（3つの問題のいずれかに関する現代的な問題について）
第4回	参考図書に基づく学修（難民の保護，個人の国際犯罪，人権の国際的保護のいずれかについて）
第5回	レポート課題1の作成：初稿の執筆
第6回	レポート課題1の作成：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1の作成：ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1の作成：最終稿の作成
第9回	基本教材2に基づく学修③（領土，海洋，国際環境保護のいずれかについて）
第10回	基本教材2に基づく学修④（3つの問題のいずれかに関する現代的な問題について）
第11回	参考図書に基づく学修（領土，海洋，国際環境保護のいずれかについて）
第12回	レポート課題2の作成：初稿の執筆
第13回	レポート課題2の作成：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2の作成：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2の作成：最終稿の作成

科目名	国際政治論特講	担当者	シノブ タカシ 信夫 隆司	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	---------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	本講義は、以下のふたつを目的とする。 ひとつは、国際政治とは何か、現在の国際政治状況において何が問題になっているのか、問題の解決策として何が考えられているのかについて、総合的な理解を得ることができるようにすることである。 もうひとつは、日本外交においてもっとも重要な対米関係の理解に資することである。とくに、米兵の刑事裁判権の問題を取り上げる。これにより、個別・具体的な事例を通して、日米間に横たわる本質的な問題とは何かを理解できるようにする。		
到達目標	<b>【一般目標(GIO)】</b> 国際政治の全般的な理解に資するとともに、具体的な事例を通して、問題の掘り下げ方、資料収集・分析の仕方を学び、国際政治の問題をいかに掘り下げるか・考えるかを学修する。 <b>【行動目標(SBOs)】</b> ・現在の国際政治事象について、歴史的経緯を踏まえながら、体系的に説明できるようにする(知識・想起) ・歴史的事象の理解にあたり、国際政治に関する理論がどのように役立っているのか、論理的かつ批判的な思考ができる(知識・解釈) ・具体的な事例を通して、その問題点とは何か、どのような考察が可能かを展開できる(技能・問題解決)		
学修方略(方法)	<b>【学修方略(LS)と学修時間】</b> リポートの作成1本につき、最低45時間を要する。具体的には、基本教材の理解(10時間)、リポート課題に関する参考文献の理解(10時間)、リポートの初稿作成(15時間)、レポートの加筆・修正(10時間)である。リポートの作成方法については、事前に連絡のこと。 <b>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</b> Manaba-Folio・メール・Zoomなどを利用し、教員と院生との間で、双方向による指導をおこなうこととする。		
スケジュール	(1) 最終レポートの提出は、学年暦で定められた期限によること。 (2) リポート初稿の提出は、前期では7月15日、後期では11月15日までとする。その過程で、必要に応じ、質疑応答をおこなう。 (3) 初稿レポートに修正を施し、訂正を加えただけで、期限までに最終稿を提出する。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題に沿って、レポートが作成されていること。</li> <li>・レポート作成に必要なリサーチが十分におこなわれていること。</li> <li>・レポートとしての形式を備えていること。</li> </ul>	70%
	観察記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員とのやりとりが十分におこなわれていること。</li> <li>・初稿へのアドバイスが最終稿に反映されていること。</li> </ul>	30%
履修者への要望	国際政治が扱うテーマは、往々にして、われわれの身近な生活とは無関係なように思われるかもしれませんが、しかし、軍事的な安全保障の問題は言うに及ばず、通商問題あるいは地球環境問題などは、われわれの生活に密接に関連しています。 そこで、世界ではあんなことが起こっているんだ、こんなことが起こっているんだという事実関係を知るだけではなく、それがわたしたちの暮らしにどのように影響を及ぼすのか、あるいは、今後の日本社会がどのように変わっていくのかという視点から、自らの問題としてとらえ、自分なりの考え方を養っていった欲しいと思います。 なお、レポートの作成方法については、ガイドラインを作成しております。レポートを作成する前に連絡していただければお送りします。		

【レポート課題】

<b>基本教材 1</b>	
教材の概要	著者名：佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄・山本直(編) 教材名：『国際関係論(第4版)』、弘文堂、2025年。 この本は、2025年1月刊行です。第4版ですので、間違えないようにしてください。 本書は、「国際関係論」というタイトルがついているが、内容は「国際政治」と変わらない。国際政治の歴史、国際政治の現状分析、国際政治の理論、現代国際政治の課題についてまんべんなく取り扱われており、国際政治全般を理解するのに役立つ。
参考図書	参考図書はかならずしもどれか一冊というわけではないので、受講者の履修の進行に応じ、その都度、適切な参考図書を紹介することとする。
履修上のポイント	(1) 国際政治学が誕生したといわれる第一次世界大戦以降から今日までの国際政治の歴史的な流れを理解する。 (2) 国際政治理論とはなにか、その役割は何か、理論はどの程度役立つのかを理解する。 (3) 冷戦終焉後のグローバリゼーション、安全保障問題、日本外交の概要を理解する。 (4) 現代国際政治の課題である南北問題、地球環境問題、非国家アクターや市民社会のあり方を理解する。
レポート課題1	冷戦期の国際政治と冷戦後の国際政治とを比較しながら、何がどのように変わったのか、国際政治の理論と関連つけて論じなさい(4,000字程度)。 留意点：歴史的経緯と理論とを結びつけて考える。
レポート課題2	基本教材 I の第Ⅱ編および第Ⅲ編から、自ら関心を有するテーマをひとつ選択し、そのテーマの概要・問題点を論じるとともに、そのテーマに関する私見を述べなさい(4,000字程度)。 留意点：客観的に論じる部分と私見はきちんとわけること。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：信夫隆司            教材名：『米兵はなぜ裁かれないのか』、みすず書房、2021年。            ISBN：9784622090380 3,800円＋税</p> <p>本書は、日本に駐留する米兵が日本法に触れる刑事上の罪を犯した場合、その者がどの程度裁かれているのかを明らかにしたものである。こうした問題が世間の耳目に触れる場合は多くはないが、今日の日米関係を理解するうえにおいて重要なテーマである。</p>
参考図書	<p>信夫隆司            『米軍基地権と日米密約—奄美・小笠原・沖縄返還を通して』岩波書店、2019年。            ISBN：9784000247269 5,800円＋税</p>
履修上のポイント	<p>(1) なぜ米兵の刑事裁判権が問題となるかを理解する。            (2) 1995年以降において、日米地位協定の刑事裁判権条項の運用がどのように改善されたのかを理解する。            (3) 他国、とりわけ、フィリピン、韓国、アイスランド、オランダ、ドイツ等がアメリカと締結した地位協定の刑事裁判権条項がどのようになっているかを理解する。            (4) 刑事裁判権における公務犯罪、刑事裁判権放棄、身柄拘束の問題を理解する。</p>
レポート課題1	<p>日米地位協定における刑事裁判権条項は、1995年以降、運用の改善がはかられている。どのようなことを契機に、いかに運用が改善されたのか、その問題点を論じなさい（4,000字程度）。            留意点：地位協定の規定と運用が改善された点とを明確にすること。</p>
レポート課題2	<p>米兵及び軍属の公務上の犯罪は、日米地位協定上、米側に第一次裁判権がある。米兵等の公務犯罪の具体例を挙げ、その問題点を指摘すると共に、私見を述べなさい（4,000字程度）。            留意点：客観的に論じる部分と私見はきちんとわけること。</p>

### 基本教材1

第1回	教材の学修（第1章 国際関係論はどのような学問か、第2章 20世紀の国際関係）
第2回	教材の学修（第3章 今日の国際関係）
第3回	教材の学修（第4章 グローバリゼーション、第5章 現代の安全保障）
第4回	教材の学修（第6章 北東アジア、第7章 国際社会における日本の位置づけ）
第5回	教材の学修（第8章 国際関係理論、第9章 国際レジーム論）
第6回	教材の学修（第10章 欧州統合、第11章 南北問題）
第7回	教材の学修（第12章 地球環境問題）
第8回	教材の学修（第13章 非国家アクター、第14章 市民社会）
第9回	教材の学修（第15章 国際紛争・国内紛争）
第10回	レポート課題1、2の初稿提出
第11回	添削指導に基づき、関連文献のリサーチ
第12回	添削指導に基づき、加筆・修正
第13回	添削指導に基づき、加筆・修正
第14回	添削指導に基づき、加筆・修正
第15回	最終稿提出

## 基本教材2

第1回	教材の学修（序章 刑事裁判権問題とは何か）
第2回	教材の学修（序章 刑事裁判権問題とは何か）
第3回	教材の学修（第一章 日米地位協定の運用改善）
第4回	教材の学修（第一章 日米地位協定の運用改善）
第5回	教材の学修（第二章 米比軍事基地協定の失効）
第6回	教材の学修（第三章 米韓地位協定の改正）
第7回	教材の学修（第四章 公務犯罪）
第8回	教材の学修（第五章 刑事裁判権放棄）
第9回	教材の学修（第六章 身柄拘束）
第10回	教材の学修（終章 刑事裁判権条項をどのように変えるか）
第11回	レポート課題1、2の初稿提出
第12回	添削指導に基づき、加筆・修正
第13回	添削指導に基づき、加筆・修正
第14回	添削指導に基づき、加筆・修正
第15回	最終稿提出

科目名	国際政治論特講	担当者	オオヤギ トキヒロ 大八木 時広	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	---------	-----	---------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	現代国際政治の多面的性質を把握し理解することを目的として国際政治学を学ぶ。具体的にはまず前半では国際政治学のテキストを用いて、紛争、対立、外交、グローバルな課題といったテーマを柱に歴史と理論の両面において学習者が自発的な学びを進めていく。 また後半は現代のウクライナ戦争の事例を取り上げて、前半の基礎編で学んだ知見を具体的事例の解明と把握に役立てていくことにより国際政治の学びの力を身に付けていく。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>国際政治の基本的性質を全般的に理解し、個別具体的な事件や事例を通して、問題を掘り下げる方法、資料の収集や分析の方法を学ぶ。あわせて国際問題をどのように掘り下げ、かつ考察していくかを学修する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的背景や経緯を踏まえつつ、現代の国際政治に関して体系的に説明できるようにする (知識・想起)。</li> <li>・歴史上の出来事を理解し説明する際に、国際政治学の知識と理論を駆使して論理的、批判的な思考ができる (知識・解釈)。</li> <li>・具体的な出来事や事例において、その問題が何であるか、どのように解釈するか展開できる (技能・問題解決)。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>レポートの作成1本につき、最低45時間が必要となる。その内訳は、基本教材の理解 (10時間)、レポート課題に関する参考文献の理解 (10時間)、レポートの初校作成 (15時間)、レポートの加筆・修正 (10時間) となる。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>NUメール、Zoomなどのオンラインツールなどを用いて、教員と院生の間で双方向による指導をおこなう。</p>		
スケジュール	<p>1) 最終レポートの提出締め切りは、学事歴で定められた期限による。</p> <p>2) レポートの初校提出は、前期は7月中旬を予定し、後期は11月中旬を予定する。その間に必要に応じて質疑応答をおこなう。</p> <p>3) レポートの初校に必要な応じて修正をおこない、訂正をしたうえで期限までにレポートの最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題に沿ってレポートが作成されていること。</li> <li>・レポートの作成に必要なリサーチが十分になされていること。</li> <li>・レポートの形式を踏まえていること。</li> </ul>	70%
	観察記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員側とのコミュニケーションが十分にとられていること。</li> <li>・教員側からのアドバイスがレポートの最終稿に適切に反映されていること。</li> </ul>	30%
履修者への要望	<p>国際政治は「大きなお話」であり、私たちの日常とはあまり関係ないように思われがちです。どこか遠くで起こっている、私たちとは無縁の出来事のようにみえます。しかしその「大きなお話」が私たちの社会に入り込み、私たちの安全や暮らしを脅かすかもしれない、あるいはすでに脅かしている、といった問題意識をぜひもっていただけたらと思います。</p> <p>思い込みや常識はいったん捨てて、研ぎ澄ました目、現実をしっかりと見据えた目で世界を見ていきましょう。新たな発見、思わぬ視点が見つかるかもしれません。そうした「気づき」も大事にしていきましょう。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：ジョセフ・S・ナイ・ジュニア/ディヴィッド・A・ウェルチ 教材名：『国際紛争-理論と歴史』（原書第10版）有斐閣，2023年。ISBN:978-4-641-14917-5 3,000+税
	アメリカの著名な国際政治学者によるテキストであり、日本をはじめとして各国で使われています。最新の理論動向や研究動向を盛り込むために頻繁に改訂版が出されているのが特徴です。比較的平易な文章で高度な内容を読み解くという点で、初級者はもちろん大学院生初年度の中級者にも有用なテキストといえます。本講座で用いるのは原書第10版の翻訳版ですので、購入の際はご注意ください。
参考図書	本テキストには詳細な参考文献欄が付されており、その中から適時紹介する予定。
履修上のポイント	(1) リアリズム、リベラリズム、といった主な国際政治理論の概要を把握する。 (2) 国際政治史の流れを、とくに20世紀の冷戦を柱として把握する。 (3) コンストラクティビズムをはじめとした新たな国際政治理論の潮流を把握する。 (4) 地球環境問題、地域紛争など現代世界が抱える課題を、国際協調の視点から把握し理解する。
レポート課題1	リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムそれぞれの国際政治理論の概要をまとめてください。その上で、それぞれの理論の長所、短所を指摘してください。(4000字程度)  留意点：最初にそれぞれの理論の共通点と相違点を整理しておくのが効果的です。
レポート課題2	グローバルな課題をリアリズム、リベラリズムをそれぞれの理論を用いて論じてください。(4000字程度)  留意点：グローバルな課題とは、例えば、環境、情報、軍縮などが当てはまります。いずれか一つを取り上げてレポート課題を作成してください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：小原雅博 教材名：「外交とは何か-不戦不敗の要諦」中公新書，2025年。ISBN978-4-12-102848-8，税込み1100 円+税。
	外交官として活躍した後、研究者に転じた、実務と理論の両方に長じた著者による外交論。日本外交の起源である明治から、大正、昭和、そして令和の現代へと至る外交史を、政治や軍事との関係を絡めつつ論じていく。具体的には、外交における国際法と力の問題、内政と外交の連繋、国益とパワー、外交と地政学などの関係を解き明かしていく。
参考図書	本テキストには詳細な参考文献欄が付されており、その中から適時紹介する予定。
履修上のポイント	外交とは何か、日本外交は明治以来どのような変遷を遂げてきたか、変わらなかったものは何か、外交に必要な要素とは何かを把握し理解する。
レポート課題1	近代日本の外交の変遷を、明治から戦前までを中心にまとめてください。(4000字程度)  留意点：政軍関係（政治と軍事の関係）が明治から大正を経て戦前期に同様な変遷を遂げたかに注目してください。
レポート課題2	外交力の要素について、テキスト第6～7章などを中心に参照して論じてください。(4000字程度) 留意点：それぞれの要素についてまとめるだけでなく、それらの要素がどのように有機的に結びついているかに注目してください。

### 基本教材1

第1回	教材の学修（第1章）
第2回	教材の学修（第2章）
第3回	教材の学修（第3章）
第4回	教材の学修（第4章）
第5回	教材の学修（第5章）
第6回	教材の学修（第6章）
第7回	教材の学修（第7章）
第8回	教材の学修（第8章）
第9回	教材の学修（第9章）
第10回	レポート課題1, 2の初校提出
第11回	添削指導に基づき, 加筆・修正
第12回	添削指導に基づき, 加筆・修正
第13回	添削指導に基づき, 加筆・修正
第14回	添削指導に基づき, 加筆・修正
第15回	最終稿提出

### 基本教材2

第1回	教材の学修（序章 外交とは何か）
第2回	教材の学修（第1章 日本外交史の光と影 1「調和」の時代）
第3回	教材の学修（第1章 日本外交史の光と影 2「攻防」の時代）
第4回	教材の学修（第1章 日本外交史の光と影 3「崩壊」の時代）
第5回	教材の学修（第2章 戦前の教訓と戦後の展開）
第6回	教材の学修（第3章 法と力）
第7回	教材の学修（第4章 内政と外交）
第8回	教材の学修（第7章 外交力の要諦）
第9回	教材の学修（終章 試練の日本外交）
第10回	レポート課題1, 2の初校提出
第11回	添削指導に基づき, 加筆・修正
第12回	添削指導に基づき, 加筆・修正
第13回	添削指導に基づき, 加筆・修正
第14回	添削指導に基づき, 加筆・修正
第15回	最終稿提出

科目名	多文化共生論	担当者	イチオカ タカシ 市岡 卓	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	--------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>グローバル化の進展に伴う社会の多文化化は、世界の各地で進展している。このような状況を踏まえ、多文化化が進展する社会において、多様なアイデンティティを持つ人々の共生がいかにか実現するかを考察することを通じて、現代社会に対する深い洞察力を得ることを目的とする。</p> <p>そのための前提として、グローバルな人の移動によって社会にどのような変化が生じているのか、特に、トランスナショナリズムと呼ばれる現象について理解を深める。また、多文化主義の理念や政策の背景にある考え方、その実践、それに内在する課題についても理解を深める。その上で、具体的事例について調査し、最新時点の状況を踏まえ分析・考察を行う能力を身に着ける。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 多文化社会に関する基本的な知識に基づき、グローバルな人の移動によって生まれる課題に対し、十分な調査と考察に基づく解決策を提案できるようになる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ①トランスナショナリズムや多文化主義に関する基本的な考え方について理解する。(知識) ②具体的な事例について文献やデータを探索し、調査・分析することで、自分なりの視点や考察結果を論理的に提示できる。(技能) ③多文化社会に生きる人々の立場を想像し、その社会の改善の方向を真摯に考える姿勢を身に着ける。(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 ・教材・参考図書を熟読し、そこで示された関連文献も参考にしつつ、レポートのドラフトを作成する。ドラフトの前にスケルトン(骨子案)を作成すると、考察を進めやすい。【15時間/レポート1本】 ・さらに考察を深め、レポートの初稿案を作成し提出する。教員との意見交換を行い、さらに材料を集めたり考察を深めたりするべきポイントについて指摘を受ける。受講者同士のディスカッションにより互いに学び合う場を設けることも検討する。【15時間/レポート1本】 ・教員からの指摘を踏まえて内容の修正・充実を図り、レポートの最終稿を完成させる。【15時間/レポート1本】 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・教員と十分に意見交換をしながら進める。 ・必要に応じ、レポート案についての受講者同士のディスカッションなど協働学修を取り入れる。(アクティブラーニング) ・具体的な事実に基づく考察が不可欠であるため、教材・参考図書以外の書籍、論文、記事等についても十分に調査を行う必要がある。関係する学会誌に掲載された論文や、ネットメディアの記事もチェックすることが求められる。</p>		
スケジュール	<p>①受講開始から約1か月後の時点でレポート作成の方向性が定まらない場合は、教員と意見交換を行うこと。 ②レポートの初稿提出前のスケルトンあるいはドラフトの段階で、教員と意見交換を行うことを推奨する。 ③最終稿提出までにレポート案を提出してもらい、複数回の意見交換を行っていくので、遅くとも最終稿提出期限の1か月前には初稿を提出すること。 ④最終稿提出期限は学事暦に従う。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<p>①教材の内容を十分に理解できているか。 ②教材以外の資料、文献等を十分に調査できているか。 ③独自の考察ができているか。 ④主張したいことを論理立てて明確に表現できているか。</p>	80%
	観察記録	<p>①初稿提出の期限(最終稿提出の1か月前)が守られたか(減点項目)。 ②最終稿提出までに教員と複数回のレポート案の交換ができたか。</p>	20%
履修者への要望	<p>事実に基づく適切な考察ができるよう、材料集め(調査)に十分な時間をかけていただきたい。また、レポートでは自分独自の考察をすることが必要であるので、すでに分かっていること、既存の研究で言われていることをまとめるだけでなく、自分の主張を最大限盛り込むよう取り組んでいただきたい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：西原和久・樽本英樹編 教材名：『現代人の国際社会学・入門』（有斐閣、2016年） ISBN:978-4-641-17421-4 2,300円＋税
	国境を越える人の移動に伴う「トランスナショナリズム」という現象の意味、その意義や帰結について論じている。また、各地域の専門家による世界各地のトランスナショナリズムについて、その歴史的経緯、現状、課題などを分かりやすく解説している。本書は、多文化共生について学修する本授業の導入として有益である。
参考図書	宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編『国際社会学』（有斐閣、2015年） ISBN:978-4-641-17406-1 2,500円＋税 石井香世子編『国際社会学入門』（ナカニシヤ出版、2017年） ISBN:978-4-7795-1134-9 2,200円＋税
履修上のポイント	まず、基本教材により、トランスナショナリズムの概念について理解を深める必要がある。その上で、参考図書も参考にし、トランスナショナリズムというパースペクティブを踏まえながら、国境を越える人の移動によって起こっている多文化化という状況、それがもたらす社会課題について理解を深める。これらの学修を通じ、グローバル化の中の社会のありさまを見る目を養っていただきたい。
レポート課題1	トランスナショナリズムとはどのような現象か、また、それは単なる「人の移動の増加」とどう異なるのかについて、具体的な国または社会における事例をもとに考察し、自分の考えを論じる。（3,000～4,000字程度。目安であり、これを超えてもよい。） 留意点：参考図書も参照しながら、トランスナショナリズムという現象の意味や意義について十分に理解を深める必要がある。
レポート課題2	国際社会学の観点から、グローバル化による変化に対応するために社会が取り組むべき課題と、それへの対応の方向性について、具体的な国または社会におけるテーマを設定し、自分の考えを論じる。（3,000～4,000字程度。目安であり、これを超えてもよい。） 留意点：最新時点の特定の国や社会の状況について調べた上で、課題への対応の方向性について具体的に論じる必要がある。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：塩原良和 教材名：『変貌する多文化主義：オーストラリアからの展望』（法政大学出版局、2010年） ISBN:978-4-588-60312-9 3,000円＋税
	社会における多様性を承認し、尊重する「多文化主義」の思想・政策の歴史、実践、変容について論じている。刊行から10年以上がたっているが、多文化主義に内在する問題についても論じられており、2010年代に入ってヨーロッパで「多文化主義は失敗した」という言説が出てきたことも含め、多文化主義について理解する助けになる内容である。
参考図書	宮島喬『多文化であることとは：新しい市民社会の条件』岩波現代新書（岩波書店、2014年） ISBN:978-4-00-029121-7 2,300円＋税 飯田文雄編『多文化主義の政治学』（法政大学出版局、2020年） ISBN:978-4-588-60359-4 3,800円＋税
履修上のポイント	多文化主義は、「移民国家」と呼ばれるカナダやオーストラリアで1970年代から導入された思想・政策であり、その後ヨーロッパにも広まっている。特定の国の政策というよりは、多様性を積極的に承認・尊重しようとする理念、政策の方向性ととらえるべきである。「多文化主義は失敗した」という言説が出てきているが、多様性の承認・尊重という多文化主義の意義自体が失われたわけではないと考えられるが、どうだろうか。こういった点も含め考察を深めていただきたい。
レポート課題1	文化的差異の承認はなぜ重要なのかについて、具体的事例を踏まえ考察し、自分の考えを論じる。（3,000～4,000字程度。目安であり、これを超えてもよい。）「文化的差異の承認」の意味については、参考図書の宮島（2014）の第3章でよく確認すること。「文化的差異の承認＝多文化共生」のように理解しないこと。 留意点：最新時点の状況について自分で調べ、論拠を示しながら論じる。
レポート課題2	多文化主義に内在する課題と、それをいかに乗り越えるべきかについて、具体的な事例を踏まえ考察し、自分の考えを論じる。（3,000～4,000字程度。目安であり、これを超えてもよい。） 留意点：多文化主義をめぐる様々な論議を踏まえて論じる。

## 基本教材1

第1回	学ぶべき課題について理解をしてから、教材に基づく学修①（グローバリゼーションの状況）を行う
第2回	学修の進め方について教員との意見交換を通じて理解し、教材に基づく学修②（トランスナショナリズムとは何か）を行う
第3回	教材1に基づく学修③（人の移動と移民ネットワーク）
第4回	教材1に基づく学修④（移民と社会階層）
第5回	教材1に基づく学修⑤（日本におけるトランスナショナリズム）
第6回	教材1に基づく学修⑥（アジアにおけるトランスナショナリズム）
第7回	教材1に基づく学修⑦（ヨーロッパ・アメリカにおけるトランスナショナリズム）
第8回	教材1に基づく学修⑧（グローバル化とジェンダー）
第9回	教材1に基づく学修⑨（グローバル化とメディア）
第10回	教材1に基づく学修⑩（グローバル化と宗教・アイデンティティ）
第11回	レポート課題1・2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第13回	レポート課題2について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第14回	レポート課題1・2について教員と意見交換を行い、内容の充実を図る
第15回	レポート課題1・2の最終案を教員と共有し、了承を得たうえで、最終稿を提出する

## 基本教材2

第1回	学ぶべき課題について理解をしてから、教材に基づく学修①（多文化主義の歴史）を行う
第2回	学修の進め方について教員との意見交換を通じて理解し、教材に基づく学修②（多文化主義の理念）を行う
第3回	教材2に基づく学修③（多文化主義の政策）
第4回	教材2に基づく学修④（管理のための多文化主義）
第5回	教材2に基づく学修⑤（ネオリベラル多文化主義）
第6回	教材2に基づく学修⑥（差異の承認）
第7回	教材2に基づく学修⑦（移民とシティズンシップ）
第8回	教材2に基づく学修⑧（人の移動と子ども）
第9回	教材2に基づく学修⑨（日本社会の多文化化）
第10回	教材2に基づく学修⑩（日本における「多文化共生」）
第11回	レポート課題1・2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第13回	レポート課題2について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第14回	レポート課題1・2について教員と意見交換を行い、内容の充実を図る
第15回	レポート課題1・2の最終案を教員と共有し、了承を得たうえで、最終稿を提出する

科目名	国際関係論特講	担当者	ヒヨシ ヒデマツ 日吉 秀松	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	---------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講義の目的は、以下の二点にある。</p> <p>第一に、国際関係論の基本的理論を体系的に理解し、複雑化する国際関係を分析する能力を養うことである。具体的には、リアリズム、リベラリズム、従属論、世界システム論、政策決定論、安全保障論、地政学などの主要理論を学習し、国際社会に現れる諸事象を多角的な視点から捉え、総合的に分析することを目指す。</p> <p>第二に、中国政治に関する学習を通じて、現代中国政治の本質を理解するとともに、その理解を踏まえて現代日中関係を分析する能力を身につけることである。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 国際社会に現れる多様かつ複雑な事象について、理論的枠組みと実証的資料を踏まえつつ、既存研究を検討しながら、自立した独自の分析視角から体系的に考察する能力を身につける。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ・時々刻々と変化する国際社会を、国際関係論におけるリアリズムやリベラリズムなどの理論的視点から理解する。(知識)</p> <p>・国際社会に現れる多様な事象について、国際関係論の知識を用いて、因果関係を整理しながら体系的に説明することができる。(技能)</p> <p>・国際社会に現れる諸事象の歴史的背景を的確に把握し、その全体像を構造的に理解するとともに、通説や定説を批判的に検討し、実証に基づいて「真実」を探究しようとする態度を身につける。(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 指定教材や参考図書を十分に学修し、常に疑問を持って現実の国際社会を考察し、さまざまな出来事の関連性を見出す。1つのレポート課題を作成するためには、最低45時間の学修時間が必要である。 指定教材や参考図書の学修：(20時間)、②参考文献の調べ、理解：(10時間)、③レポートの初稿作成：(10時間)、④教員の指導を受け、レポート再考と最終稿の完成：(15時間)。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ①指定教材や参考図書の熟読とレポート作成の準備 ②Manaba folio・メール・ZOOMを利用し受講者からの質疑応答を行う。</p>		
スケジュール	<p>レポートの提出時期について、以下の通りである。</p> <p>①最終稿は学事暦で定められた日まで提出する。 ②前期のレポート課題1の初稿提出期限：6月30日 前期のレポート課題2の初稿提出期限：7月30日 ③後期のレポート課題1の初稿提出期限：10月30日 後期のレポート課題2の初稿提出期限：11月30日</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<p>・教材および参考図書の内容を的確に理解したうえで、関連する他の文献も活用し、自らの意見や分析視角を論理的に構成してレポートに反映しているか。</p> <p>・引用および参照を、学術的作法に則って適切に記述しているか。</p>	80%
	観察記録	<p>・教員からの指摘を踏まえ、内容について再考を行い、適切な修正・改善を加えているか。</p> <p>・指定教材および参考図書に加え、関連する他の文献を適切に用いているか。</p>	20%
履修者への要望	<p>レポート課題を作成するにあたっては、国際社会におけるさまざまな事象の相互関連性を意識しながら考察を行う必要がある。そのため、課題および各自の研究テーマに関係する文献や資料の収集に積極的に取り組むことが求められる。必要に応じて、一次資料を収集するため、アジア歴史資料センターや外交史料館等の利用を推奨する。</p> <p>本講義を通じて、論理的思考力および批判的思考力を涵養し、主体的に自らの意見や主張を形成することを目指す。とりわけ、レポート課題においては、自己の見解や主張を根拠に基づいて構成し、論理的に明示するよう、最大限の努力を求める。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：滝田賢治, 大芝 亮, 都留康子編            教材名：国際関係学 (第3版) (有信堂, 2021年)            ISBN：978-4641149052 3,200円 (税別)</p> <p>ウェストファリア体制の成立後の国際政治史, 国際関係理論 (リアリズム、リベラリズム、従属論、世界システム論、政策決定論), グローバリゼーションの動き, 安全保障論, 地政学などについて詳しく説明しており、国際関係論の展開への理解やレポートの作成に役に立つ。</p>
参考図書	<p>①Z・ブレジンスキー著 山岡洋一訳『ブレジンスキーの世界はこう動く』            (日本経済新聞社, 1998年) ISBN：978-4532146313 2,200円 (税別)            ②ジョン・J・ミアシャイマー著 奥山真司訳『大国政治の悲劇』            (五月書房新社, 2019年) ISBN：978-4909542175 5,500円 (税込)</p>
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェストファリア体制と現代国際政治の関係を理解する。</li> <li>・国際関係論におけるリアリズムとリベラリズムを比較し二者の現実性を理解する。</li> <li>・大陸国家系地政学と海洋国家系地政学の知識をもって国際社会の諸事象を分析する。</li> <li>・安全保障とはなにか, 主権国家と安全保障の関係を学習したうえで, 個別自衛権と集団自衛権を理解する。</li> </ul>
レポート課題1	<p>国際関係論における古典的リアリズムと勢力均衡論の関係について論じなさい (3000字以上)</p> <p>留意点：教材の第Ⅱ部第1章～3章, 第Ⅳ部第3章をよく学習し、勢力均衡論の現実性を分析したうえでレポートを作成してください。</p>
レポート課題2	<p>米中関係の変化について述べよ (3000字～4000字)</p> <p>留意点：教材の第Ⅳ部第1章, 参考図書第2章を十分学習したうえでレポート課題を作成してください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：毛里和子            教材名：『現代中国政治—グローバル・パワーの肖像』第3版 (名古屋大学出版会, 2012年) ISBN：978-4815807009 2,800円 (税別)</p> <p>1949年以降の中国を、毛沢東時代、鄧小平時代、そしてポスト鄧小平時代に区分し、それぞれの時代における政治プロセスを詳細に分析するとともに、中国における国家・党・軍隊の関係や、改革開放政策の実施に伴う政治的変容を検証した本書は、国際関係の文脈における中国政治理解を深めるうえで有用な教材である。</p>
参考図書	<p>高原明生, 服部龍二編『日中関係史：1972-2012 I 政治』 (東京大学出版会, 2012年)            ISBN：978-4130230612 4,180円 (税込)</p>
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毛沢東時代の政治プロセスを理解する。</li> <li>・鄧小平時代の政治プロセスを理解する。</li> <li>・党・国家・軍の関係を理解する。</li> <li>・中国式の圧力活動：陳情の政治学を理解する。</li> <li>・グローバリゼーションの中の中国を理解する。</li> </ul>
レポート課題1	<p>改革開放前後における中国政治の変化について述べよ (4000字以上)</p> <p>留意点：教材の全体内容をよく学習したうえで、レポート課題を作成してください。</p>
レポート課題2	<p>日中関係における歴史認識問題について述べよ (4000字以上)</p> <p>留意点：教材の第2章～第3章, 第5章を吟味し、参考図書の第5章～第6章をよく学習したうえで、レポート課題を作成してください。</p>

## 基本教材1

第1回	教材の学修（第Ⅰ部 近現代国際政治史）
第2回	教材の学修（第Ⅱ部 国際関係理論 第1章～第4章）
第3回	教材の学修（第Ⅱ部 国際関係理論 第5章～第6章）
第4回	教材の学修（第Ⅲ部 アクター：地球社会という舞台の役者たち 第1章～第6章）
第5回	教材の学修（第Ⅴ部 地球社会のアジェンダ 第1章～第5章）
第6回	教材の学修（第Ⅴ部 地球社会のアジェンダ 第6章～第9章）
第7回	教材の学修（第Ⅳ部 主権国家と安全保障をめぐるイシュー 第1章～第2章）
第8回	教材の学修（第Ⅳ部 主権国家と安全保障をめぐるイシュー 第3章～第4章）
第9回	教材の学修（第Ⅴ部 地球社会のアジェンダ 第1章～第5章）
第10回	教材の学修（第Ⅴ部 地球社会のアジェンダ 第6章～第10章）レポート課題1の初稿を作成する
第11回	レポート課題1の初稿に関して教員の指摘を受け、それに基づき初稿の内容を再考し修正する
第12回	レポート課題1を完成させ、提出する
第13回	レポート課題2の初稿を作成する
第14回	レポート課題2の初稿に関して教員の指摘を受け、それに基づき初稿の内容を再考し修正する
第15回	レポート課題2を完成させ、提出する

## 基本教材2

第1回	教材の学修（序章 現代中国への新たなアプローチ）
第2回	教材の学修（第1章 毛沢東時代の政治プロセスと毛型リーダーシップ）
第3回	教材の学修（第2章 鄧小平時代の政治プロセス—脱社会主義の道）
第4回	教材の学修（第3章 ポスト鄧小平時代の政治プロセス—資本主義への道）
第5回	教材の学修（第4章 国家の制度とその機能）
第6回	教材の学修（第5章 党・国家・軍三位一体のなかの共産党）
第7回	教材の学修（第6章 政治的軍隊—人民解放軍）
第8回	教材の学修（第7章 党と国家の政策形成のメカニズム）
第9回	教材の学修（第8章 大変身する共産党 第9章 陳情の政治学）
第10回	教材の学修（第10章 比較のなかの中国政治 終章 「中国モデル」をめぐる） レポート課題1の初稿を作成する
第11回	レポート課題1の初稿に関して教員の指摘を受け、それに基づき初稿の内容を再考し修正する
第12回	レポート課題1を完成させ、提出する
第13回	レポート課題2の初稿を作成する
第14回	レポート課題2の初稿に関して教員の指摘を受け、それに基づき初稿の内容を再考し修正する
第15回	レポート課題2を完成させ、提出する

科目名	行政論特講	担当者	セキネ フミオ 関根 二三夫	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	-------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	20世紀になり顕著になってきた行政の多様化・複雑化に伴う行政国家化は、議会政治との軋轢を生じさせることになりました。本来、政策の執行を扱うとされた行政が、今や派生的とも言える政策の立案や決定に大きな影響力を持つようになり、議会政治の危機が生じております。行政が持つ制度面や機能面での特徴を国家との関連において把握し、行政と国家とが如何なる関係にあるかを学びます。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>国家概念を理解することで、国家と社会、社会と個人、個人と国家との関係を理解することができるようにします。国家につきましては、19世紀の立法国家から20世紀の行政国家へ、また社会につきましては、19世紀の市民社会から20世紀の大衆社会へと変遷してきており、それぞれの特徴を把握します。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>①国家法人説や国家有機体説を理解できるようになる。  ②国家と社会、社会と個人、個人と国家との関係を理解できるようになる。  ③国家と国家機関との関係を理解できるようになり、体系的に説明できるようになる。  ④行政国家と関連して官僚政治を理解できるようになる。  ⑤官僚政治と議会政治の原理との関係を理解できるようになる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>テキスト及び参考書を基本としてメールを用いた質疑応答を行います。レポート提出期間内に草稿をなるべく早く提出して頂きまして、問題点を把握しながら完成稿(最終稿)に近づけて行きます。レポート完成稿の提出につきましては、学事暦において定められた提出期間内の提出を厳守して頂きます。学修時間につきましては、基本教材1及び2同様に、レポート1課題につきまして4.5時間を費やすことを目安して下さい。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>課題に関する質疑応答をメールのやり取りを中心に行います。その際、課題の要点を理解するような問いかけを行い、問題点を自発的に整理し、解決策を探ることができるようにします。</p>		
スケジュール	大学院が指定しました提出期間内に、課題についてのレポートを提出して頂きます。提出期間内に余裕をもって草稿を提出して頂き、何度かやり取りをしました後、完成稿を提出して頂きます。完成稿の提出期限は、学事暦に従って行います。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	履修上のポイントや到達目標、レポート課題の留意点を参考に評価します。	70%
	観察記録	質疑や添削草稿への対応を中心に評価します。	30%
履修者への要望	テキスト及び参考書を熟読して頂きますと共に、内閣や大統領を頂点とする行政部でどのようなことが行われているか、また内閣や大統領と議会との関係はどのようになっているかを、メディアの報道や記事などを参考にして考えて頂き、行政部の問題点を把握するように心がけて下さい。		

【レポート課題】

<b>基本教材 1</b>	
教材の概要	<p>著者名：関根二三夫、岩井奉信、黒川貢三郎、杉山逸男、外山公美、松木修二郎  教材名：『教養政治学』（南窓社、2013年）  ISBN:978-4-81-650187-6  2,900円＋税</p> <p>政治学の研究対象は、広範囲に及びます。本書は、一般教養の政治学として執筆されたものでありますが、現代の政治を理解し得るのに必要な内容を含むものです。政治学の沿革、政治権力、国家と政府、政治過程、選挙と投票行動、政治と世論などが含まれており、国家に生起する政治現象の理解に役立つものです。</p>
参考図書	山田光矢編『政治学』（弘文堂、2011年） ISBN:978-4-33-500192-5 2,000円＋税
履修上のポイント	国家に生起する現象を政治面や社会面から把握することで、国家を立体的に把握することが可能になると思われれます。国家を成立させる要素を伝統的に考えますと、国民、領域そして主権があります。それらの要素には人間が深く係わりを有しており、政治現象や社会現象を理解する必要があります。現代国家におきましては、個人が国家を離れて生活することが不可能と思われれますので、国家に生起する問題を理解することが必要です。
レポート課題1	近代国家の成立と発展について述べよ。 留意点：近代の市民社会から現代の大衆社会への変化において、国家機能が如何に変遷してきたのかを考察して欲しいと思われれます。
レポート課題2	国家と社会との関係について述べよ。 留意点：一元的国家論と多元的国家論との相違について考察して欲しいと思われれます。

## 基本教材 2

<b>教材の概要</b>	<p>著者名：西尾 勝                  教材名：『行政学』（有斐閣、2001年）                  ISBN:978-4-64-104977-2                  3,200円＋税</p> <p>本書は、行政の制度を中心に管理や政策に重点を置いて記述されています。国家行政や地方行政が円滑に遂行されるためには、行政の諸局面を考慮しなければなりません。行政と行政学の背景、行政制度の構造、行政過程の展開、行政管理の充実、行政統制の推進等が、その内容になっています。</p>
<b>参考図書</b>	<p>外山公美『行政学』（弘文堂、2011年）                  ISBN:978-4-33-500195-6                  2,400円＋税</p>
<b>履修上のポイント</b>	<p>行政概念につきましては、憲法、行政法、行政学などからの把握が可能です。三権分立的控除説や国家目的実現説などの法学的把握以外に、行政過程説や統治機能説などの行政学的把握があります。行政学において行政概念がどのように把握されているのか、また概念の把握に至る過程がどのようなものであるかを、行政の諸局面を考察しながら考えて欲しいと思われます。</p>
<b>レポート課題1</b>	<p>ロレンツ・フォン・シュタインの行政学について述べよ。                  留意点：シュタイン行政学は、ドイツ官房学を集大成し、行政法学への道を拓いたといわれます。シュタイン行政学が成立する背景、シュタインの国家観における国家と行政との関係、行政学の内容、行政法学が台頭する理由などを考えて欲しいと思われます。</p>
<b>レポート課題2</b>	<p>現代国家と行政統制について述べよ。                  留意点：19世紀の立法国家から20世紀の行政国家への移行は、行政部の政策立案機能や政策決定機能を増大させました。行政部を外在的に、また内在的に統制し、行政の民主化を確保して行政責任を明確にする必要があります。</p>

### 基本教材1

<b>第1回</b>	国家と政府：近代国家の成立と発展
<b>第2回</b>	近代市民社会
<b>第3回</b>	資本主義社会の発展
<b>第4回</b>	大衆社会の出現
<b>第5回</b>	国家権力：権力分立
<b>第6回</b>	権力分立の意義と特性
<b>第7回</b>	権力分立の史的展開
<b>第8回</b>	権力の区分、分離、抑制
<b>第9回</b>	政治の概念
<b>第10回</b>	政治と行政
<b>第11回</b>	政府の機能
<b>第12回</b>	政府の形態
<b>第13回</b>	議会政治の変遷
<b>第14回</b>	議会の原理
<b>第15回</b>	議会の構成と運営

## 基本教材2

第1回	官僚制と民主制
第2回	ドイツ官房学とシュタイン行政学
第3回	アメリカ行政学
第4回	官僚制
第5回	中央集権と地方分権
第6回	わが国における戦前の官吏制と戦後の公務員制
第7回	組織の問題点（官僚化と寡頭化）
第8回	政策の循環と行政活動
第9回	行政評価
第10回	稟議制
第11回	行政活動と能率概念
第12回	行政管理の機能及び原則
第13回	行政統制：外在的統制
第14回	行政統制：内在的統制
第15回	行政責任

科目名	危機管理論特講	担当者	オオハマ アキヒロ 大濱 明弘	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	---------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	組織は、ある目的を持った集団である。そして、その目的に対し決定的な意義を有し、かつ、達成可能な目標を確立し、その達成を追求することを使命とする。本科目は、かかる視点を前提として、昭和期の日本軍の組織論的研究から組織における危機管理の本質・特性・課題を考察し、その現代的意義への糸口を見出すことを目的とする。			
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昭和期の日本軍の戦史の中から組織の抱える状況や問題を理解する。</li> <li>昭和期の日本軍の戦史を手掛かりに、現代に通じる本質的な意義を思考することができる。</li> </ul> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理論的考察に基づく当為 (かくあるべき) だけでなく、組織の抱える旧弊や因襲を含む存在 (過去から継続する現状) を踏まえ考察することができる。</li> <li>組織が直面する諸問題について、昭和期の日本軍の戦史を援用しつつ自らの言葉で説明する力を身につける。</li> </ul>			
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学修方略</li> </ul> <p>基本教材、参考図書、必要に応じその他の文献を精読する。レポート課題への自分の考えをまとめ、担当教員からの指導、相談、質疑応答等を重ね、レポートを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学修時間</li> </ul> <p>レポート課題1件について約45時間を目途とする。この時間を前提に、基準として、分析に50% (約20時間)、作成に30% (約15時間)、修正に20% (約10時間) 程度を設定する。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>院生と担当教員との間で双方向の添削指導を行う。</p>			
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期</li> </ul> <p>レポート課題1の初稿を7月末、レポート課題2の初稿を8月末までに提出する。その後、担当教員からの指導を経て、最終稿を各レポート課題ともに学事歴で定められた日までに提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>後期</li> </ul> <p>レポート課題1の初稿を11月中旬、レポート課題2の初稿を12月中旬までに提出する。その後、担当教員からの指導を経て、最終稿を各レポート課題ともに学事歴で定められた日までに提出する。</p>			
成績評価	種別	評価基準		割合
	レポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材、参考図書その他の文献を用い、課題 (問い) への基礎的な理解ができているか。</li> <li>構成、論理展開が明確か。</li> <li>脚注、参考文献リストその他の研究倫理の基準を満たしているか。</li> </ul>		70%
	観察記録	担当教員への質問、指導受け、不明点の解消のための検討その他のレポートの提出までの主体的な取り組みを評価する。		30%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治、行政を研究する院生のほか、経営その他の組織に関する分野の研究を志す院生の履修を歓迎する。</li> <li>レポート作成に当たっては、基本教材等をまとめるだけではなく、現代の組織の問題に関心を持ち、フィールドワーク等の社会的な実践を含め視野を広げて考察することを心掛けて欲しい。</li> <li>担当教員は、安全保障、防衛法制 (国際法を含む。)、危機管理、地域防災の分野を専門領域にするほか、防衛省で防衛法制の調査研究および教育に携わるほか、第一線部隊の指揮官、幕僚としても勤務してきた (現在も防衛省非常勤特別職国家公務員・予備自衛官として指定)。理論と実務の架橋として、担当教員を大いに利用していただきたい。</li> </ul>			

【レポート課題】

<b>基本教材 1</b>	
教材の概要	<p>著者名：戸部良一、寺本義也、鎌田伸一、杉之尾孝生、村井友秀、野中郁次郎</p> <p>教材名：『失敗の本質』 (中央公論新社、2021年)</p> <p>ISBN:978-4-12-201833-4 762円+税</p> <p>昭和期の日本軍の戦略や戦いについて組織論の立場から論考した書である。1984年に出版以来、学術分野に加え、各界の実務リーダー等に読み継がれてきた組織の危機管理の必読書である。</p>
参考図書	<p>菊澤研宗『組織の不条理』 (中央公論新社、2017年) ISBN:978-4-12-206391-4 720円+税</p> <p>堺屋太一『組織の盛衰』 (中央公論新社、2022年) ISBN:978-4-12-207217-6 900円+税</p>
履修上のポイント	レポート課題の留意点に沿い、基本教材、参考図書その他の文献を参照しつつ論述する。この際、科目の「目的」を基準に考察することを求めたい。単に戦史をまとめたり、合理的な米軍組織と非合理的な日本軍組織の対立構造に陥ったりすることのないよう十分に留意して欲しい。危機管理の本質とは何か、現代的な意義とはどのようなものかを考えることは、今後の研究の基盤となる。
レポート課題1	組織は、なぜ、目的合理的に行動できないのか。(3000-4000字) 留意点：基本教材のノモンハン事件、ミッドウェー作戦等を参照し、組織の危機管理の失敗を分析すること。
レポート課題2	組織は、なぜ、同じやり方に固執するのか。(3000-4000字) 留意点：基本教材のガダルカナル作戦等を参照し、組織の危機管理の失敗を分析すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：戸部良一、寺本義也、鎌田伸一、杉之尾孝生、村井友秀、野中郁次郎 教材名：『失敗の本質』（中央公論新社、2021年） ISBN:978-4-12-201833-4 762円＋税
	昭和期の日本軍の戦略や戦いについて組織論の立場から論考した書である。1984年に出版以来、学術分野に加え、各界の実務リーダー等を読み継がれてきた組織の危機管理の必読書である。
参考図書	菊澤研宗『組織の不条理』（中央公論新社、2017年）ISBN:978-4-12-206391-4 720円＋税 堺屋太一『組織の盛衰』（中央公論新社、2022年）ISBN:978-4-12-207217-6 900円＋税
履修上のポイント	レポート課題の留意点に沿い、基本教材、参考図書その他の文献を参照しつつ論述する。この際、科目の「目的」を基準に考察することを求めたい。単に戦史をまとめたり、合理的な米軍組織と非合理的な日本軍組織の対立構造に陥ったりすることのないよう十分に留意して欲しい。文献調査のほかフィールドワークや担当教員との相談等を通じ、現代的意義への糸口を見出していく。
レポート課題1	組織は、なぜ、最悪を止められないのか。（3000-4000字） 留意点：基本教材のインパール作戦等を参照し、組織の危機管理の失敗を分析すること。
レポート課題2	組織は、なぜ、統合・統一ができないのか。（3000-4000字） 留意点：基本教材のレイテ海戦、沖縄戦等を参照しつつ、組織の危機管理の失敗を分析すること。

### 基本教材1

第1回	教材の学修および本科目の課題の理解
第2回	基本教材1に基づく学修（第1章1（ノモンハン事件））
第3回	基本教材1に基づく学修（第1章2（ミッドウェー作戦））
第4回	基本教材1に基づく学修（第2章の組織上の失敗要因分析）
第5回	レポート課題1の作成：論点分析（5W:Why（目的）What（目標）Who（主体）When（時代）Where（地域））
第6回	レポート課題1の作成：指導を踏まえた初稿
第7回	レポート課題1の作成：指導を踏まえた修正稿
第8回	レポート課題1の作成：最終稿
第9回	基本教材1に基づく学修①（第1章3（ガダルカナル作戦））
第10回	基本教材1に基づく学修②（第1章3（ガダルカナル作戦））
第11回	基本教材1に基づく学修（第2章の組織上の失敗要因分析）
第12回	レポート課題2の作成：論点分析（5W:Why（目的）What（目標）Who（主体）When（時代）Where（地域））
第13回	レポート課題2の作成：指導を踏まえた初稿
第14回	レポート課題2の作成：指導を踏まえた修正稿
第15回	レポート課題2の作成：最終稿

## 基本教材2

第1回	教材の学修および本科目の課題の理解
第2回	基本教材2に基づく学修①（第1章4（インパール作戦））
第3回	基本教材2に基づく学修②（第1章4（インパール作戦））
第4回	基本教材2に基づく学修（第2章の組織上の失敗要因分析）
第5回	レポート課題1の作成：論点分析（5W:Why（目的）What（目標）Who（主体）When（時代）Where（地域））
第6回	レポート課題1の作成：指導を踏まえた初稿
第7回	レポート課題1の作成：指導を踏まえた修正稿
第8回	レポート課題1の作成：最終稿
第9回	基本教材2に基づく学修（第1章5（レイテ海戦））
第10回	基本教材2に基づく学修（第1章6（沖縄戦））
第11回	基本教材2に基づく学修（第2章の組織上の失敗要因分析）
第12回	レポート課題2の作成：論点分析（5W:Why（目的）What（目標）Who（主体）When（時代）Where（地域））
第13回	レポート課題2の作成：指導を踏まえた初稿
第14回	レポート課題2の作成：指導を踏まえた修正稿
第15回	レポート課題2の作成：最終稿

科目名	組織倫理論特講	担当者	カミイ ヒロユキ 神井 弘之	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	---------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>今日の組織のリーダーには、所属する（あるいは設立、再建に携わる）組織が持続的な発展を遂げられるよう、激変する環境変化に適応して、社会的に妥当とされる公正な行動を選択するための「組織倫理向上の取組」を企画し、実践することが求められています。</p> <p>本講座は、持続可能な開発目標（SDGs）やCreating Shared Value（CSV）など社会の環境変化に向き合う際の指針となり得る事項に関する知識を身につけるとともに、具体的なケースを通じて、グローバルな視座、歴史を俯瞰する視座から、個別組織の現状の評価・分析、課題抽出を行う技術などを修得することにより、学修者が、組織のリーダーとして、組織倫理向上の取組をデザインし、実践する能力を身につけることを目的とします。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 学修者が所属する（あるいは設立、再建に携わる）組織が、激変する環境変化に適応して、社会的に妥当とされる公正な行動を選択し、持続的な発展を遂げられるよう、リーダーとして、組織倫理向上のための取組を企画・実践するため、①社会の環境変化に向き合う際の指針となり得る事項に関する知識を獲得し、②個別組織の現状の評価・分析、課題抽出を行い、それを実践する体制のデザイン等の取組を行う技能を修得し、③具体的な行動に際して、グローバルな視座、歴史を俯瞰する視座に配慮する態度を身につけることを目標とします。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ①（知識・想起・解釈）SDGsやCSV、東洋思想を踏まえた渋沢栄一の経営哲学など、社会の環境変化に向き合う際の指針となり得る事項に関して説明でき、そのフレームを、個別の組織が置かれている状況に適用することができる。 ②（知識・問題解決／技能）SDGsやCSVなどに関する知識を不確実な未来の環境変化を予測する指針として用いること等により、具体的な組織倫理向上のための取組（ケース）を評価・分析し、課題を抽出することができる。 ③（技能／態度）②の技能で抽出した課題に対して、組織ミッションの再構築、解決のための体制のデザイン、構成員のモチベーション向上等の組織倫理向上のための取組を構想することができる。この際、国内外の先行事例に関する評価・分析を踏まえ、グローバルな視座、歴史を俯瞰する視座を取り入れるよう配慮することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 ①基本教材及び参考図書を熟読し、内容の理解を深める（自習）【SBO①②】【15時間/レポート1本】 ②レポート課題に則して情報を収集・分析する（自習）【SBO②③】【15時間/レポート1本】 ③課題レポートの初稿を作成する（レポート作成）【SBO②③】【15時間/レポート1本】 ④manaba folioを利用したレポート添削で教員と意見交換を行う（ディベート）【SBO①②③】【15時間/レポート1本】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folioを利用して、教員と学修者との間での双方向を重視した指導を実施します。</p>		
スケジュール	<p>【前期】レポート課題1は7月末に草稿提出、レポート課題2は8月末に草稿提出、複数回の意見交換と修正を経て、最終稿の提出期限は学事暦に従う。 【後期】レポート課題1は11月中旬に草稿提出、レポート課題2は12月中旬に草稿提出、複数回の意見交換と修正を経て、最終稿の提出期限は学事暦に従う。 ※レポート課題の草稿について、意見交換と修正を何度か行うことで、修士論文を書く際に必要となる基礎的な事項を修得することが出来ます。そのためには、レポートの草稿を極力早い時期より提出することが望まれます。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	レポートの評価は全体で、80%とします。前期レポート課題1・2、後期レポート課題1・2に、それぞれ20%を配分します。	80%
	観察記録	レポート課題の草稿提出から最終稿提出までのプロセスにおける対応（例えば、加筆、修正のコメントに対する対応）を評価します。1つのレポート課題に、5%を配分します。	20%
履修者への要望	<p>本講座では、組織倫理について学ぶ意義を、自らが所属する（あるいは、今後設立や再建に携わる）組織を、激変する環境変化に適応して、社会的に妥当とされる公正な行動を選択し、持続的な発展を遂げられるような状態にすることに置いています。その趣旨を踏まえて、自分なりのオリジナルな解釈を論理的に記述することが重要です。基本教材を読むことで全てのレポート課題に対応可能ですが、参考図書等で、具体的な組織倫理向上の事例や、その論理的な分析に多く触れることがより望ましいと考えます。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：モニター デロイト編 教材名：『SDGsが問いかける経営の未来』（日本経済新聞出版社、2018年） ISBN：978-4-532-32236-6 2,500円＋税 経営者の立場から、SDGsを解釈し直し、社会価値創出が経済価値創出と同等に企業活動においても重要とされる時代に、どのように経営モデルを変革し、大きな変化の中で生き抜くか、企業の経営目標の在り方、経営戦略・事業戦略の在り方、事業創造の在り方を検証した書籍です。
参考図書	藤井剛『CSV時代のイノベーション戦略 「社会課題」から骨太な新事業を産み出す』（ファーストプレス、2014年） ISBN：978-4-904336-79-3 1,800円＋税
履修上のポイント	SDGsをテーマにした書籍を基本教材1としたのは、今日の組織が組織倫理向上の取組について検討するに当たって、SDGsが、社会の環境変化に向き合う際の着眼点を提示しているからです。SDGsと組織倫理の関連性について、常に念頭に置いて、レポート作成に臨むよう、留意してください。
レポート課題1	SDGsの特徴とその存在がもたらす組織の経営モデルの変革について、3,000字程度でまとめてください。 留意点：基本教材1の記述を基に課題をまとめることが基本となります。なお、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。
レポート課題2	レポート課題1でまとめた「SDGsの存在がもたらす組織の経営モデルの変革」が組織倫理向上の取組に及ぼす影響について、3,000字程度でまとめてください。 留意点：留意点：基本教材1の記述を基に課題をまとめることが基本となりますが、特に、記述を組織倫理の観点から捉え直すことが重要です。激変する環境変化に適応して、社会的に妥当とされる公正な行動を選択し、持続的な発展を遂げるための取組を、組織倫理向上の取組と捉えてください。なお、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：基本教材2（1） 渋沢栄一著、守屋淳訳、基本教材2（2） 塚越寛著 教材名：基本教材2（1）『現代語訳 論語と算盤』（筑摩書房、2010年） ISBN：978-4-48006-535-3；基本教材2（2）『末広りのいい会社をつくる 人も社会も幸せになる年輪経営』（サンクチュアリ出版、2019年） ISBN：978-4-86113-862-1 1,500円＋税 基本教材2（1）は、「日本実業界の父」とされる渋沢栄一が、「利潤と道徳を調和させる」という、生涯を通じて貫いた経営哲学について記した書籍です。基本教材2（2）は、2018年渋沢栄一賞を受賞した伊那食品工業株式会社の経営理念と実践をまとめた書籍です。
参考図書	ジョン・ブルックス著、須川綾子訳『人と企業はどこで間違えるのか？ 成功と失敗の本質を探る「10の物語」』（ダイヤモンド社、2014年） ISBN：978-4-478-02977-0 1,800円＋税
履修上のポイント	我が国における企業の組織倫理（経営理念）について記した古典『論語と算盤』と、現代のトップランナー企業の経営理念と実践について記した『末広りのいい会社をつくる 人も社会も幸せになる年輪経営』の2冊を基本教材2としました。基本教材1で学んだSDGsなど最新の視座、グローバルな視座を保ちながら、歴史を俯瞰する視座、日本らしさを見つめ直す視座もあわせ持つて、組織倫理向上について考察することが有益だと考えます。
レポート課題1	基本教材2（1）で示された渋沢栄一の経営哲学と基本教材1で示されたSDGsを踏まえた経営理念を比較し、その類似点、相違点について考察し、今後の我が国の組織倫理向上の取組に対して得られた示唆について、3,000字程度でまとめる。 留意点：基本教材の記述を基に課題をまとめることが基本となります。特に組織倫理向上の観点に絞り込んで、自分なりの考察を加えることが重要と考えます。なお、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。
レポート課題2	基本教材2（2）で示された伊那食品工業株式会社の経営理念と具体的な組織倫理向上の取組について、基本教材1や基本教材2（1）で学んだ内容を踏まえて、評価・分析し、今後の我が国の組織倫理向上の取組に対して得られた示唆について、3,000字程度でまとめる。 留意点：基本教材の記述を基に課題をまとめることが基本となります。特に組織倫理向上の観点に絞り込んで、自分なりの考察を加えることが重要と考えます。なお、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。

## 基本教材1

第1回	基本教材1の狙いと学修方法についてのオリエンテーション
第2回	基本教材1に基づく学修①(世界のサステナビリティ底流)
第3回	基本教材1に基づく学修② (SDGsのビジネス言語への翻訳)
第4回	基本教材1に基づく学修③ (政府規制とESG投資)
第5回	基本教材1に基づく学修④ (NGOと消費者)
第6回	基本教材1に基づく学修⑤ (新たな経営モデルへのシフト)
第7回	基本教材1に基づく学修⑥ (社会課題と競争戦略)
第8回	基本教材1に基づく学修⑦ (インテリジェンス機能とサステナブルなサプライチェーン)
第9回	基本教材1に基づく学修⑧ (ブランディング力とアドボカシー能力)
第10回	基本教材1に基づく学修⑨ (新たなマネジメントシステム)
第11回	レポート課題1の草稿取りまとめ
第12回	教員からのレポート課題1の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第13回	レポート課題2の草稿取りまとめ
第14回	教員からのレポート課題2の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第15回	レポート課題1・レポート課題2について、必要な加筆・修正を加え、最終稿を提出

## 基本教材2

第1回	基本教材2(1)・(2)の狙いと学修方法についてのオリエンテーション
第2回	基本教材2(1)に基づく学修①(処世と信条、立志と学問)
第3回	基本教材2(1)に基づく学修②(常識と習慣、仁義と富貴)
第4回	基本教材2(1)に基づく学修③(理想と迷信、人格と修養)
第5回	基本教材2(1)に基づく学修④(算盤と権利、実業と士道)
第6回	基本教材2(1)に基づく学修⑤(教育と情誼、成敗と運命)
第7回	基本教材2(2)に基づく学修①(「いい会社」をめざして)
第8回	基本教材2(2)に基づく学修②(年輪経営でみんなハッピー)
第9回	基本教材2(2)に基づく学修③(遠きをはかる経営)
第10回	基本教材2(2)に基づく学修④(「忘己利他」こそ、人生のあるべき姿)
第11回	レポート課題1の草稿取りまとめ
第12回	教員からのレポート課題1の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第13回	レポート課題2の草稿取りまとめ
第14回	教員からのレポート課題2の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第15回	レポート課題1・レポート課題2について、必要な加筆・修正を加え、最終稿を提出

科目名	日本政治史論特講	担当者	タキガワ シュウゴ 瀧川 修吾	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	----------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>「温故而知新，可以為師矣」というように，過去の歴史的事実から，向後の政治をより良くするための教訓を得んとする試みは，政治史という学問の最大の使命であろう。政権の在り方や，制度の不備，格差や貧困といった俄には解決しがたい問題に起因する内政上の不満を，外交や軍事に対する人々の関心を掻きたてることで，巧みに逸らす政治手法は，他国との関係を大前提とするグローバル社会にあって，あらゆる民主主義国家とその国民が対決し，克服していかねばならない脅威といえる。本講義では，広く歴史とは何かについて学んだ上で，この厄介な問題につき，幕末から明治にかけての日本で登場した征韓論を素材に，皆さんと一緒に考えることで，豊かな知識・教養に基づく高い倫理観のほか，世界の現状を理解し説明する力，論理的・批判的思考力，問題発見・解決力，挑戦力，省察力などを最上級レベルで修得することを目的とする。</p>								
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 日本政治史や思想史の専門書を熟読し，内容を深く理解する洞察力や省察力を養い，その成果を纏め，独自の観点から論評・解説する論理的・批判的思考力を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. E. H. Carrの著作を精読し，各自の歴史観を再確認し，そこで学んだ理論の妥当性につき，日本史上の歴史的事実を事例にして考察を加えてみる。 2. 社会科学における言葉の定義の重要性につき，「征韓論」を事例に理解する。さらに徳川幕藩体制下の対馬藩が直面した危機について理解する。 3. 総じて，教養を身につけるために学ぶ通史とは異なり，いわば歴史を通じてのものごとを深く考える楽しみに接し，自己の眼前に展開する諸問題につき，歴史的に思考する能力を養う。</p>								
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 履修者の皆さんが，これまでどの程度，歴史を学んできたかで，学修方法も再考を余儀なくされるものと予想される。よって「基本教材1」の「I 歴史家と事実」をある程度読み進めた段階で，一度，皆さんからメール等で連絡をもらい，当方が皆さんの習熟度や理解度を把握することとしたい。その上で必要に応じて参考図書を紹介したり，レポートの難易度や分量を加減したりするなど，調整し，皆さんそれぞれの状況に応じた到達目標が実現されるような指導をおこなう。本を熟読する際は，重要と思われる箇所の下線を引いたり，調べたことや批判，感想などを書き加えたりして，汚しながら読む（「眉批」を付ける）ことを推奨する。概ね，自主研究に20時間，レポート作成に10時間，教員とのディベートに15時間を目安とする。 テキストないし指示された参考書を熟読してもらおう（概ね新書1冊と学術論文2本）。学修時間は個人差が生じざるを得ないが，質問や用語の調査なども入れて45時間超を想定している。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ZoomやMeet、メールと添付ファイル，manaba等を活用し，双方向性を重視した指導を行う。</p>								
スケジュール	<p>「基本教材1」から出題した課題は，6月末までを目安に学習を終え，「レポート課題1」は7月15日を，「レポート課題2」は8月15日を，それぞれ初稿の提出締切日とする（以下全て，可能であれば，締切日以前の提出を奨励する）。最終稿は9月15日を提出期限とする。 「基本教材2」から出題した課題は，10月末までを目安に学習を終え，「レポート課題1」は11月15日を，「レポート課題2」は12月15日を，それぞれ初稿の提出締切日とする。最終稿は1月11日を提出期限とする。 ※以上はあくまで目安であり，受講者各自の状況により柔軟に対応するのでご安心ください。</p>								
成績評価	種別	評価基準						割合	
	レポート	教材から一定の知識を修得し，それらを客観的かつ論理的に纏めることができているか。また，学んだ知識を批評したり，援用したりするなど主体的に活用することができるか。						70%	
	観察記録	当方がおこなった指導や指摘を，適切にレポートへ反映することができたか。レポートの提出期限の遵守等，コミュニケーション上のルールを守ることができたか。						30%	
履修者への要望	<p>関連科目を大学院博士前期（修士）課程で受講していなくても及第できるように，丁寧な指導を心掛けたい。逆に私の担当科目をすでに履修した者には，適宜別の課題を用意する。質問してくれたことに対して減点をするようなことは一切ないので，積極的かつ気軽に質問をして頂きたい。なお，皆さんが効率よく学修を開始するためには，当方にもしかるべき準備が必要となる。よって，履修登録をすると同時に，その旨を担当教員にメール（takigawa.shugo@nihon-u.ac.jp）で報告することを履修の条件としたい（その後，履修取消しをした場合もご一報頂きたい）。</p>								

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：E. H. カー著・清水幾太郎訳 教材名：『歴史とは何か』（岩波書店，1962年，原著は出版） ISBN：4-00-413001-8（820円＋税）
	本書は、E. H. Carrが1961年にケンブリッジ大学でおこなった講演をもとに編まれたもので、歴史を研究する者にとっては必読文献といっても過言ではない。本書の出版からすでに半世紀が経過したが、ここで提示されている議題の数々がその重要性を失うことは、この世に人間や社会が存在する限り、決してないであろう。
参考図書	原著“What is history”は、幸いインターネット上でも閲覧できるようなので、訳本と併読することを推奨したい。もちろんAmazon等で、ペンギンブックスなどのペーパーバックを購入するのも良く、また2022年に近藤和彦訳も出たが、本課題は正確な翻訳をすることが必ずしも目的ではないため、購入は義務づけられない。
履修上のポイント	同書では、劈頭で掲げられていた命題が先々まで深い意味をもっていたり、再び別の視点で論じられたりといったケースがあるので、論点をノートに書き出して読み進めると良いであろう（本に線を引いたり、「眉批」を直接書き込むのも良い）。呉々も、新書をたった一冊読むだけなどと侮らず、その分、しっかりと基本教材を「精読」してもらいたい。読み進める中で、知らない人名や事件等が出てきたら、最低限、電子辞書やインターネットなどを用いて調べてみると良い。
レポート課題1	歴史とは「歴史家と事実との間の相互作用の不断の過程であり、現在と過去との絶え間ない対話」であるというCarrの主張は、いったいどのような意味か。現今を生きる自分自身の体験や経験を踏まえて論じなさい。 留意点：Carrの所論と皆さんの意見等とが混ざらないように、正しい「引用」と「援用」の技法を駆使してレポートを作成すること（換言すれば、要旨を纏めるだけでは不十分です）。
レポート課題2	Carrが述べる「歴史における必然」と「歴史における偶然」とはどのような問題か。要領よく論点を纏めると共に、適当な日本史上の歴史的事実を随意に用いて説明を試みなさい。 留意点：レポートの構成や用いる事例などが決まった段階で、一度当方に相談の連絡をくれた方が効率的と史料される。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：瀧川修吾 教材名：『征韓論の登場』（櫻門書房，2014年） ISBN：978-4-901250-46-7（2,500円＋税）
	本書は、「征韓」論が幕末から明治の政治空間にどのようにして登場したかを、政治史・思想史のアプローチで探求した専門書である。いわゆる博士論文を刊行したものであるため、章・節の設け方や脚注の付け方等々、皆さんがレポートや修士論文を作成するにあたっての見本となれば幸甚である。諸事情により入手が困難なため、takigawa.shugo@nihon-u.ac.jpまで御一報下さい。
参考図書	当該科目を専攻していない履修者からすれば、本書一冊を読破するだけでも骨が折れると思われるので、別段、指示はしない。とはいえ「レポート課題1・2」に取り組むにあたっては別途、参考文献が必要となるので、具体的なテーマが定まったところで、適宜紹介する。
履修上のポイント	同書は専門書であるため、日本史の学術論文を初めて読むという履修者には、おそらく読みづらいものと思われる。まずは根気強く、導入部にあたる序章を読んでみてほしい。「レポート課題1」については、比較する事例に関する参考文献を探さなければならないので、序章を読み終えた時点で一度連絡をもらいたい。「レポート課題2」については、最低限「第三章 アジア雄飛論の諸相」を読んでほしい、その上で当方と相談し、具体的にどのようなアジア雄飛論をレポートでの分析対象とするのかを決めてほしい。
レポート課題1	幕末から明治にかけての「征韓」論が備えていた論理的構造について纏めた上で、これに類する古今東西の政治手法の事例を挙げ、両者を比較しなさい。 留意点：比較する事例は日本以外でも構わないし、最近の事象でも構わない。
レポート課題2	幕末から明治にかけて百出したアジア雄飛論の中から興味のあるものを選択し、これについて論じなさい。 留意点：選択するアジア雄飛論は、「基本教材2」に登場しないものでも構わない。自らの博士論文に活かせるようなテーマがあれば、積極的に相談して頂きたい。

## 基本教材1

第1回	基本教材1の目次等を確認し、いわゆる「斜め読み」を行い、全体を俯瞰してみる
第2回	基本教材1の斜め読みを続けると共に、参考図書等にもアクセスしてみる
第3回	基本教材1「Ⅰ 歴史家と事実」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第4回	基本教材1「Ⅱ 社会と個人」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第5回	基本教材1「Ⅲ 歴史と科学と道徳」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第6回	基本教材1「Ⅳ 歴史における因果関係」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第7回	基本教材1「Ⅴ 進歩としての歴史」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第8回	基本教材1「Ⅵ 広がる地平線」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第9回	基本教材1を読み直して整理しつつ、レポート課題1・レポート課題2の作成に必要な文献を収集する
第10回	基本教材1を読み直して整理しつつ、レポート課題1・レポート課題2の作成に必要な文献を収集する
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

## 基本教材2

第1回	基本教材2の目次等を確認し、いわゆる「斜め読み」を行い、全体を俯瞰してみる
第2回	基本教材2の斜め読みを続けると共に、参考図書等にもアクセスしてみる
第3回	基本教材2「序章「征韓」論の歴史的意義と論理的構造」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第4回	基本教材2「第1章 ロシアによる対馬占拠事件」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第5回	基本教材2「第2章 対馬藩の征韓論に関する比較考察」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第6回	基本教材2「第3章 アジア雄飛論の諸相」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第7回	基本教材2「第4章 山田方谷とアジア雄飛論」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第8回	基本教材2「第5章 勝海舟とアジア雄飛論」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第9回	基本教材2「第6章 アジア雄飛論と征韓論の因果関係」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第10回	基本教材2を読み直して整理しつつ、レポート課題1・レポート課題2の作成に必要な文献を収集する
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	都市計画論特講	担当者	ヤマギシ テルキ 山岸 輝樹	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	---------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講座は、まちづくりや地方創生の背景にある我が国の「都市計画」および「住宅政策」の理論や制度、施策について下記の知識を習得することを目的とする。特に社会課題の集積地と言われる大都市住宅団地が抱える課題とその背景、実際の取り組みの理解を通して、地域課題解決のための基礎知識の獲得を目指す。</p> <p>①都市計画の基本的な制度や住宅政策の基本的な流れについて理解することができる。          ②都市計画の制度や住宅政策の面、および現実の都市空間が平成期に変節点を迎えたことを理由とともに理解することができる。          ③現代の地域社会が抱える政策課題に対して、民間によるまちづくり活動が必要であることを理解することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】          都市計画や住宅政策に関する概念を理解し、地域空間の課題を都市計画および社会システムの視点から論じるための基礎知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】          ・都市計画や住宅政策の基礎となる概要及び基礎理論を説明できる (知識)。          ・人口減少等の社会の変化と地域空間の課題との関わりを理解できる (技能)。          ・まちづくり活動について、その地域空間が抱える社会課題とまちづくり活動の実践との関係に触れることを通じて、地域最瀬に関するアイデアを積極的に発信することができる (態度)。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】          基本教材を熟読し十分に理解したうえで具体的な考察を行い、レポートのドラフトを作成する。          ・都市計画の理論と制度を体系的に概観し、また住宅政策の歴史的変遷を理解する。          ・計画理論や制度を踏まえ現在の都市空間 (特に郊外住宅地) がどのように形作られているかを理解する。          ・大都市近郊の郊外住宅団地において活動するNPOの取り組みを通じ、現在の地域が抱える具体的なまちづくりの課題と活動の内容を理解する。          ・成熟した都市において民間によるまちづくりの担い手が不可欠であることへの理解。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】          ・基本教材を熟読し、副教材も参考にしつつレポートの初稿を制作する。【15時間/レポート1本】          ・教員による初期のコメント・指導に基づき、初稿の修正を行う。【15時間/レポート1本】          ・添削指導に基づく推敲を行い、最終稿を完成させる。その際与えられた資料以外の追加資料を自主的に探索し更なるインプットを行うことで、より深い理解に到達できる。【15時間/レポート1本】</p>		
スケジュール	<p>・課題1、課題2共に以下の期日までに初稿を提出する。(前期：7月末、後期：11月末)          ・受講開始後、進捗に不安を感じた場合には早めに「履修者への要望」に記載の担当者のアドレスまでメールにて相談すること。          ・最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の内容を修得し、その考えを踏まえて解答されているか。</li> <li>自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答できているか。</li> <li>教材以外の資料を活用して解答しているか。</li> </ul>	80%
	観察記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終提出までに複数回のレポート交換ができているか。</li> <li>初稿提出期限が守られているか。</li> </ul>	20%
履修者への要望	<p>・学修計画のすり合わせを行うために、履修登録後、速やかに担当教員にメールにて連絡してください (yamagishi.teruki@nihon-u.ac.jp)。日程を調整しZoom等を用いてのオンラインでの打ち合わせを行います。(オンラインでの打ち合わせが困難な場合にはメールにその旨を記載してください。)          ・初稿提出のスケジュールを厳守してください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：①小嶋勝衛・横内憲久 監修 ②山口幹幸・川崎直宏 編            教材名：①『都市の計画と設計（第3版）』（共立出版 2017年） ISBN：978-4320-77188 3,700円＋税            ②『人口減少時代の住宅政策—戦後70年の論点から展望する』（鹿島出版会, 2015年） ISBN:978-4306046306 2,300円＋税</p> <p>教材①は都市計画および都市デザインに関わる標準的な教科書である。都市計画に関わる歴史や理論・概念、および法制度について幅広く概観されており、都市計画に関する全体像を得るのに適している。教材②は関東大震災後からの住宅政策の歴史を、論点を明確にしつつ論じたものである。現在の地域空間がどのような政策によって誘導され形成されてきたかを理解するのに適している。</p>
参考図書	<p>著者名： 日端康雄            教材名： 『都市計画の世界史（講談社現代新書）』（講談社 2017年） ISBN：978-4062879323 1,320円            著者名： 日笠端・日端康雄            教材名： 『都市計画 第3版増補』（共立出版 2015年） ISBN：978-4320077140 4,400円</p>
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「都市計画」の概要を理解する。</li> <li>・住宅地計画の方法がどのような考え方に基ついて行われているかについて理解する。</li> <li>・社会的背景の変化に伴う住宅政策の変容を理解する。</li> </ul>
レポート課題1	<p>高度成長期に大量の住宅供給が行われた郊外住宅地の特徴について、「近隣住区」および「用途地域」の語を交えて説明してください。            留意点：住宅地計画の手法に着目して説明してください。</p>
レポート課題2	<p>平成期におきた住宅政策の転換について、我が国における都市の整備状況や社会状況との関係を踏まえ説明してください。            留意点：戦後の復興から成長・拡大を続けてきた時期と現在の成熟期と言われる状況を比較し、違いに着目して説明してください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：①山口幹幸・川崎直宏 編 ②ちば地域再生リサーチ 編            教材名：①『人口減少時代の住宅政策—戦後70年の論点から展望する』（鹿島出版会, 2015年） ISBN:978-4306046306 2,300円＋税            ②『市民コミュニティ・ビジネスの現場—建て替えない大地再生のマネジメント』 ISBN:978-4-395-01035-6 2,400円＋税</p> <p>教材①は現在の地域空間がどのような政策によって誘導され形成されてきたか、その上で現在の住宅地の課題を理解するのに適している。教材②は東京近郊のニュータウンにおいて団地再生に取り組んできたNPOの活動記録である。高度成長期の都市計画や住宅政策によって作られた都市空間に対して、現在のまちづくりの活動としていかに取り組んでいるかを理解するために有益である。</p>
参考図書	<p>著者名： 大月敏雄・住宅生産人口財団 監修            教材名： 『市民がまちを育む—現場に学ぶ「住まいまちづくり」』（建築資料研究社2022） ISBN：978-4-86358-824-0 2,500円＋税</p>
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にまちづくりに取り組むNPOの活動記録から、当該NPOが取り組む具体的な地域課題が都市計画の課題であることを理解し、またその対策について理解する。</li> <li>・都市空間に関する課題が、行政による対策だけでなく、民間のさまざまな主体による取り組みが必要とされるようになった、その課題の特徴を踏まえて理解する。</li> </ul>
レポート課題1	<p>教材2②のNPOが行う具体的な地域課題解決の取り組みを一つ取り上げ、NPOの活動地域が抱える地域課題と取り組む内容の関係について具体的に説明してください。            留意点：いずれの課題もその要因が都市空間としての住宅地に関わることに着目してください。</p>
レポート課題2	<p>民間によるまちづくり活動の担い手が必要とされるようになった理由を、都市が成長し拡大してきた時期の課題と、成熟期と言われる課題との違いに着目し説明してください。            留意点：事例として現代の都市空間が抱える具体的な課題をあげつつ論じて下さい。</p>

## 基本教材1

第1回	本科目の「目的」と「到達目標」を理解したうえで、教員との意見交換により「学修の進め方」を理解する。
第2回	教材1 (1) に基づく学修（都市の概要、都市計画の概要）
第3回	教材1 (1) に基づく学修（近代都市計画の変遷、地域計画と都市計画マスタープラン）
第4回	教材1 (1) に基づく学修（都市更新と都市開発、都市計画に関する法制度）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第5回	教材1 (2) に基づく学修（戦後70年の住宅政策 1 萌芽期）
第6回	教材1 (2) に基づく学修（戦後70年の住宅政策 2）
第7回	教材1 (2) に基づく学修（戦後70年の住宅政策 3）
第8回	教材1 (2) に基づく学修（戦後70年の住宅政策 4）
第9回	教材1 (2) に基づく学修（戦後70年の住宅政策 5）
第10回	教材1 (2) に基づく学修（戦後70年の住宅政策 6）
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する。
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき再検討を行う。
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき再検討を行う。
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める。
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する。

## 基本教材2

第1回	教材2 (1) に基づく学修（人口減少時代の住宅政策 1・2）
第2回	教材2 (1) に基づく学修（人口減少時代の住宅政策 3・4）
第3回	教材2 (1) に基づく学修（人口減少時代の住宅政策 5・6）
第4回	教材2 (2) に基づく学修（はじめに、コミュニティ・システムの更新、コミュニティの衰退と生命、限界のコミュニティ）
第5回	教材2 (2) に基づく学修（ちば地域再生リサーチの設立、ちば地域再生リサーチの戦略）
第6回	教材2 (2) に基づく学修（住まいのリペア・リフォーム）
第7回	教材2 (2) に基づく学修（コミュニティ・暮らしサポート、団地学校）
第8回	教材2 (2) に基づく学修（コミュニティ・アート、エリア経済の活性化サポート）
第9回	教材2 (2) に基づく学修（住まい・町再生サポート、事業のマネジメント）
第10回	教材2 (2) に基づく学修（コミュニティ・システム更新のためのパートナーシップ、コミュニティの診断）
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する。
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき再検討を行う。
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき再検討を行う。
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める。
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する。

科目名	地方共生論特講	担当者	カミイ ヒロユキ 神井 弘之	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	---------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>人口減少、少子高齢化の進展する我が国においては、多様な主体が協働して、地域の活力と魅力を高め、生活の質を向上させていくことが社会的な課題となっています。この際、経済の観点のみならず、環境の観点、社会の観点からも持続性を高めることが求められています。</p> <p>本講座では、多様な主体が協働する持続可能な地域づくりのなかでも、特に、人口減少面等から社会課題が先行して顕在化している農村地域を主な対象として取り上げ、持続的な活力と魅力づくりに関する現状・課題や先進的な取組みについて、体系的な知識を身につけることにより、地域のリーダーとして、現状の評価・分析を行うとともに、地域づくりの実践活動として未来志向の対話等を実践する能力を身につけることを目的とします。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>学修者が関わる地域づくりにおいて、地域の活力と魅力を高め、生活の質を向上させていく取組みを企画し、実践できるよう、社会課題が先行して顕在化している農村地域を主な対象として、①我が国の地域づくりのこれまでの経緯と現在直面している課題、関連する政策等に関する知識を獲得し、②最近の地域づくりにおける先進的な具体例について、体系的に評価・分析、課題抽出を行う技能を修得するとともに、③未来志向の対話の実践などにより、多様な主体との協働を構想し、地域づくりの持続性向上を常に模索する態度を身につけることを目標とします。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>①(知識・想起・解釈) 農村地域に関する社会課題の経緯、地域づくりの現状・課題や関連する政策について知識を獲得し、それを説明できる。</p> <p>②(知識・問題解決/技能) 地方における持続的な活力と魅力づくりの先進的な事例の特長・傾向を把握しており、①で獲得した知識を活用して、具体的な地域づくりの取組(ケース)を評価・分析し、課題を抽出することができる。</p> <p>③(技能/態度) ②の技能で抽出した課題に対して、持続可能な地域づくりのための改善策を構想することができる。この際、未来志向の対話の実践などにより、持続可能な地域づくりのために多様な主体による協働を実現するよう配慮することができる。</p>		
学修方略(方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>①基本教材及び参考図書を熟読し、内容の理解を深める(自習) 【SBO①②】 【15時間/レポート1本】</p> <p>②レポート課題に則して情報を収集・分析する(自習) 【SBO②③】 【15時間/レポート1本】</p> <p>③課題レポートの初稿を作成する(レポート作成) 【SBO②③】 【15時間/レポート1本】</p> <p>④manaba folioを利用したレポート添削で教員と意見交換を行う(ディベート) 【SBO①②③】 【15時間/レポート1本】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folioを利用して、教員と学修者との間での双方向を重視した指導を実施します。</p>		
スケジュール	<p>【前期】レポート課題1は7月末に草稿提出、レポート課題2は8月末に草稿提出、複数回の意見交換と修正を経て、最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p> <p>【後期】レポート課題1は11月中旬に草稿提出、レポート課題2は12月中旬に草稿提出、複数回の意見交換と修正を経て、最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p> <p>※レポート課題の草稿について、意見交換と修正を何度か行うことで、修士論文を書く際に必要となる基礎的な事項を修得することが出来ます。そのためには、レポートの草稿を極力早い時期より提出することが望まれます。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	レポートの評価は全体で、80%とします。前期レポート課題1・2、後期レポート課題1・2に、それぞれ20%を配分します。	80%
	観察記録	レポート課題の草稿提出から最終稿提出までのプロセスにおける対応(例えば、加筆、修正のコメントに対する対応)を評価します。1つのレポート課題に、5%を配分します。	20%
履修者への要望	<p>本講座では、多様な主体が協働する持続可能な地域づくりのなかでも、特に、人口減少面等から社会課題が先行して顕在化している農村地域を主な対象として、体系的な知識の修得と具体的な先進事例の評価・分析を行うこととしています。特に、先進事例の評価・分析については、エピソードの羅列に陥ることなく、体系的に情報を整理し、分析することが期待されます。その趣旨を踏まえて、自分なりのオリジナルな解釈を論理的に記述することが重要です。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：小田切徳美著            教材名：『農村政策の変貌 その軌跡と新たな構想』（農山漁村文化協会、2021年）            ISBN：978-4-540-20173-8 2,400円＋税</p> <p>農村政策の理論や農村実態の詳細な分析を行うと同時に、中山間地域直接支払制度、地域おこし協力隊、小さな拠点、ふるさと納税、過疎法等の農村に関連する関係省庁の政策についても幅広く取り扱い、地域政策の総合化について論じた書籍です。</p>
参考図書	<p>松原宏『地域経済論入門 改訂版』（古今書院、2022年）ISBN：978-4-7722-5343-7 2,800円＋税</p>
履修上のポイント	<p>農村の現状・課題と関連する政策をテーマにした書籍を基本教材1としたのは、人口減少面等から社会課題が顕在化している農村地域を対象として、地域づくりに関する全体像を把握することによって、多様な主体が協働する持続可能な地域づくりについて、体系的に考察することが容易になると考えたためです。基本教材1に基づいて、農村の現状・課題、関連する政策について、体系的に把握し、そこで得た知識を論理的な評価・分析に役立てられるよう、レポート課題作成に臨んでください。</p>
レポート課題1	<p>「ふるさと納税」について、地域政策としての意義、効果と課題を3,000字程度でまとめてください。この際、キーワードとして、必ず「関係人口」と「返礼品競争」について触れてください。            留意点：基本教材1の記述を基に課題をまとめることが基本となります。なお、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。</p>
レポート課題2	<p>「関係人口論」の解釈、意義と今後の展望について、3,000字程度でまとめてください。この際、キーワードとして、必ず「地域おこし協力隊」と「田園回帰」について触れてください。            留意点：基本教材1の記述を基に課題をまとめることが基本となります。なお、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：基本教材2（1）井上岳一著，基本教材2（2）平井太郎著            教材名：基本教材2（1）『日本列島回復論 この国で生き続けるために』（新潮社、2019年）ISBN：978-4-10-603847-1 1,400円＋税，基本教材2（2）『地域でアクションリサーチ』（農山漁村文化協会、2022年）ISBN：978-4-86113-862-1 1,500円＋税</p> <p>基本教材2（1）；「田舎の中でも、森が豊かで、水に恵まれ、川や海や湖があって、かつ、人が古くから住んできた場所」を「山水郷」と呼び、そこに「次の社会をつくる鍵があるのではないか」との問題意識で、自然、歴史、コミュニティ、テクノロジーを総動員して構築する新しい社会のあり方について論じた書籍です。基本教材2（2）；地域づくりの現場において、「話し合い、知恵を寄せ合い、少しずつ事態を打開する」ために、「やりながら考える、省みながらやってみる、といったかたちで実践と研究を組み合わせ、課題に向き合う」手法として、アクションリサーチを紹介した書籍です。</p>
参考図書	<p>アンドレ・シャミネー著、白川部君江訳『行政とデザイン 公共セクターに変化をもたらすデザイン思考の使い方』（ビー・エヌ・エヌ新社、2019年）ISBN 978-4-8025-1149-0 3,200円＋税            内田樹著『ローカリズム宣言 「成長」から「定常」へ』（株式会社デコ、2018年）            ISBN：978-4-906905-16-4 1,600円＋税</p>
履修上のポイント	<p>自然、歴史、コミュニティ、テクノロジーを総動員して持続可能な社会を構築する構想について記した『日本列島回復論』と、地域づくりの具体的なアプローチとして「話し合いを変える実践と理論」を記した『地域でアクションリサーチ』の2冊を基本教材2としました。基本教材1で学んだ農村の現状・課題、関連する政策に関する体系的な知識を活用して、学修者の独自の観点から、「山水郷」という構想や「アクションリサーチ」という手法を解釈し、評価することが有益だと考えます。</p>
レポート課題1	<p>基本教材2（1）で示された「山水郷」のコンセプトと具体的な実践事例、今後の課題について、基本教材1で獲得した農村政策や最近の動向も踏まえて、3,000字程度でまとめてください。この際、キーワードとして、「内発的発展」と「コミュニティ」に必ず触れてください。            留意点：基本教材2（1）の記述を基に課題をまとめることが基本となります。基本教材1で獲得した知見を活かして、自分なりの考察を加えるよう努めて下さい。なお、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。に絞り込んで、自分なりの考察を加えることが重要と考えます。なお、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。</p>
レポート課題2	<p>基本教材2（2）で示された「アクションリサーチ」について、その概要と意義、今後の課題を、3,000字程度でまとめてください。この際、キーワードとして「地域おこし協力隊」と「安心感のある場」に必ず触れてください。            留意点：基本教材2（2）の記述を基に課題をまとめることが基本となります。基本教材1で獲得した知見を活かして、自分なりの考察を加えるよう努めて下さい。なお、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。</p>

## 基本教材1

第1回	基本教材1の狙いと学修方法についてのオリエンテーション
第2回	基本教材1に基づく学修①(農村問題の理論と政策)
第3回	基本教材1に基づく学修②(農村の変貌)
第4回	基本教材1に基づく学修③(中山間地域等直接支払制度の形成・展開・課題)
第5回	基本教材1に基づく学修④(農村政策の摸索、地域振興一括交付金、新しい集落対策)
第6回	基本教材1に基づく学修⑤(「小さな拠点」の形成、新しい過疎法)
第7回	基本教材1に基づく学修⑥(地方分権改革と市町村合併、ふるさと納税)
第8回	基本教材1に基づく学修⑦(地方創生の論点、田園回帰)
第9回	基本教材1に基づく学修⑧(地域おこし協力隊、関係人口と「にぎやかな過疎」)
第10回	基本教材1に基づく学修⑨(ポスト・コロナ社会と農村)
第11回	レポート課題1の草稿取りまとめ
第12回	教員からのレポート課題1の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第13回	レポート課題2の草稿取りまとめ
第14回	教員からのレポート課題2の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第15回	レポート課題1・レポート課題2について、必要な加筆・修正を加え、最終稿を提出

## 基本教材2

第1回	基本教材2(1)・(2)の狙いと学修方法についてのオリエンテーション
第2回	基本教材2(1)に基づく学修①(この国の行く末)
第3回	基本教材2(1)に基づく学修②(求められる安心の基盤)
第4回	基本教材2(1)に基づく学修③(山水郷の力)
第5回	基本教材2(1)に基づく学修④(動員の果てに)
第6回	基本教材2(1)に基づく学修⑤(山水郷を目指す若者達)
第7回	基本教材2(1)に基づく学修⑥(そして、はじまりの場所へ)
第8回	基本教材2(2)に基づく学修①(現場とともに地域を変える方法論)
第9回	基本教材2(2)に基づく学修②(アクションリサーチを立ち上げる)
第10回	基本教材2(2)に基づく学修③(アクションリサーチを持続させる・農村学へ)
第11回	レポート課題1の草稿取りまとめ
第12回	教員からのレポート課題1の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第13回	レポート課題2の草稿取りまとめ
第14回	教員からのレポート課題2の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第15回	レポート課題1・レポート課題2について、必要な加筆・修正を加え、最終稿を提出

科目名	知的財産論特講	担当者	ミヤシタ ヨシキ 宮下 義樹	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	---------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	本講義の目的は、知的財産について法制度とどのように利用されているかという二観点の理解をすることである。 近年、企業に知的財産は必要不可欠なものといえる。ただし、知的財産も法令を知らないと他社に真似をされたり、あるいは違法活動をしてしまい企業戦略自体が成り立たなかったりという可能性も生じる。そのため知的財産法を知ることは必須といえるだろう。特にその中でも知的財産法、特に商標法や不正競争防止法等の法律が重要である。 法制度を知ったうえで、どのような戦略を立てられるのか、様々な裁判例等も理解しつつ学修を行う。		
到達目標	【一般目標(GIO)】 知的財産法の目的と目的達成のための法内容を理解することで、企業がどのように知的財産を活用しているかを知るのに必要な法知識を学修する。 【行動目標(SBOs)】 ・知的財産法の内容、保護対象を説明できるようにする(知識・想起)。 ・裁判例・学説を理解し、企業での取り扱いを理解する(技能)。 ・制度を理解したうえで、現在発生している法的問題を説明できる(知識・解釈)。 ・知的財産法を活用した知財戦略を策定できるようにする(知識・問題解決)。		
学修方略 (方法)	【学修方略(LS)と学修時間】 ・基本教材及び参考図書を熟読する。 ・テーマを設定し、課題レポートの題材を作成する。 ・基本教材及び参考図書を用いた自己学習(20時間) ・レポート作成に関する教員との相談(15時間) ・レポート作成時間(10時間) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・テーマを実現させるのに必要な論文やデータ等を議論や質問を行いながら確認し、収集する。 ・レポート草稿を作成し、必要な指導を行いながら、改訂作業を行い、レポートを完成させる。		
スケジュール	スケジュール【前期】レポート課題1：7月中旬に草稿提出、レポート課題2：8月中旬に草稿提出、議論と指導に基づき修正を行い、学事暦で定める期限までに最終稿を提出する。 【後期】レポート課題1：11月中旬に草稿提出、レポート課題2：12月中旬に草稿提出、議論と指導に基づき修正を行い、学事暦で定める期限までに最終稿を提出する。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	レポートのテーマ設定、法律理解、判例理解、という知識面での確認をしつつ、レポート内容につき論理的展開、問題設定、批評的思考、ができていのかについても評価をする。	70%
	観察記録	教材学習の進捗とレポート作成につき、教員の指導や相談を学習に反映させているか。	30%
履修者への要望	知的財産法は、現実問題に対する解決の一方法である。基本教材や参考図書に限らず、様々な記事やニュースを確認することが望ましい。 レポート作成は様々な情報を収集することが必要であり、自分の考えだけではなく様々な先人の知恵も利用する必要がある。その場合引用や参考文献の取扱いは適切にすることが必須である。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：小泉直樹 教材名：知的財産法 第2版(弘文堂 2022年) ISBN 978-335-35898-2 3,800円+税 知的財産法一般についてまとめている。種苗法や地理的表示法等についての説明の解説もあるため、知的財産の全体を俯瞰するための基本教材として適切である。
参考図書	『商標・意匠・不正競争判例百選 第2版』有斐閣2020年 ISBN 978-4-641-11548-4 2,700円+税 特許庁編『工業所有権法(産業財産権法) 逐条解説〔第22版〕』 <a href="https://www.jpo.go.jp/system/laws/rule/kaisetu/kogyoshoyu/chikujokaisetsu22.html">https://www.jpo.go.jp/system/laws/rule/kaisetu/kogyoshoyu/chikujokaisetsu22.html</a>
履修上のポイント	知的財産法は毎年のように改正されている生きた法律である。現在がどのような制度になっていて、その制度で社会を守り切ることが可能であるかという視点を持ち、新しいビジネスの創出と法的保護の対応について、整理していくことが重要である。
レポート課題1	知的財産法の近年行われた改正についてまとめて、改正された理由とその改正が今後どのような影響をもたらすと考えられるかについて論じること(4000字程度) 留意点：改正点は担当省庁の出した資料のみでなく、実際の事件等についても調べる。
レポート課題2	知的財産法が関連する裁判例をひとつ選択し、その裁判例についての判例紹介を行う。裁判例の要約、法律上の争点、法律の解釈、判決内容への賛否を論じること。(4000字程度) 留意点：事実関係の整理と、事実に対する法律への解釈や対応を認識すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：西村雅子 教材名：商標法講義 第2版（発明推進協会2024年）4,800円＋税 ISBN 978-4-827-11392-1
	知的財産法の中で企業の知財戦略をみるのならば、特許法・商標法が中心となる。商標法は特許法と比較した場合、外部から戦略を読み取り易いといえるため、商標法からの理解を優先とする。教科書として、最新の改正まで対応している。
参考図書	中洋『デジタル時代のブランド戦略』有斐閣 ISBN 978-4-641-16622-6 山本飛翔『スタートアップの知財戦略』勁草書房 ISBN 978-4-326-40375-2
履修上のポイント	知的財産法は制定された目的があり、制定された理由がある。その目的や理由への理解を深めることで、知的財産戦略への知的財産法の活用方法の理解が深まる。 ただ知識を入力するだけではなく、自分がビジネスをするならばどのように考えるか、具体的事案に置き換えながらの学習が望ましい。
レポート課題1	知的財産法が関連する裁判例をひとつ選択し、その裁判例についての判例評釈を行う。裁判例の要約、法律上の争点、法律の解釈、判決内容への賛否という前期レポート課題1の要求に加え、裁判例の位置づけ、裁判例がもたらす影響も含めて論ずること。（4000字程度） 留意点：裁判例は点ではなく線である。どのような流れから判決に至ったかを分析することが重要である。
レポート課題2	ある企業の取得商標や広告を見て、どのような知財戦略を立てているかを推察し、知的財産法をどのように利用しているかを分析して論ずる。（4000字程度） 留意点：企業は様々な情報を出している。それら情報がどのような意味を持つのか読み取るのが重要である。

### 基本教材1

第1回	第基本教材1の目次等を確認して、知的財産制度全体を俯瞰してみる。興味を持った単元を読んでみる。
第2回	基本教材1の中から興味がある部分を見つけ、参考図書も確認しながら、理解を深める。
第3回	教員と意見交換を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第4回	教材に基づく学習を行い、レポート課題1のテーマを決定する。
第5回	レポート課題1の作成に必要な資料を収集する。
第6回	教員と意見交換を行い、レポート課題1の進捗状況を確認する。
第7回	教材に基づく学習を行い、レポート課題2のテーマを決定する。
第8回	レポート課題2の作成に必要な資料を収集する。
第9回	教員と意見交換を行い、レポート課題1、2の進捗状況を確認する。
第10回	レポート課題1、2の構成を整理する。
第11回	レポート課題1の草稿を提出する。
第12回	レポート課題1の草稿について教員と意見交換を行い、原稿の修正を行う。
第13回	レポート課題2の草稿を提出する。
第14回	レポート課題2の草稿について教員と意見交換を行い、原稿の修正を行う。
第15回	レポート課題1、2の最終稿を提出する。

## 基本教材2

第1回	教材、シラバスを確認・学習し、レポート課題の題材について草案を練る。
第2回	レポート課題を提出するにあたり学ぶべき学習領域について教員と意見交換を行う。
第3回	教員と意見交換を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第4回	教材に基づく学習を行い、レポート課題1のテーマを決定する。
第5回	レポート課題1の作成に必要な資料を収集する。
第6回	教員と意見交換を行い、レポート課題1の進捗状況を確認する。
第7回	第7回 教材に基づく学習を行い、レポート課題2のテーマを決定する。
第8回	レポート課題2の作成に必要な資料を収集する。
第9回	教員と意見交換を行い、レポート課題1, 2の進捗状況を確認する。
第10回	レポート課題1, 2の構成を整理する。
第11回	レポート課題1の草稿を提出する。
第12回	レポート課題1の草稿について教員と意見交換を行い、原稿の修正を行う。
第13回	レポート課題2の草稿を提出する。
第14回	レポート課題2の草稿について教員と意見交換を行い、原稿の修正を行う。
第15回	レポート課題1, 2の最終稿を提出する。

科目名	国際メディア論特講	担当者	ヤスエ ノブオ 安江 伸夫	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	-----------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講座は「世論」の視点を重視する。米国ではトランプ大統領、日本は高市早苗総理大臣。日米欧に自国第一主義の政治や価値観を追求する保守政権が誕生した。いずれも社会の右傾化の中で頭角を現した。民衆は弱腰の政治家やメディアを突き上げ、タカ派に期待する。自分と異なる意見に耳を傾けない。移民や外国人に対する排斥に象徴されるように異なる文化や社会、意見と衝突する。かつての異なる集団が融和し富を生んだ時代から逆コースを歩むものだ。背景には経済の低迷や格差拡大、中国など新興国との地位逆転などがあるといえる。</p> <p>本来民主主義国家ではメディア・ジャーナリズムが改善の処方箋を示し人々を動かす。だが今日、既存のメディアはオールド・メディアだと揶揄される。ここで民主主義が蔑ろにされ続けられれば既存の政治が築いてきたルールまでもが軽視され、悪や過ち、危機すら認識されなくなる可能性もあるだろう。</p> <p>本講座では、この現象が民主主義国家で始まり広がっていったこと。戦時中も似たような状況にあったことを知る。民主主義社会を維持する上で不可欠である公正な情報認識とメディアの特質を修得（一般目標(GIO)）する。さらに、以下の能力を身につけることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>メディアには議論を先行させるアジェンダ設定機能が備わることについて理解する。このアジェンダ設定機能に、メディアが戦争に加担した戦前も今日のSNS時代も、メディアの企業体・政治権力・民衆などが様々な形で関わってきた。</p> <p>本講座では、玉石混交の状態にあるメディア情報から有益な情報を見抜く方法を修得する。政治や社会に疑問の声を上げる高い倫理観を創造する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>①民主主義とは、常に問題点を指摘し修正できる仕組みである。 そこでジャーナリズムが果たすべき役割を説明できる。(知識・想起)</p> <p>②玉石混交のメディア情報から有益な情報を見抜き、構築する方法を修得する。(技能)</p> <p>③政治権力・経済発展・ジャーナリズムをメディアと関係づけて説明できる。(知識・解釈)</p> <p>④メディア(新聞からSNS)、社会形成、政治権力の変容を測定する技能が得られる。(技能)</p> <p>⑤メディアは自国に有利な情報を国家が発信する道具としても使われる事を知る。(知識・解釈)</p> <p>⑥格差や多様性による社会分断がメディアの分断と同時進行していることを知る(知識・解釈)</p> <p>⑦日本と米国、現代と戦前のメディア状況に、得た知識を応用し説明できる。(知識・問題解決)</p> <p>⑧政治体制やメディア環境の異なる社会との意思疎通に、必要な人間力が身につく。(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポート1本につき最低 45時間の学修時間を要する。</li> <li>・基本教材・参考文献の読み込み、データの探索：20時間</li> <li>・レポート執筆：10時間</li> <li>・レポートの推敲、教員の添削指導：15時間</li> </ul> <p>1科目 4単位に対し、45時間×4の時間が必要ということになる。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本教材及び参考図書等を熟読する(自習) 【SBO①&amp;②】</li> <li>・課題に沿って、事例やデータを収集し、問題点を抽出、分析する(自主研究) 【SBO②&amp;③】</li> <li>・抽出した問題点を論ずるに必要な文献・資料を検索・整理し、それに対する考え方をレポートとしてまとめる(レポート作成) 【SBO②&amp;③&amp;④】</li> <li>・上記の過程で、manaba folioの掲示板機能を利用した、受講生同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での、教員と受講生とのディスカッション、メールなどで疑問点に関し、相談・質問する。(ディベート) 【SBO②&amp;③&amp;④&amp;⑤】</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期【教材1】： 「初稿」提出：レポート課題1は第11回(7月下旬)、課題2は第13回(8月上旬)。 「最終稿」は課題1、課題2のいずれも「学事暦で定められた日(9月中旬)」までに提出する。</p> <p>後期【教材2】： 「初稿」提出：レポート課題1は第11回(11月下旬)、課題2は第13回(12月中旬)。 「最終稿」は課題1、課題2のいずれも「学事暦で定められた日(1月中旬)」までに提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	レポート内容を、問題設定・論理的展開・歴史的展開・問題提起の面から検討し、全体の記載方法、注・参考文献の適切性・記載方法、最新の研究の反映や、ご自身の研究分野との関連性などを評価する。	80%
	観察記録	スケジュールの順守の度合い、メールの送受信の状況、質疑応答の内容などを勘案する。	20%
履修者への要望	<p>情報は比較することが望ましい。新聞は左派の『朝日新聞』、右派の『産経新聞』、経済界よりの『日本経済新聞』を3紙読む。日本が海外からどう見られているかを知るため、ニューヨーク・タイムズ(ネット版)の日本に関する記事を読むことをすすめる。日本メディアが転載した米メディアの日本に関する日本語記事でもよい。比べることでいずれも何らかのバイアスがかかっていることが認識できる。庶民の世論を知る上で、ワイドショーや週刊誌にも注目する。どのメディアに接する時にも、情報に対して、以下の点を意識する。「事実なのか感想や意見、想像なのか」「過去に起きたことかこれから起きることか」「一次情報はどこの誰が、どの機関が、いつ発信したものなのか」。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンステール（澤康臣 訳） 教材名：『ジャーナリストの条件—時代を超える10の原則』（新潮社、2024年4月）</p> <p>その昔、噂を広める人を「あの人は“放送局”だ」と揶揄した。ポッドキャストまで登場したSNS時代は誰もがジャーナリストだ。米国ではジャーナリズムと民主主義が機能不全に陥った。本書は市民が公正・公平な情報にアクセスするために必要な条件を示している。メディアは議論を主導するアジェンダ設定機能を持つ。それを誰が操るかだ。権威主義国家では絶大な力を持つ政府が主導する。民主主義国家では主権を持つ国民が主導する。しかし国民自身が興味を持つ情報しか発信せず、商業的観点から報道機関がアクセスを重視し、政治家がメディアを使ってパフォーマンスを拡散するポピュリズムの政治を行ったのでは、権威主義国家と比べて言論の自由を行使できているのはどちらかという問題になる。</p>
参考図書	<p>▼津田正太郎、鳥谷昌幸、山口仁、山越修三編『ソーシャルメディア時代の「大衆社会」論 —「マス」概念の再検討』（ミネルヴァ書房、2024年）。情報洪水社会における情報の取捨選択、エコーチェンバー、陰謀論、アテンションエコノミーなどSNS時代の新現象を説明するのに役立つ。分断化された大衆社会（マス）とコミュニケーションを司るメディアとの関係を再考した論文集だ。</p> <p>▼安江伸夫『アップデートされた「反日」の法則』（集広舎、2024年）。日本と中国がぶつかる局面を冷戦後から今日まで追跡した。中国は権威主義で情報は政府が一元化し発信される。日本は民主主義で国民に言論の自由がある。しかしアクセス数が重視される。この日本と中国とで言論空間の構造や思考パターンが異なることに双方が認識できていない。中国は政府が戦略上の都合で民意を抗日にも親日にも舵を切る。日本では炎上すれば社会には反中のニュースがあふれ、沈黙化に時間がかかるうえ遺恨が残る。</p> <p>▼カリン・ウォール＝ヨルゲンセン（三谷文栄・山腰修三 訳）『メディアと感情の政治学』（勁草書房2020年）。原著の出版はトランプ政権誕生、ブルジョア運動が高揚する2019年だ。感情が事実より力を持つ「ポストトゥルース」がジャーナリズムや政治活動に与えた影響を論じた。</p> <p>▼W・リップマン（掛川トミ子 訳）『世論（上・下）』（岩波書店、1987年）。ステレオタイプにより事実がいかに歪曲するかを論じた。原著は第一次大戦後、ラジオが登場したばかりの1922年だ。</p>
履修上のポイント	<p>メディアやジャーナリズムの基本を知る。その上で「民主主義の後退」の時代的流れと背景をつかむ。あわせて日本の選挙で起きた参政党の躍進に見られた想定外の現象にも思いを巡らせてほしい。</p>
レポート課題1	<p>ポピュリズム、ナショナリズム、センセーショナルリズム、サイレント・マジョリティー、フェイク、エコーチェンバーなどの言葉を包含してジャーナリズムのあり方をまとめよ。（5000字程度） 留意点：ジャーナリズムとメディアリテラシーは民主主義復権の重要なカギであるといえる。</p>
レポート課題2	<p>排外主義など感情が影響したと思われる国際対立を例に上げ、メディアやそのユーザー、有権者でもある私たちのあるべき姿を論ぜよ。（5000字程度） 留意点：世論の力は大きい。民衆を含めたジャーナリズムの担い手の責任放棄は許されない状況だ。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：益田肇（ますだ・はじめ） 教材名：『人びとの社会戦争—日本はなぜ戦争の道を行んだのか』（岩波書店、2025年）</p> <p>戦争がなぜ起きたのかについては従来、軍部やメディアの責任追及が中心だった。本書は加えて私たち民衆の高揚感にも原因があるのではないかと訴える。日本が戦争に邁進した時代を背景から動かした世論を分析した。戦争開始当時の日本社会は大正デモクラシーで民意は引き締めから解放された真ただ中にあったことに注目した。軍部が戦争に引きずり込んだだけではない。戦勝する国家に拍手し家族を送り込むことに同調する構図があったというのだ。それは反論したくても主張できない空気存在でもある。2021年出版の『人びとの中の冷戦世界—想像が現実となるとき』（岩波書店）は朝日新聞社の第21回大佛次郎論壇賞と毎日新聞社の第75回毎日出版文化賞（いずれも2021年）を受賞した。本講座の基本教材『人びとの社会戦争』は先の受賞作と同じ手法で太平洋戦争中の日本社会を分析した。</p>
参考図書	<p>▼大森淳郎『ラジオと戦争』（NHK放送文化研究所、2023年） 戦時中、国家に利用された旧・日本放送協会のラジオ放送の記録を、生存者の証言と当時の資料から検証した。昭和に入りラジオがニューメディアとして登場した。選挙権拡大とともに聴取者も広がった。リスナーの期待に応じた。政府、メディア、民衆の熱狂の中で戦争に走らせた空気について考える。</p> <p>▼筒井清忠『戦前日本のポピュリズム』（中央公論新社（中公新書）2018年） 戦争拡大の背景にあった民意に注目した。ポピュリズム型の政治が生まれていた。政府による検閲や言論弾圧がありメディアが煽り、国民が熱狂して戦争に突き進んだ。だが大正デモクラシーの時代だ。政党政治と普通選挙が進展し民衆が政治発言権を拡大させた。世界に一等国の発言権を求めた。慎重な論調の新聞社を民衆は批判した。排外主義が広がり満州事変と国際連盟脱退、軍部の行動を支持した。</p> <p>▼戦時中の新聞報道を検証した2点を挙げる。資料として参考にしてほしい。①鈴木健二『戦争と新聞（毎日新聞）』（筑摩書房、2015年文庫復刊。初刊は毎日新聞、1995年）②朝日新聞取材班『新聞と戦争（上下）』（朝日新聞、2011年に文庫で復刊。初刊は2008年）</p>
履修上のポイント	<p>世論の高揚がメディアを通じて政治を動かす状況が、日本が戦争に進んだ当時にも存在していたことを知ってほしい。経済的に苦しいときは敵を外に求める。常に自国を正当化するからだ。隣国との外交摩擦や陰謀論が生まれる。政治はポピュリズムに走る。民衆は弱腰の政治家やメディアを突き上げ、タカ派に期待する。そこにメディアの商業主義がはまる。</p>
レポート課題1	<p>基本教材をもとに戦時中と今日の共通点と違いをまとめよ。戦時は民主主義が進展する中で起きた。私たち民衆自身の意識や責任の視点を中心にすること。（5000字程度） 留意点：私たち民衆自身の意識や責任の所在、社会の同調圧力や空気を中心に考えてみる。</p>
レポート課題2	<p>外国人に対する排外感情や排斥運動が高まる中で、これに反論する意見を発言しにくい社会になっている。議論になる前に衝突する状況だ。先進各国に共通の問題でもある。基本教材や参考図書を踏まえて、言論の自由を維持していくために必要な解決法を提言せよ。（5000字程度） 留意点：過去に戦争が起きたときにも空気に逆らえなくなる現象が起きた。</p>

## 基本教材1

第1回	学ぶべき課題について全体的に把握すべく、教材に基づく学修①（通読）を行う。
第2回	教員と意見交換し、教材に基づく学修②を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第3回	教材に基づく学修③を行い、レポート課題1のテーマを考察する。
第4回	教材に基づく学修④を行い、レポート課題1の関連参考図書を渉猟する。
第5回	教材に基づく学修⑤を行い、目次を作成する。
第6回	教員と意見交換し、教材に基づく学修⑥を行い、レポート作成までの工程表を再検討する。
第7回	教材に基づく学修⑦（通読）を行い、レポート課題2のテーマを考察する。
第8回	教材に基づく学修⑧を行い、レポート課題1と課題2の関連を考察する。
第9回	教材に基づく学修⑨を行い、レポート課題2の関連参考図書を渉猟する。
第10回	教材に基づく学修⑩を行い、レポート課題2の目次を作成する。
第11回	レポート課題1について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第12回	レポート課題1に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題1を作成する。
第13回	レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第14回	レポート課題2に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題2を作成する。
第15回	レポート課題1・レポート課題2の最終稿を提出する。

## 基本教材2

第1回	学ぶべき課題について全体的に把握すべく、教材に基づく学修①（通読）を行う。
第2回	教員と意見交換し、教材に基づく学修②を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第3回	教材に基づく学修③を行い、レポート課題1のテーマを考察する。
第4回	教材に基づく学修④を行い、レポート課題1の関連参考図書を渉猟する。
第5回	教材に基づく学修⑤を行い、目次を作成する。
第6回	教員と意見交換し、教材に基づく学修⑥を行い、レポート作成までの工程表を再検討する。
第7回	教材に基づく学修⑦（通読）を行い、レポート課題2のテーマを考察する。
第8回	教材に基づく学修⑧を行い、レポート課題1と課題2の関連を考察する。
第9回	教材に基づく学修⑨を行い、レポート課題2の関連参考図書を渉猟する。
第10回	教材に基づく学修⑩を行い、レポート課題2の目次を作成する。
第11回	レポート課題1について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第12回	レポート課題1に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題1を作成する。
第13回	レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第14回	レポート課題2に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題2を作成する。
第15回	レポート課題1・レポート課題2の最終稿を提出する。

科目名	日中比較社会論特講	担当者	タカツナ ヒロフミ 高綱 博文	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	-----------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	本講義では、上海における日本人コミュニティの歴史と日中関係史を主要なテーマとする。はじめに、本講義は前の上海日本人コミュニティの形成・発展・崩壊の歴史過程を中心に講述する。「国際都市」上海には、戦前最も多い時に約10万人の日本人が在留し、上海「共同租界」の一角には日本人コミュニティが形成されていたが、その歴史を明らかにする。次に、日本と中国の150年の歴史を世界史の文脈において考察し、両国の「敵対」・「依存」・「相互理解」の錯綜した関係を明らかにする。それによって、歴史的視点とより正確な歴史像把握の方法を身につけ、問題発見・解決力、省察力、世界の現状を理解し説明する能力の獲得を目指す。		
到達目標	<p>【一般目標(GI0)】</p> <p>本講義は、近代上海における日本人の活動と意識を分析対象として取り上げ、日中関係史を歴史的に理解し、歴史学による実証的且つ批判的な研究方法論を学修する。</p> <p>【行動目標(SB0s)】</p> <p>日中関係の歴史について現代的な視点から考察し、日中関係の新たな未来を創造することのできる人材を育成する。 現代中国や上海に関する映像などを多く視聴し、今後の日本が中国といかに向き合うかについて考える。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>(自主研究) 教材及び参考文献の検索と熟読 (レポート作成) レポートの作成・レポート推敲 (ディベート) 掲示板のディスカッション、ピア・レスポンス(受講者同士で互いのレポートにコメントをし合い、推敲する協働活動) 学修時間: レポート課題1つにつき、凡そ45時間(教材・参考文献の学修に20時間、レポート作成に10時間、レポートの推敲と最終稿の完成に15時間)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folioの掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)</li> <li>・OERを視聴し、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	前期: 基本教材『「国際都市」上海のなかの日本人』序章から第4章を学修し、前期レポート課題については9月の提出期日までに提出する。 後期: 基本教材『「国際都市」上海のなかの日本人』第5章から終章を学修し、後期レポート課題については1月の提出期日までに提出する。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材理解度15%, 論旨の一貫性15%, 要約力15%, 表現力15%, 解釈の妥当性15%	75%
	観察記録	ピア・レスポンスへの参加度, レポート添削への対応等	25%
履修者への要望	本講義は、近代上海における日本人の「帝国意識」とその行動を歴史学的に検証するものであるが、レポートを作成する際には論文を作成するトレーニングであるとの自覚に基づき社会科学の方法論を積極的に修得しようとする熱意を持つことを要望する。 なお、最終レポートは学事歴で定められた日まで提出して下さい。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：高綱博文 教材名：『「国際都市」上海のなかの日本人』（研文出版，2009年） ISBN:978-4-87-636297-4 6,500円+税
	本書の前半は、序章・第1章 上海日本人居留民社会、第2章 上海「在華紡」争議、第3章 上海事変と上海日本人居留民、第4章 日中戦争期の「租界問題」
参考図書	榎本泰子『上海』（中公新書,2009年） ISBN:978-4-12-102030-7 800円+税
履修上のポイント	本書は、上海日本人居留民社会の初期から終焉に至る時期を考察の対象としている。特に日清戦争から第二次上海事変までの社会形成・発展期に確立した社会階層及び社会組織を具体的に解明し、それを基礎として上海日本人居留民の活動及び意識を検証したところに方法論的な特徴がある。これにより上海の日本人居留民社会が他の外国人コミュニティと比較して閉鎖的・排外的な特性を帯びた要因を析出し、「国際都市」上海における日本人コミュニティの位置付けが歴史的に解明されている。
レポート課題1	近代上海における日本人居留民社会の形成と特徴について論述しなさい。 留意点：本書(教材)の序章及び第1章を学習して、近代上海の歴史的な性格を明確にした上で、上海日本人居留民社会のあり方を検証すること。
レポート課題2	上海日本人居留民の「帝国意識」に基づく中国民衆に対する行動について論述しなさい。 留意点：本書(教材)の第2章及び第3章を学習して、上海日本人居留民の行動を具体的に検証すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：高綱博文 教材名：『「国際都市」上海のなかの日本人』（研文出版，2009年） ISBN:978-4-87-636297-4 6,500円+税
	本書の後半は、第5章 上海内山書店及び補論・第6章 上海日本人居留民の歴史意識の生成・第7章 最後の上海日本人居留民社会・第8章 上海日本人引揚者のノスタルジー・終章からなる。
参考図書	榎本泰子『上海』（中公新書,2009年） ISBN:978-4-12-102030-7 800円+税
履修上のポイント	本書は、上海日本人居留民社会の初期から終焉に至る時期を考察の対象としている。特に日清戦争から第二次上海事変までの社会形成・発展期に確立した社会階層及び社会組織を具体的に解明し、それを基礎として上海日本人居留民の活動及び意識を検証したところに方法論的な特徴がある。これにより上海の日本人居留民社会が他の外国人コミュニティと比較して閉鎖的・排外的な特性を帯びた要因を析出し、「国際都市」上海における日本人コミュニティの位置付けが歴史的に解明されている。
レポート課題1	上海内山書店が日中文化交流に重要な役割を果たし、その書店経営が成功した理由について考察しなさい。 留意点：第5章及び補論を学習し、上海日本人居留民社会における内山書店の特異性を明確にし、その内山完造の中国体験を検証すること。
レポート課題2	敗戦後における上海日本人引揚者たちの意識のあり方について考察しなさい。 留意点：第6章、第7章及び第8章を学習して、上海日本人引揚者の「歴史意識」・「帝国意識」・戦争責任認識などについて検証すること。

### 基本教材1

第1回	教材及びシラバスを読み、学修課題と学修方法を理解する
第2回	教材の学修：序章
第3回	教材の学修：第1章
第4回	課題資料の検索と分析
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	教材の学修：第2章
第10回	教材の学修：第3章
第11回	課題資料の検索と分析
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

### 基本教材2

第1回	教材及びシラバスを読み、学修課題と学修方法を理解する
第2回	教材の学修：第5章
第3回	教材の学修：補論
第4回	課題資料の検索と分析
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	教材の学修：第6章
第10回	教材の学修：第7章・第8章
第11回	課題資料の検索と分析
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	日中比較社会論特講	担当者	マツシゲ ミツヒロ 松重 充浩	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	-----------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講義の前期では、日本・中国・韓国・台湾の歴史認識が通時的・共時的に如何に形成・展開されたのかの把握を通じて、現代東アジア地域の安定化において避けて通れない「歴史問題」をめぐる思索と対話の前提創出に必要な知見の獲得をテーマとする。</p> <p>また、後期では、近代中国東北地域の歴史と同地を巡る日中関係史を主要な対象としつつ、当該地域史・関係史を再構成する上で前提となる「問題の所在」と分析視角の把握を通じて、歴史像再構成に必要な方法論に関する知見の獲得をテーマとする。</p> <p>前後期の以上の講義によって通じて、問題発見能力、史料批判能力、論理的整合性を持った立論力の修得ができるようになります。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>本講義は、「歴史認識」と近代中国東北地域社会を分析対象として取り上げ、近代東アジア史再構成の前提となる歴史的知見と、歴史像構築に必要な史料批判と方法論を学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>①知識・解釈：歴史認識、中国近代史、近代日中関係史の理解に必要な各種事象・用語の先行研究成果をふまえた正確な内容把握と、歴史的事実を整合的に再構成していく上で有用となる方法論の利用方法を理解する。</p> <p>②技能：「記録」から如何なる歴史的事実を摘出し得るのかという史料批判と、摘出した事実を如何に整合的に再構成していくかの立論の技能を高める。</p> <p>③態度：ある事象に対峙する際に、その実態を二項対立的に単純化して把握するのではなく、それが内包する、時空を跨ぐ多元的重層性と他事象との相互連関・相互変容の実態を追究する姿勢を持てるようになる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材および必要に応じて参考図書を熟読しレポート（初稿）を作成する（自習・レポート作成、SBO①②【15時間／レポート1本】）</li> <li>教員によるコメント・指導に基づき初稿を修正する（自習・レポート作成、SBO①②【15時間／レポート1本】）</li> <li>インタラクティブな学習の場（ディスカッション）を通じて、最終レポートに到達する。また、必要に応じて、個別対面指導やゼミ形式での議論の機会を設ける（自主研究・レポート作成・ディベート、SBO②③④【15時間／レポート1本】）</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート作成過程における受講者からの質疑は、manaba folioの全受講者用の掲示板機能（スレッド）を使って応答し、その過程を受講者全員への公開により問題意識を共有する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>①前期：課題1・課題2ともに、初稿提出は令和7年6月末を目安とし、最終稿は学事暦で定められた日までとする。</p> <p>②後期：課題1・課題2ともに、初稿提出は令和7年12月中旬を目安とし、最終稿は学事暦で定められた日までとする。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材理解度20%、論旨の整合性15%、要約力15%、表現力15%、解釈の妥当性15%	80%
	観察記録	提出期限の厳守、教材以外の文献・資料の活用状況、レポート添削への対応	20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑な学習遂行のため、履修登録をした院生は、速やかに担当教員（松重）に連絡すること。（matsushige.mitsuhiro@nihon-u.ac.jp）</li> <li>レポート作成に際して、参考文献（含、基本教材・参考図書）からの要約・引用を行う場合は、そのことを必ず註記で参照・引用頁数と共に明記すること。</li> <li>レポート作成は、前述した目標とは別に、修士論文作成に必要な書式等の基礎的技術修得のレッスンともなっている。また、自らの「問題の所在」と「課題の設定」をブラッシュアップするレッスンともなっており、この点の自覚を持って積極的な講義参加を求めたい。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：田中仁（編）            教材名：『21世紀の東アジアと歴史問題：思索と対話のための政治史論』（法律文化社、2017年）ISBN:978-4-589-03840-1 3,300円（税込）</p> <p>本書は、「第I篇 20世紀中国政治の軌跡」「第II篇 アジアを『想像』する」「第III篇 韓国・台湾・中国の歴史認識」の3部構成からなり、日本・中国・韓国・台湾における歴史認識の実態を追究しており、東アジアに通用する「歴史の語り」を構想する上で前提となる知見を提供する。</p>
参考図書	<p>寺田浩明『中国法制史』（東京大学出版会、2018年）ISBN:978-4-13-032387-1 税込4,620円。            本書は、「歴史問題」の背景にある「法」をめぐる日中間の認識構造を、その形成機序から解明すると同時に、その差異を如何に乗り越えるのかについての方向性も提示している研究成果。</p>
履修上のポイント	<p>まず、グローバル大国化した中国の前提となる中国近現代史の展開が如何なる「語り」を如何なる背景の中で導出されていたのかを確認し、同時に日本におけるアジア認識の特徴についても確認して下さい。次いで、韓国、台湾、中国の歴史認識が如何なる歴史的過程に規定されつつ形成されたのかを把握した上で、東アジアにおける歴史認識をめぐる共有認識の可能性に関する考察をおこなってください。</p>
レポート課題1	<p>中華民国と中華人民共和国の歴史の「語り」が如何に展開し、それらが如何なる要因により規定されるものだったのかを論述せよ。            留意点：中国近現代史が如何なる争点をもって展開したのかを理解した上で、歴史的事実が如何なる要因をつづじて「語り」へ転化していくのかを考察して欲しい。</p>
レポート課題2	<p>日本、韓国、台湾、中国の歴史認識における特徴が如何なる背景で形成されたのかをふまえた上で、東アジア諸国間で共通の歴史認識を獲得する上での課題とその克服方法について論述せよ。            留意点：東アジア諸国における歴史認識が、それぞれ如何なる他者認識を通じて形成されているのかについて留意しつつ、その相対化の可能性を考察して欲しい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：加藤聖文・田畑光永・松重充浩（編）            教材名：『挑戦する満洲研究：地域・民族・時間』（一般社団法人国際善隣協会発行・東方書店〔販売〕、2015年）ISBN:978-4-497-21517-8 2,400円＋税</p> <p>本書は、「第1部 研究の視点」「第2部 満洲国時代の検証」「第3部 周辺と満洲」の3部構成からなり、中国東北地域において歴史的に展開した諸主体、諸事情、諸地域の相互連関・相互変容の実相解明を通じて、当該研究における「問題の所在」と「分析視角と方法」に関する新たな研究水準を提供する。</p>
参考図書	<p>安富歩・深尾葉子編『「満洲」の成立：森林の消尽と近代空間の形成』（名古屋大学出版会、2009年）ISBN:978-4-8158-0623-1 7,400円＋税。            本書は、近代中国東北地域社会が、生態系を含む如何なる要因と構造により歴史的に形成されたかを明らかにした研究成果。</p>
履修上のポイント	<p>基礎教材2の読解にあたっては、まず、日本、中国、ロシア、モンゴル、朝鮮における諸主体が中国東北地域や「満洲国」に対して如何なる施策や活動を展開していたのかを、分析対象が持つ歴史的意義をふまえて、理解してください。次いで、中国東北地域が如何なる歴史的継承性を内包していたのかを理解した上で、それが、前述した日本などの諸主体と如何なる相互連関を切り結ぶものだったのかと、その相互連関が如何なる相互変容を喚起し得るものだったのかについての考察をおこなってください。</p>
レポート課題1	<p>「満洲国」に対する戦後日本人の「記憶」と「記録」のありようが、満洲国における日本人の活動・体験と如何なる連関をもって形成されているのかを論述せよ。            留意点：満洲国における日本人の活動・体験の実態が如何なるもので、それが戦後日本社会において如何なる意味を持ったのかを考察して欲しい。</p>
レポート課題2	<p>多民族居住空間であった中国東北地域において「満洲国」が持った歴史的意義を検討する上で、重要と思われる視点やテーマを、その根拠共に論述せよ。            留意点：中国人、モンゴル人、満洲人、朝鮮人、ロシア人、日本人などが、「満洲国」において如何なる相互連関・相互変容の可能性を持ち得るものだったのかに留意して考察して欲しい。</p>

## 基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」についての全体的な理解。
第2回	基本教材1の「総論」の学修。
第3回	基本教材1の「第I編」金子論文・水羽論文の学修。
第4回	基本教材1の「第I編」丸山論文・吉田論文の学修。
第5回	基本教材1の「第II編」瀧口論文・松重論文の学修。
第6回	基本教材1の「第II編」劉論文・高橋論文の学修。
第7回	基本教材1の「第III編」柳論文の学修。
第8回	基本教材1の「第III編」許論文の学修。
第9回	基本教材1の「第III編」江論文の学修。
第10回	基本教材1の全体的把握と残された課題の確認。
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿提出。
第12回	レポート課題1に関する教員からの指摘事項に基づき、初稿内容を再検討。
第13回	レポート課題2に関する教員からの指摘事項に基づき、初稿内容を再検討。
第14回	レポート課題1・レポート課題2に関する全体的な把握を深める。
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考察結果を教員と共有し最終稿を提出する。

## 基本教材2

第1回	「学ぶべき課題」についての全体的な理解。
第2回	基本教材2の「第一部」松重論文・加藤論文の学修。
第3回	基本教材2の「第一部」塚瀬論文・菅野論文の学修。
第4回	基本教材2の「第二部」遠藤論文・白戸論文の学修。
第5回	基本教材2の「第二部」細谷論文・湯川論文の学修。
第6回	基本教材2の「第二部」大澤論文・佐藤論文の学修。
第7回	基本教材2の「第三部」鈴木論文の学修。
第8回	基本教材2の「第三部」青木論文の学修。
第9回	基本教材2の「第三部」麻田論文の学修。
第10回	基本教材2の全体的把握と残された課題の確認。
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿提出。
第12回	レポート課題1に関する教員からの指摘事項に基づき、初稿内容を再検討。
第13回	レポート課題2に関する教員からの指摘事項に基づき、初稿内容を再検討。
第14回	レポート課題1・レポート課題2に関する全体的な把握を深める。
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考察結果を教員と共有し最終稿を提出する。

科目名	経済理論特講	担当者	ゴトウ ヤスオ 後藤 康雄	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	--------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講座は、現実の日本経済の課題を考察することで、現代経済学の柱であるミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の各視点を有機的に関連付けながら習得し、経済環境を客観的に把握するための以下の能力を得ることを目的とする。</p> <p>①経済リソースの効率的配分を通じて、供給主体の生産性向上と経済全体の厚生増大を実現する経済学的な意義を理解し、現実の政策のあり方を考察する。</p> <p>②集計レベルの経済をマクロ経済学の視点から理論的・実証的にとらえ、現実の日本経済や世界経済の動向を自ら考察することができる。</p> <p>③現実の経済データを統計的に解析する考え方の枠組みを習得することにより、ミクロ的、マクロ的な経済上の仮説を検証する手法を学ぶ。それにより、自らの問題意識を現実のデータに当てはめて分析ができる基礎的な能力を得る。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 現実の経済の理解に必要な理論と実証分析手法に関する専門的知識を習得し、自ら関心のある経済領域の説明に活用できるようになる。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】 ①学修者が経済理論・実証分析手法に関する知識を整理し、各知識の相互的な関連性を含め理解する (知識) ②現実の経済現象や政策課題を、学んだ知識に基づいて自ら考察することにより、より普遍的・包括的な枠組みに位置付けて理解できる技能への向上を図る (技能) ③いずれの経済現象にも一般的な要素と個別の要素があり、それらを峻別して理論的に理解できる部分を見極めるとともに、データに基づく客観的な判断を下せるようになることで、意思決定の前提となる経済環境に臆することなく、その動向を客観的に把握できるようになる (態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 ・まず基本となる教材や各種資料等を熟読する。その過程で、理解が困難な個所や自らの問題意識を整理する。 ・その上で、レポートの素案を作成する。具体的には、①テーマの選定、②執筆の方向性 (着眼点、仮説等) の検討、③全体の骨子作成、をまとめる。 ・学修支援者が学術的・政策的な観点から専門知識に基づくコメントを与え、その内容を反映したファースト・ドラフトを作成する。 ・全体のプロセスを通じ、有機的な理解を促すために学修支援者と緊密な討議を行う場として、適切なタイミングでの添削指導を複数回にわたり行い、より充実したレポートの作成に導く。なお、作業過程を通じ、レポートに直接盛り込まれる情報だけでなく、必ずしも盛り込まれないがレポートの作成に資する関連資料を自らサーチして、読み込む。 ・学修時間については、レポートを1つ作成するごとに、参考文献・資料等の選定・読み込みに20時間以上、レポートの素案作成 (執筆の方向性の検討や骨子の作成等) に10時間以上、Manaba-Folioへのドラフト提出・改訂稿の作成の連絡・調整に15時間以上を目安とする。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 教材および適宜指示・配布する講義資料、参考文献・資料類に基づく。教材の選定は基本的に教員が行うが、履修者の関心を取り入れる部分もあり得る。アクティブラーニングは予定していない。</p>		
スケジュール	<p>①提出期限より前にManaba Folioを通じて、複数回、直接的なやりとりを行うことで理解を深めておくこと。また、初稿の提出は、学事暦に定められる最終的な提出期限の4週間前までに行っておくこと。 ②課題への基本的な取り組み方が分からず、提出期限までの完成に不安がある場合、自ら抱え込んだままにせず、早い段階で大まかな問題意識とともにManaba Folioを通じて相談する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	①教材の内容を十分に修得し、それらに基づいて執筆されているか ②自らの考察を、読者に伝わるように書かれているか ③自主的に関心を持って情報を集め、活用して解答しているか	80%
	観察記録	①最終提出までに複数回の指導を受けて作業が進められているか ②最終提出4週間前に初稿を提出できているか (減点項目)	20%
履修者への要望	<p>経済学は現実の問題意識、例えば政策課題や経営上の関心などをもって取り組むことが、深い理解に到達するために有効である。講義で直接取り扱う文献類のみならず、日常から幅広い情報源 (新聞、経済誌、各種文献等) に積極的に触れていることが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：大守 隆・増島 稔（編） 教材名：『日本経済読本（第23版）』東洋経済新報社、2025年1月 ISBN:9784492100400 2,640円（税込）
	金融、財政、景気、産業、雇用、世界経済などを幅広く捉え、現代の日本経済の課題を多面的に考察する。
参考図書	日経ビジネス編集部（編）『日経ビジネス 日本経済入門 第2版』日経ビジネス社、2019年12月、 ISBN:9784296105007 2,750円（税込）
履修上のポイント	まず日本経済の弱み、強みは何かという問題意識を持って、現状を理解してもらいたい。その上で、それが当面の政策課題にどうつながるか、企業経営や家計マネジメントにどのような含意をもたらすか、という観点で考察を深めてもらうことを期待する。最終的には、今後の政策のあり方や経済全体のシナリオメイキングにつなげて欲しい。
レポート課題1	教材1および参考図書の内容を参考にしつつ、わが国の金融政策の展望について自らの考えをまとめ、今後のあり方を述べてもらう。 留意点：経済メカニズム（因果関係）に留意し、現実のデータを踏まえた議論を展開する。
レポート課題2	教材1および参考図書の内容を参考にしつつ、日本の財政の先行きについて展望を述べ、財政再建の必要性と今後のあり方を考察し、考えをまとめる。 留意点：経済そのもののメカニズムに加え、政治との相互作用など現実の経済に影響を及ぼす要素についても配慮する。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：①森川正之（著） 教材名：『生産性 誤解と真実』日本経済新聞出版社、2018年11月 ISBN:978-4532358037 3,000円+税
	②著者名：玄田有史（編） 教材名：『人手不足なのになぜ賃金が上がらないのか』慶応義塾大学出版会、2017年4月 ISBN:978-4766424072 2,200円（税込）
参考図書	宮川努（著）『生産性とは何か』筑摩書房、2018年11月 ISBN:978-4480071897 800円+税
履修上のポイント	日本経済のみならず、先進国の経済は全体として低成長の傾向にある。こうした状況を企業と家計、生産性と賃金という相互に関連する視点から解きほぐし、まずは現状を経済理論の枠組みに基づいて理解する。その上で、政策的・マネジメント的に改善すべき点を検討し、その処方箋を自らの問題意識として考察してもらいたい。
レポート課題1	教材2および参考図書の内容を参考にしつつ、わが国の経済成長力の先行きについて自らの考えをまとめ、今後の成長戦略の可能性を述べる。 留意点：成長の3要素（労働力、資本、生産性）のいずれを高めるかを明示する。
レポート課題2	教材2および参考図書の内容を参考にしつつ、労働市場の先行きを展望し、日本経済の成長力と関連付けながら今後のあり方について考察する。 留意点：これまで議論されてきた「働き方改革」の要素を織り込む。

## 基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」に関する総合的な理解を達成し、教材に基づく学修①（日本経済の基本構造）を行う
第2回	「学修の進め方」について教員との意見交換を通じて理解し、教材に基づく学修②（歴史的経緯）を行う
第3回	教材1に基づく学修③（企業の視点からの関心事項）
第4回	教材1に基づく学修④（家計の視点からの関心事項）
第5回	教材1に基づく学修⑤（金融政策の状況）
第6回	教材1に基づく学修⑥（財政の現状）
第7回	教材1に基づく学修⑦（産業界と産業政策）
第8回	教材1に基づく学修⑧（通商問題）
第9回	教材1に基づく学修⑨（地域政策）
第10回	教材1に基づく学修⑩（経済政策全般の論点）
第11回	レポート課題1・2の最終検討（教員とのインタラクティブ討議等）
第12回	レポート課題1・2それぞれの初稿を完成し、教員に提出する
第13回	レポート課題1に対して教員からコメントを得て、それに踏まえた改訂を行う
第14回	レポート課題2に対して教員からコメントを得て、それに踏まえた改訂を行う
第15回	レポート課題1・2の内容を教員と共有し、了承を得た上で、最終稿を学事歴で定められた日までに提出する

## 基本教材2

第1回	「学ぶべき課題」に関する総合的な理解を達成し、教材に基づく学修①（生産性と成長会計）を行う
第2回	「学修の進め方」を教員との意見交換を通じて理解し、教材に基づく学修②（労働市場の基本構造）を行う
第3回	教材2に基づく学修③（技術革新と生産性）
第4回	教材2に基づく学修④（産業構造の変化）
第5回	教材2に基づく学修⑤（グローバル競争と生産性）
第6回	教材2に基づく学修⑥（資本蓄積の視点）
第7回	教材2に基づく学修⑦（賃金の決定）
第8回	教材2に基づく学修⑧（労働生産性と労働分配率）
第9回	教材2に基づく学修⑨（人的資本の向上）
第10回	教材2に基づく学修⑩（成長戦略の論点）
第11回	レポート課題1・2の最終検討（教員とのインタラクティブ討議等）
第12回	レポート課題1・2それぞれの初稿を完成し、教員に提出する
第13回	レポート課題1に対して教員からコメントを得て、それに踏まえた改訂を行う
第14回	レポート課題2に対して教員からコメントを得て、それに踏まえた改訂を行う
第15回	レポート課題1・2の内容を教員と共有し、了承を得た上で、最終稿を学事歴で定められた日までに提出する

科目名	国際経済政策論特講	担当者	マエノ タカアキ 前野 高章	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	-----------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	近年の世界経済では、グローバルな貿易自由化が進められると同時に、地域統合への活発な動きも見せている。特に1990年代以降、企業や産業のグローバルな経済活動に伴い部品・コンポーネントなどの中間財の貿易が拡大し、グローバル・バリュー・チェーン（GVCs）が広域に発展してきている。そのような近年の国際分業の特徴は市場のグローバル化、政治と政策、企業の行動など様々な視点から考察することが求められる。本講座は、国際分業構造の変化、企業の海外進出、地域経済の発展などの関連性に着目し、理論・実証・政策の面から国際経済政策を分析することを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 最新理論、通商政策の論点、実証分析手法を理解し、仮説の提起・検証のプロセスを熟知することを到達目標とする。グローバル化での経済政策（特に、通商政策）が各国経済と地域経済に与える影響を把握するために、国際経済と経済政策の理論的考察の知識を習得し、国際経済政策問題の理論的アプローチの変遷を理解する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】 ミクロ経済の基礎理論と国際貿易理論を応用することができる。 生産活動のグローバル化と国際分業構造の変化を説明することができる。 通商政策と地域経済発展の関連性について把握することができる。 国際経済政策と地域経済統合との関わりについて分析することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 基本教材リーディング、研究文献サーベイとレポート作成を基本的な学修方法とするが、個別指導には対面指導とソーシャルメディアを利用するオンラインで行う。 レポート1本あたり、基本教材の熟読、初稿の作成、教員指導に基づく提出原稿の修正をあわせて45時間程度を要する。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 基礎理論の指導や質疑応答はLMSでのインタラクティブな指導を行う。</p>		
スケジュール	レポート提出には前期・後期ごとに期限が設けられており、提出期日は学事暦で定められた日までに提出すること。受講開始後、課題へのアプローチ方法が定まらず、初稿期限（提出期限1か月前）までに課題提出することが難しいと考えた場合には、早期に必要な質問をメールあるいはmanaba folioなどを使って連絡すること。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	課題レポートの内容を正しく理解しているかどうか、教材や参考図書を理解し、自分の意見を加えてまとめられているかどうか、課題に対する回答の分量が適切かどうか等を基準とする。	80%
	観察記録	レポートの事前準備や最終提出までに複数回のレポート交換ができていかなどといったレポート作成のプロセスを基準とする。	20%
履修者への要望	基本教材を理解したうえで、その他の関連文献などから国際経済政策に関する知識を修得することを心がけてください。また、レポート作成に関しては添削や質疑応答に関する十分な時間を確保するようにしてください。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：ジョン・マクラレン 著 柳瀬明彦 訳            教材名：International Trade 国際貿易ーグローバル化と政策の経済分析(文眞堂, 2020年) ISBN:978-4830951039 3,000円+税</p> <p>この教材は、まず国際経済に関する現実世界の政策問題を概説し、それらの主要な事実背景を提示することから、政策問題に関する課題を抽出している。その課題を理解するために必要な国際貿易理論を解説している。扱っているトピックは幅広く、グローバル化の原動力は何か、世界経済における政治と政策はどのような関係にあるか、さらに近年の重要なトピックまでも網羅している。この教材は、世界経済の現実と課題を理解・分析し、理論的アプローチを用いて望ましい国際経済政策の在り方を考察するための基本教材として位置づけられる。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若杉隆平『国際経済学(第3版)』(岩波書店, 2009年) ISBN:978-4000266994 2,900円+税</li> <li>・木村福成『国際経済学入門』(日本評論社, 2000年) ISBN:978-4535551282 3,200円+税</li> <li>・富浦英一『アウトソーシングの国際経済学』(日本評論社, 2014年) ISBN:978-4535556911 3,200円+税</li> <li>・清田耕三・神事直人『実証から学ぶ国際経済』(有斐閣, 2017年) ISBN:978-4641165175 2,800円+税</li> <li>・経済産業省『通商白書』各年版 (<a href="https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/index_tuhaku.html">https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/index_tuhaku.html</a>)</li> </ul>
履修上のポイント	<p>教材および参考図書を熟読し、国際貿易の基本理論の理解を心がける。単に理論を解釈するのではなく、現実の世界経済の変遷や事例を把握しながら貿易理論の変遷と特徴を理解すること。具体的には、伝統的貿易理論のリカード・モデル、新古典派のヘクシャー＝オリーン・モデル、そして、新貿易理論や「新」新貿易理論までの国際貿易理論の流れとそれらの理論的特徴など、国際貿易理論の基本的考え方について把握するようにすること。</p>
レポート課題1	<p>貿易理論の展開を考慮に入れ、近年の国際貿易はどのような特徴があるかを不完全競争理論の観点から説明せよ。また、貿易を行う国が国際分業を通じてどのようなメリットを得るのかについて論じなさい。            留意点：上記の履修ポイントを押さえて、国際貿易の基礎的な理論の展開を論理的にまとめるようにすること。基本教材だけでは理解が不十分な場合は、参考図書や別の資料を参照すること。</p>
レポート課題2	<p>教材の「最近の論点」の項目をもとに、自由貿易の推進は一国の経済成長にどのようなインパクトを与えるかを自分の意見を加えながら論じなさい。            留意点：通商政策の理論、保護貿易の論拠を踏まえて、主体的な意見ではなく、具体例をあげながら論理的に結果を導くようにまとめること。また、具体例の出所なども記載すること。基本教材だけでは理解が不十分な場合は、参考図書や別の資料を参照すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：木村福成編著            教材名：『これからの東アジアー保護主義の台頭とメガFTAsー』(文眞堂, 2020年) ISBN:978-4830950988 2,500円+税</p> <p>この教材は、近年の世界経済における保護主義と自由貿易の動きから東アジア諸国の経済発展と主要な論点について考察している。東アジアの経済的な連結性の強化は今後の経済発展には欠かせないものであり、グローバリゼーションを効果的に活用することが求められている点について、国際貿易論、国際通商政策論、国際政治学の視点よりまとめられている。この教材は、国際経済政策の現状や課題、将来的な在り方について考察するための基本教材として位置づけられる。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・馬田啓一・木村福成編著『通商戦略の論点ー世界貿易の潮流を読むー』(文眞堂, 2014年) ISBN:978-4830948220 2,600円+税</li> <li>・馬田啓一・木村福成編著『国際経済の論点』(文眞堂, 2012年) ISBN:978-4830947711 2,800円+税</li> <li>・渡邊頼純『GATT・WTO体制と日本ー国際貿易の政治的構造』(北樹出版, 2012年) ISBN:978-4779303371 2,500円+税</li> <li>・長谷川聰哲編『アジア太平洋地域のメガ市場統合』(中央大学出版部, 2017年) ISBN:978-4805722633 2,600円+税</li> <li>・経済産業省『通商白書』各年版 (<a href="https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/index_tuhaku.html">https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/index_tuhaku.html</a>)</li> </ul>
履修上のポイント	<p>基本教材1で学修する理論的考察を踏まえ、教材および参考図書を熟読し、日本の通商政策への取組みと、通商政策における近年の課題や将来的な方向性について理解することを心がけること。</p>
レポート課題1	<p>貿易自由化を促進させた方がいいとされる理由とそうではないとされる理由をそれぞれまとめ、自由貿易の在り方について自分の立場と意見を論じなさい。            留意点：自由貿易の利益と不利益について理論的根拠を整理すること。基本教材だけでは理解が不十分な場合は、参考図書や別の資料を参照し、出所もふまえまとめること。</p>
レポート課題2	<p>東アジアの地域経済協力についてその特徴をまとめ、国際経済活動をより円滑にするためには何が必要であるかについて論じなさい。            留意点：理論的または政策的な視点からのアプローチから通商政策における論点をまとめ、日本や東アジアはどのような経済統合戦略を進めるべきかを考える。基本教材だけでは理解が不十分な場合は、参考図書や別の資料を参照し、出所もふまえまとめること。</p>

## 基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材および参考図書に基づく学修を行う
第2回	教材および参考図書に基づく学修①（グローバル化の原動力：グローバル化の波，比較優位論）
第3回	教材および参考図書に基づく学修②（グローバル化の原動力：独占的競争の貿易モデル，「新」新貿易理論）
第4回	教材および参考図書に基づく学修③（グローバル化の原動力：寡占の貿易モデル）
第5回	教材および参考図書に基づく学修④（世界経済における政治と政策：特殊要素モデル，新古典派貿易理論）
第6回	教材および参考図書に基づく学修⑤（世界経済における政治と政策：関税政策，保護主義政策）
第7回	教材および参考図書に基づく学修⑥（世界経済における政治と政策：幼稚産業保護，貿易政策）
第8回	教材および参考図書に基づく学修⑦（最近の論点：オフショアリング）
第9回	教材および参考図書に基づく学修⑧（最近の論点：移民問題，環境問題）
第10回	教材および参考図書に基づく学修⑨（最近の論点：グローバル化と人権，経済統合）
第11回	教材および参考図書に基づく学修⑩（グローバル化のマクロ経済学的側面：貿易収支，外国為替）
第12回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容を整理し，初稿を提出する。
第13回	レポート課題1に関する指摘事項について考察および検討を行う。
第14回	レポート課題2に関する指摘事項について考察および検討を行う。
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを整理し，最終レポートを提出する。

## 基本教材2

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし，教材および参考図書に基づく学修を行う
第2回	教材1で国際経済理論の再確認をし，戦後から現在に至る世界の地域経済協力の変遷について整理する。
第3回	教材および参考図書に基づく学修①（アジア太平洋の地域経済協力の現状：経済連携の潮流と日本の通商戦略，TPPとRCEPについてそれぞれ考察する）
第4回	教材および参考図書に基づく学修②（国際貿易の利益：グローバル化の推進と保護主義の台頭についてその根拠となる理論を考察する）
第5回	教材および参考図書に基づく学修③（国際通商秩序の危機：WTOとFTA/EPAの役割について考察する）
第6回	教材および参考図書に基づく学修④（経済統合と安全保障：自由貿易と安全保障の関係性について考察する）
第7回	教材および参考図書に基づく学修⑤（地域経済統合：東アジアにおける地域経済統合の深化と経済的影響について考察する）
第8回	教材および参考図書に基づく学修⑥（国際制度と企業行動：通商政策が企業の行動にもたらす影響について考察する）
第9回	教材および参考図書に基づく学修⑦（ASEANの経済的連結：東アジア経済におけるASEAN地域の役割と課題について考察する）
第10回	教材および参考図書に基づく学修⑧（経済統合戦略：経済統合のあるべき姿をふまえた地域間の経済協定の取り組みと課題について考察する）
第11回	教材および参考図書に基づく学修⑨（COVID-19の国際的影響：COVID-19の東アジアにおける国際分業への影響について考察する）
第12回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容を整理し，初稿を提出する。
第13回	レポート課題1に関する指摘事項について考察および検討を行う。
第14回	レポート課題2に関する指摘事項について考察および検討を行う。
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを整理し，最終レポートを提出する。

科目名	国際経済政策論特講	担当者	リック ユウグン 陸 亦群	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	-----------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	近年の世界経済では、グローバルな貿易自由化が進む一方で、地域統合に向けた活発な動きも見られる。特に1990年代以降、企業や産業のグローバルな経済活動の拡大に伴い、部品やコンポーネントなどの中間財貿易が増加し、グローバル・バリュー・チェーン（GVC）が広範に発展してきた。このような国際分業の特徴については、市場のグローバル化、政治と政策、企業行動といった多角的な視点からの考察が求められる。本講座では、国際分業構造の変化、企業の海外進出、地域経済の発展などの関連性に着目し、理論、実証、政策の観点から国際経済政策を分析することを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>グローバル化時代下の経済政策が各国経済と地域経済に与える影響を把握するために、国際経済と経済政策の理論的考察の知識および実証分析手法を習得し、国際経済政策問題の理論的アプローチの変遷を理解し、仮説の提起・検証のプロセスを熟知することを到達目標とする。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <p>ミクロ経済の基礎理論と国際貿易理論を応用することができる。</p> <p>生産活動のグローバル化と国際分業構造の変化を説明することができる。</p> <p>経済政策と経済開発問題の推移を説明することができる。</p> <p>通商政策と地域経済発展の関連性について把握することができる。</p> <p>国際経済政策と地域経済統合との関わりについて分析することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>(自習) 基本教材リーディング 学修時間：12時間</p> <p>(自主研究) 研究論文サーベイ、参考文献の検索 学修時間：12時間</p> <p>(ディベート) オンラインディスカッション 学修時間：12時間</p> <p>(研究課題報告などの協働学習) ピア・レスポンス 学修時間：12時間</p> <p>(レポート作成) レポート作成及びレポート推敲 学修時間：12時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>基礎理論の指導や質疑応答はオンラインディスカッションを行い、研究課題報告についてはグループディスカッションを行う。</p>		
スケジュール	レポート提出には前期・後期ごとに期限が設けられており、提出期日は学事歴で定められた日までに提出すること。受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、初稿期限（提出期限1か月前）までに課題提出することが難しいと考えた場合には、早期にメールなどを使って連絡すること。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	課題レポートの内容を正しく理解しているかどうか、教材や参考図書を理解し、自分の意見を加えてまとめられているかどうかを基準とする。	70%
	観察記録	レポートの事前準備や最終提出までに複数回のレポート交換ができていかなどといったレポート作成のプロセスを基準とする。	30%
履修者への要望	基本教材を熟読し理解したうえで、上記列举の文献に限定せず、本屋や図書館で関連文献を入手し、インターネットなどでも検索し、積極的な知識欲を持ってほしい。レポート執筆にあたっては、自説と他説をはっきり区別し、レポート形式を守って客観的に論述し、文末に参考文献リストを付けるようにして下さい。参考文献についても、推薦参考図書に限定せず、本屋や図書館での関連文献の入手、インターネットでの検索も活用してほしい。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：古沢泰治 教材名：『国際経済学入門』（新世社、2022年）ISBN：978-4-88384-348-0 2,550円+税
	本教材は、まず国際経済に関するデータの把握から始め、国際経済学の基礎理論を概説したうえで、不完全競争下における新貿易理論を網羅し、完全競争下の貿易政策や不完全競争下の戦略的貿易政策を解説している。さらに、企業の生産性の差異を国際貿易に組み込んだ「新々貿易理論」を紹介し、それを基に直接投資、アウトソーシング、技術移転など国際貿易の新たな側面を取り上げている。本書は、理論的アプローチに基づき、望ましい国際経済政策の在り方を考察するための基本教材として位置づけられる。
参考図書	井尻直彦・羽田翔・前野高章・陸亦群『国際経済学入門』（文眞堂、2023年）ISBN：978-4-8309-5208-1 2,200円+税 若杉隆平『国際経済学(第3版)』（岩波書店、2009年）ISBN:978-4-00-026699-4 2,800円+税 清田耕三・神事直人『実証から学ぶ国際経済』（有斐閣、2017年）ISBN：978-4641165175 2,800円+税
履修上のポイント	教材および参考書を熟読し、国際貿易の基本モデルである伝統的ナリカードモデルや、新古典派のヘクシャー＝オリーン・モデルに加え、製品多様性、産業内貿易、規模の経済といった新国際貿易理論を習得してください。さらに、企業の異質性を考慮しながら、これらの基礎理論を確実に理解することを目指してください。
レポート課題1	国際分業関係の深化と現代貿易理論の展開との関連性を踏まえつつ、貿易当事国が国際分業を通じてどのようなメリットを獲得してきたのかについて論じなさい。 留意点：上記の履修ポイントを押さえて、国際経済学の基礎的な理論ベースを踏まえて論理的に考察して客観的に結果をまとめるようにしてください。
レポート課題2	自由貿易の推進は一国の経済成長にどのようなインパクトを与えるかを論じなさい。 留意点：通商政策の理論、保護貿易の論拠を踏まえて、主観的な意見ではなく、具体例を挙げながら論理的に結果を導くようにまとめてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：西口清勝 教材名：『現代東アジア経済の展開』（青木書店、2004年）ISBN:978-4-25-020431-9 3,200円+税
	本教材は、開発経済の視点から東アジア経済の「激動の10年」を捉え、「奇跡」と呼ばれる経済発展から危機への転落までを、実証と理論の両面から検討したものである。また、地域協力という最新の動向を踏まえ、東アジア共同体の可能性について考察している。本書は全8章で構成されている。第1章では、1990年代以降の開発経済学におけるパラダイム転換に触れ、世界銀行が提唱した「市場補完アプローチ」に着目している。第2章から第5章では、「奇跡」から危機への展開やアジア通貨危機を歴史の連続性の観点から分析し、危機の要因を明らかにしている。第6章から第8章では、東アジアにおける地域協力の課題を取り上げ、最後に東アジア共同体の可能性を展望し、日本が果たすべき役割について著者の見解を示している。
参考図書	陸亦群・前野高章・羽田翔・安田知絵『現代開発経済入門』（文眞堂、2020年）ISBN:978-4-83-095082-7 2,300円+税 馬田啓一、木村福成『検証・東アジアの地域主義と日本』（文眞堂、2008年）ISBN:978-4-83-094614-1 2,800円+税 トラン・ヴァン・トゥ、松本邦愛編『中国—ASEANのFTAと東アジア経済』（文眞堂、2007年）ISBN:978-4-83-094606-6 2,600円+税
履修上のポイント	本教材は、「奇跡」、「危機」、および「地域協力」というキーワードに沿って、3つの部分で構成されている。初心者にとってはやや難解に感じられる箇所もあるかもしれないが、各章では東アジア経済や地域経済協力に関する先行研究の理論的考察や豊富なリファレンスを取り上げられている。必要に応じてこれらを参照し、参考図書と併せて読むことが推奨される。
レポート課題1	東アジアの経験を踏まえて開発戦略の展開における政府の役割について論じなさい。 留意点：開発戦略の展開は、経済開発の歴史的推移および開発理論の形成との関連性が重要である。マーケットフレンドリーの考え方および基本教材2の論点をきちんと整理し、それを吟味したうえで、自分の意見をまとめるようにしてください。
レポート課題2	地域経済統合に向けた流れと東アジア新興国の国際経済政策選択について論じなさい。 留意点：東アジアにおける地域経済協力の歴史的推移をまとめることに止まらず、近年のFTA/EPA交渉、ASEAN+3, ASEAN+6、TPP交渉ならびにFTAAPなどの動向を踏まえて、基本教材の論点・見解に拘らず、国際経済政策のあり方について議論してほしい。

## 基本教材1

第1回	基本教材の学修：「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材および参考図書に基づく学修を行う
第2回	基本教材の学修：リカード・モデルと比較優位、分業の利益
第3回	基本教材の学修：H=0モデルを始めとする新古典派貿易理論と要素賦存、要素価格均等
第4回	課題論文の検索と分析
第5回	基本教材の学修：関税と保護貿易、輸出補助金等
第6回	レポート課題1：初稿の作成
第7回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成、ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	基本教材の学修：消費の多様性、独占的競争モデル、新貿易理論
第10回	基本教材も学修：企業の異質性、オフショアリングとメリッツ・モデル
第11回	課題論文の検索と分析
第12回	基本教材も学修：世界経済における貿易の自由化と経済統合
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成、ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

## 基本教材2

第1回	基本教材の学修：「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材および参考図書に基づく学修を行う
第2回	基本教材の学修：開発経済学におけるパラダイムシフト、市場補完アプローチ
第3回	基本教材の学修：アジアの「奇跡」からアジア通過・経済危機への展開
第4回	課題論文の検索と分析
第5回	基本教材の学修：アジア通貨・経済危機の歴史的連続性とアジア発展のための新戦略
第6回	レポート課題1：初稿の作成
第7回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成、ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	基本教材の学修：アジアの経済発展、アメリカの東アジア戦略
第10回	基本教材も学修：オープンリージョナリズム、域内経済協力の新展開
第11回	課題論文の検索と分析
第12回	基本教材も学修：東アジア共同体の可能性と日本が果たすべき役割
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成、ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	グローバル経営戦略論特講	担当者	クロサワ マサシ 黒澤 壮史	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	--------------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講座は、国際化の進んだ現代社会において普遍的な経営戦略についての理解を深めることを目的とする。また、経営戦略の基礎から応用までの知識を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。</p> <p>II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。</p> <p>III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。</p> <p>IV. 団体の活動において、より良い成果を上げるために、他社と協働し、作業を行うとともに、指導者として他社の力を引き出し、その活躍を支援することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 会社経営において適切な意思決定を行うために、経営戦略の基礎から応用までの知識を修得することを一般目標とする。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】 企業を巡る経営戦略論はもとより、諸理論や経営課題について把握し、その中で個別企業がとっている行動の背景を理解・概観できるようになることである。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 【学修方略 (LS)】 ・基本図書・教材の十分な理解、参考文献の検索と適切な理解、レポート作成、受講者同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生によるディスカッションによりレポートの最終稿を完成させる。</p> <p>【学修時間】 レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の学修：15 時間</li> <li>・レポート執筆：10 時間</li> <li>・レポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導等を含む）：20 時間</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio（変更の可能性があります）を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folio（変更の可能性があります）の掲示板や相互ディスカッションを利用して、受講者同士の協働学習を行う。</li> <li>・図書館、インターネット等で自ら論文検索して、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt; ・レポート課題1 初稿締切期限：6月末 ★最終稿提出期限=前期締切日 ・レポート課題2 初稿締切期限：8月末 ★最終稿提出期限=前期締切日 &lt;後期&gt; ・レポート課題1 初稿締切期限：10月末 ★最終稿提出期限=後期締切日 ・レポート課題2 初稿締切期限：12月末 ★最終稿提出期限=後期締切日 ※ 前期後期とも最終稿の提出は学事暦に従う</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材内容を十分理解・修得し、レポートが作成されているかを基準とする（論旨明確さ、独創性、文章表現の妥当性、引用の適切性等）。	80%
	観察記録	初稿段階から最終稿までのプロセスを含む取組みを評価基準とする。	20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初稿の提出は締め切りを遵守すること。</li> <li>・経営・経済コースの経営部門のコア5科目の1つであり、他の科目（現代ファイナンス論特講、マーケティング論特講、アカウティング論特講、人材マネジメント論特講）と合わせて履修することが望ましい。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：マイケル・A・ヒット他，高木俊雄・星和樹監訳            教材名：[第3版]『戦略経営論 競争力とグローバリゼーション』（センゲージラーニング社，2021年）ISBN:978-477594019-8 3,800円+税</p> <p>前期は経営戦略の概念を十分に理解することに重点をおき，経営戦略における基本的な分析ツールを使いこなせることを目標とする。その後，グローバル企業の戦略につき，実例に基づいた「成功要因」を考える。</p>
参考図書	<p>清水勝彦『戦略の原点』（ダイヤモンド社，2007年）※新品はkindle版のみ ISBN:978-4-47-837459-7 1,800円+税            ジェイB.バーニー『企業戦略論（上）』（ダイヤモンド社，2003年）ISBN:978-4-47-837452-8 2,400円+税            ジェイB.バーニー『企業戦略論（中）』（ダイヤモンド社，2003年）ISBN:978-4-47-837453-5 2,400円+税            ジェイB.バーニー『企業戦略論（下）』（ダイヤモンド社，2003年）ISBN:978-4-47-837454-2 2,400円+税            チャン・キム，レネ・モボルニュ [新版]『ブルー・オーシャン戦略』（ダイヤモンド社，2015年）ISBN:978-4-47-806513-6 2,000円+税</p>
履修上のポイント	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営戦略における全社戦略，事業戦略，実践として戦略的経営を理解する。</li> <li>2. グローバル時間の成功戦略を解明するため，どのような戦略が必要となるのか，考察する。</li> <li>3. 基本図書の十分な理解は前提となるものの，当初理解が困難なときには，比較的平易な参考図書（『戦略の原点』など）を利用することにより，経営理論等の理解を早期に図ること。</li> <li>4. 参考図書のバーニー教授の「資源アプローチ」，W. チャン教授らの「ブルー・オーシャン戦略」は応用編として，理解を深めること。</li> </ol>
レポート課題1	<p>テキスト第1部（1～3章）を基に，自身が選んだ競争優位を構築している日本企業の分析を行なって下さい。</p> <p>留意点：※1：テキストで取り上げられている概念を多面的に用いながら考察すること ※2：特別な理由がない限り公開情報の多い上場企業を選定すること。</p>
レポート課題2	<p>テキスト第2部（4～9章）を基に，自身が選んだ日本企業に求められる戦略立案を行なって下さい。</p> <p>留意点：※1：テキストで取り上げられている概念を多面的に用いながら考察すること、 ※2：特別な理由がない限り公開情報の多い上場企業を選定すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：ミンツバーク他            教材名：『戦略サファリ（第二版）』 東洋経済新報社，2012年、ISBN: 978-449253319-2 4,620円（税込）</p> <p>後期は経営戦略論の理論的な知見を深めることを目的として，戦略サファリを教材している。</p>
参考図書	<p>マイケル・E・ポーター『競争戦略論1』（ダイヤモンド社，2018年）2,750円+税            ジェイB.バーニー『企業戦略論（上）』（ダイヤモンド社，2003年）2,400円+税            ジェイB.バーニー『企業戦略論（中）』（ダイヤモンド社，2003年）2,400円+税            ジェイB.バーニー『企業戦略論（下）』（ダイヤモンド社，2003年）2,400円+税</p>
履修上のポイント	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営戦略論の学説や理論的な視点で考察することが後期の目的です</li> <li>2. 上記の目的により、難解に感じる方もいるかもしれませんが、適宜質問など受けながら進めていきます。</li> </ol>
レポート課題1	<p>実際に存在する企業を事例として，テキストで紹介されている学派（スクール）のうち1つ以上の学派を選んだうえで，当該企業の戦略上の特性を論じること。</p> <p>留意点：特にありません。</p>
レポート課題2	<p>自身が理想とする学派を1つ以上選んで，その理由を論じなさい。その際，テキスト著者の見解に対して賛同するか批判的な立場を取るか明記すること。</p> <p>留意点：特にありません。</p>

## 基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（第1章～）を行う
第2回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（2章～）を行う
第3回	教材に基づく学修③（3章～）
第4回	教材に基づく学修④（4章～）
第5回	教材に基づく学修⑤（5章～）
第6回	教材に基づく学修⑥（6章～）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第7回	教材に基づく学修⑦（7章～）
第8回	教材に基づく学修⑧（8章～）
第9回	教材に基づく学修⑨（9章～）
第10回	レポート課題1・2の準備
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

## 基本教材2

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（1章）を行う
第2回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（2章）を行う
第3回	教材に基づく学修③（3章～4章）
第4回	教材に基づく学修④（5章～6章）
第5回	教材に基づく学修⑤（7章～8章）
第6回	教材に基づく学修⑥（9章～10章）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第7回	教材に基づく学修⑦（11章～12章）
第8回	レポート課題の準備1
第9回	レポート課題の準備2
第10回	レポート課題の準備3
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	現代ファイナンス論特講	担当者	ミズタニ キミヒコ 水谷 公彦	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	-------------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>毎日の新聞や雑誌、テレビ、インターネット等を通じたニュースで証券投資や企業金融に関する出来事が出てこない日はない。証券投資や企業金融は、経済社会に大きな影響を与え、私たちの生活に深く入り込んでいく。本講座は、証券投資や企業活動の意志決定に寄与するファイナンス理論の基礎概念を幅広く習得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>1.ファイナンス論を身につけることで、証券投資や企業の現在と未来の財務的意思決定の力が身に着けられ、より深く立体的に理解することができる。</p> <p>2.不確実な未来を予測するための理論モデルを学ぶことで、日常発信される経済・経営・社会等に関するニュースの本質を考えることができ、自らの次の行動の意志決定に活かせる。</p> <p>3. 企業のファイナンス戦略に関する考え方を、従来型の視点やニュースの文言にとらわれず、批判的な視点を持って自ら考えられるようになる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 企業経営に必要な証券投資と企業金融に関する知識を身につけることができる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1.学習者がファイナンスに関する知識を列挙し、関連付けて理解する(知識) 2.学んだ知識を活かして具体的な企業の事例を測定し、対象企業に対する自らの考えを形成できる。また自らの仕事の意思決定にも活用できる(技能) 3.日々受け取る経済・経営情報から、ファイナンス的な視点をベースにしたコミュニケーションができ、経営の未来の予測に対してより立体的な議論に参加できる(態度)</p>		
学修方略(方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 ファイナンスの基本知識は、内容を理解し、具体的な考察を自らやってみることで身につくものです。まずはざっと全体像を把握したのち、具体的な事例を意識して学修を進めることが期待されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、基本教材を熟読したうえで、参考図書も参考にしつつ、レポートドラフトを作成する</li> <li>・レポート作成、SBO①②)【15時間/レポート1本】</li> <li>・学修支援者による初期の気づきを与えるコメント・指導に基づき、初稿を作成する(自習・レポート作成、SBO①②)【15時間/レポート1本】</li> <li>・最終レポートに到達するまでには、与えられた課題以外に指示された追加資料を確認し、更に自主的に参考資料を探索するという自主的なインプットを行うことで、より深い理解に到達する(自主研究・レポート作成・ディベート、SBO②③④)【15時間/レポート1本】</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・より深い理解に到達するためのインタラクティブな学習の場(ディスカッション)となる「複数回の添削指導」を通じて、最終的にレポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p>初稿は提出期限1か月前まで、最終稿は学事暦で定められた日までに提出すること。提出期限までに何度かmanaba folioを使って、考え方を確認・交換することで理解を深める必要がある。最低でも前後期とも課題提出期限1か月前までには初稿を提出すること。受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、初稿期限(提出期限1か月前)までに課題提出することが難しいと考えた場合には、早期に必要な質問をメールあるいはmanaba folioを使って連絡すること。効率的に学習に取り組むためにレポート作成前に課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<p>1 教材の内容を修得し、その考えを踏まえて解答されているか 2 自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答できているか 3 教材以外の資料を活用して解答しているか(加点項目)</p>	80%
	観察記録	<p>1 最終提出までに複数回のレポート交換ができているか 2 途中稿提出期限(最終提出1か月前)が守れているか(減点項目)</p>	20%
履修者への要望	履修登録後、速やかに学修計画のすり合わせを行うために担当教員(水谷)に連絡すること		

【レポート課題】

基本教材1	
教材の概要	<p>著者名：俊野雅司・白須洋子・時岡規夫 教材名：『ファイナンス論・入門 イチからわかる証券投資と企業金融』(有斐閣、2020年)3,600円+税 ISBN978-4-641-16570-0</p> <p>前期は、基本的なファイナンス理論の基本を理解し、その思考方法を身につけることを目指す。未来を予測するための意思決定ツールであるファイナンスの基本を身につけることで、日々得られる情報から得られる気づきの高度化を目指す。</p>
参考図書	石野雄一『増補改訂版 道具としてのファイナンス』(日本実業出版社、2022年)2,750円+税 ISBN978-4-534-05935-2
履修上のポイント	前期は、ファイナンスの基本的な視点、考え方を身につけ、日々の経営的な課題解決等の中で活用できる下地をつくることを目指す。基本教材1の基本問題、発展問題などに取り組んで実践的な知識を身につけることを期待する。
レポート課題1	貨幣の時間価値について述べた上で、将来のキャッシュフローを現在価値に割り引く方法を説明しなさい。留意点：基本教材1のCHAPTER4を参考に、ファイナンスの基本的な視点を身につけることを目指す
レポート課題2	株式への期待リターンを導く資本資産価格モデル(CAPM)について説明せよ。留意点：基本教材1のCHAPTER11を参考にファイナンスの基本的な視点を身につけることを目指す

基本教材 2	
教材の概要	著者名：大村敬一 教材名：『ファイナンス論 入門から応用まで』（有斐閣ブックス、2010年）3,200円＋税 ISBN:978-4-641-18383-4 前期に習得したファイナンスの基本的な考え方をもとに、ファイナンス思考を活かして企業金融（コーポレートファイナンス）に関する知見を身につける。
参考図書	・俊野雅司・白須洋子・時岡規夫『ファイナンス論・入門 イチからわかる証券投資と企業金融』（有斐閣、2020年）3,600円＋税 ISBN978-4-641-16570-0 ・石野雄一『増補改訂版 道具としてのファイナンス』（日本実業出版社、2022年）2,750円＋税 ISBN978-4-534-05935-2
履修上のポイント	前期に学んだファイナンス理論の考え方が具体的に活かされている企業金融（コーポレートファイナンス）を学ぶことで、新しい企業経営の方向性とそれを取り巻く環境の問題などを理解することを目指す。学習者は本書にとどまることなく、さらに具体的な事例を探索し、考察することが望まれる。
レポート課題1	資本構成と資本コストおよび最適資本構成の存在についてMM理論（モジリアーニ・ミラーの定理）を踏まえて述べなさい。 留意点：基本教材2の14章・第15章を参考に、企業金融の基本的な考え方を身につけることが求められます。
レポート課題2	前期、後期を通じて得られたファイナンスの基本的な知識を具体的に活用できる状況を証券投資または企業金融のいずれかで検討し、身に付けた知識、視点からどのような効果が期待できるのかについて論じなさい。 留意点：ファイナンスに関する理解は、日々の意思決定活動に活かしてこそ身につくものです。具体的に活用できる状況を証券投資または企業金融のいずれかで得られた知識を具体的にどのように活用できるかを考えてください。

### 基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材1に基づく学修①（金融の仕組み、財務諸表の活用）を行う
第2回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材1に基づく学修②（ファイナンスの基礎概念）を行う
第3回	教材1に基づく学修③（割引率と現在価値・将来価値）
第4回	教材1に基づく学修④（ファイナンス論の想定する世界・ファイナンス論の歴史）
第5回	教材1に基づく学修⑤（証券価格の評価とリスク管理）
第6回	教材1に基づく学修⑥（株式の理論価格）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第7回	教材1に基づく学修⑦（債券の理論価格）
第8回	教材1に基づく学修⑧（ポートフォリオ理論）
第9回	教材1に基づく学修⑨（資本資産評価モデル：CAPM）
第10回	教材1に基づく学修⑩（デリバティブ取引）
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

## 基本教材2

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材2に基づく学修①(資本構成と資本コスト-MM理論①)
第2回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材2に基づく学修②(資本構成と資本コスト-MM理論②)
第3回	教材2に基づく学修③(最適資本構成の存在-MM理論の拡張①)
第4回	教材2に基づく学修④(最適資本構成の存在-MM理論の拡張②)
第5回	教材2に基づく学修⑤(株主への利益還元)
第6回	教材2に基づく学修⑥(金融仲介機能)及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第7回	教材2に基づく学修⑦(企業のコントロールとガバナンス①)
第8回	教材2に基づく学修⑧(企業のコントロールとガバナンス②)
第9回	教材2に基づく学修⑨(マーケットマイクロストラクチャー・行動ファイナンス・リアルオプション)
第10回	第10回 教材2に基づく学修⑩(ファイナンス後の対応)
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	第15回 レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	アカウンティング論特講	担当者	アオキ タカシ 青木 隆	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	-------------	-----	-----------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	本講座は、企業外部の利害関係者（株主・債権者等）を報告対象とする財務会計の基礎から応用にわたって学修することで以下の能力を修得することを目的とします。 論理的・批判的思考力 問題発見・解決力 省察力		
到達目標	<b>【一般目標(GIO)】</b> 企業が会計処理と財務諸表の作成・公開にあたって準拠すべき会計基準や会計法令を深く理解するために必要な知識の修得を目標とします。 <b>【行動目標(SBOs)】</b> ①財務会計に関する基本的かつ応用的な考え方を深く理解してそれを説明できる。 ②財務会計に関するさまざまな会計基準や会計法令を深く理解して説明できる。 ③財務諸表の種類およびその内容について深く理解して説明できる。 ④上記①から③を分析的・批判的に評価できる。		
学修方略 (方法)	<b>【学修方略(LS)と学修時間】</b> 基本教材を熟読したうえで、レポートドラフトを作成します。（自習・レポート作成）(SBO①②③)【15時間／レポート1本】 担当者によるコメント・指導に基づき、初稿を作成します。（自習・レポート作成）(SBO①②③)【15時間／レポート1本】 受講生同士のディスカッションや担当者のコメント・指導に基づき最終稿を作成します。（自主研究。レポート作成・ディスカッション）(SBO①②④)【15時間／レポート1本】 <b>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</b> Manaba-folio・メール・Zoomなどを用いてインタラクティブな添削・指導を行います。		
スケジュール	前学期は基本教材1の第1章から第9章を学修範囲とします。課題1の初稿は令和8年7月15日までに提出してください。課題2の初稿は令和8年8月15日までに提出してください。それぞれの最終稿は学事暦で定められた日までに提出してください。 後学期は基本教材2の第10章から第14章までを学修範囲とします。課題1の初稿は令和8年11月15日までに提出してください。課題2の初稿は令和8年12月15日までに提出してください。それぞれの最終稿は学事暦で定められた日までに提出してください。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	①基本教材の内容を修得しているか。 ②自分の意見が反映されているか。 ③基本教材以外の文献・資料を活用しているか。	70%
	観察記録	①提出期限が遵守されているか。 ②脚注や参考文献などの記載が適切であるか。	30%
履修者への要望	財務会計の基礎的な知識を、履修にあたっての前提条件とはしません。ただし、基本教材や副教材の内容を深く修得し、レポートを作成するには、財務会計の基礎的かつ応用的な知識は必要不可欠になります。基本教材には、財務会計の基礎的な内容も十分に網羅されているため、それを修得するとともに、財務会計の応用的・発展的な内容も深く理解してください。さらに、それらの内容を分析的・批判的に評価するとともに、現行の会計基準や会計法令、それらの根拠となる考え方に対する課題や問題点を発見し、それに対する自分の考え方を整理してください。そして、それを最終的にレポートに反映できるようになることを希望します。		

【レポート課題】

<b>基本教材1</b>	
教材の概要	著者名：桜井久勝 教材名：『財務会計講義』（第26版）中央経済社 2025年 ISBN：978-4-502-53911-4 ※仮に新版（第27版）が発行された場合は可能な限り新版を購入してください。 本書は、企業が株主や債権者などの外部の利害関係者に対して経営成績や財政状態を報告する目的で実施している財務会計について、会計基準を中心としながら、会社法の計算規定などの会計法令にも触れながら、総合的かつ体系的に解説したものです。
参考図書	『会計法規集』（第13版）中央経済社 2023年 ISBN:978-4-502-46071-5 ※仮に新版（第14版）が発行された場合は可能な限り新版を購入してください。
履修上のポイント	本書の第1章から第4章は、財務会計の総論的な論述に充てられている。これらは財務会計の基礎的な領域ではあるものの、応用的・発展的な内容も含まれている。第5章から第11章は、財務諸表の主要項目に関する会計処理を説明している。第12章および第13章は個別財務諸表・連結財務諸表の作成方法を説明している。第14章は、外貨建取引や外貨建財務諸表の換算を取り扱っている。それぞれの会計処理に関する会計基準・会計法令を深く理解するとともに、批判的に評価するように心掛けてください。
レポート課題1	発生主義会計における実現原則と企業会計基準第29号との関係性について論じてください。 留意点：収益の認識における伝統的な考え方と新たな会計基準とを対比して検討してください。
レポート課題2	のれんの償却方法に関する見解を論じるとともに、自身の考えを述べてください。 留意点：日本基準とIFRSとの違いを理解したうえで検討してください。

## 基本教材 2

教材の概要	著者名：桜井久勝 教材名：『財務会計講義』（第26版）中央経済社 2025年 ISBN：978-4-502-53911-4 ※仮に新版（第27版）が発行された場合は可能な限り新版を購入してください。
	本書は、企業が株主や債権者などの外部の利害関係者に対して経営成績や財政状態を報告する目的で実施している財務会計について、会計基準を中心としながら、会社法の計算規定などの会計法令にも触れながら、総合的かつ体系的に解説したものです。
参考図書	『会計法規集』（第13版）中央経済社 2023年 ISBN:978-4-502-46071-5 ※仮に新版（第14版）が発行された場合は可能な限り新版を購入してください。
履修上のポイント	本書の第1章から第4章は、財務会計の総論的な論述に充てられている。これらは財務会計の基礎的な領域ではあるものの、応用的・発展的な内容も含まれている。第5章から第11章は、財務諸表の主要項目に関する会計処理を説明している。第12章および第13章は個別財務諸表・連結財務諸表の作成方法を説明している。第14章は、外貨建取引や外貨建財務諸表の換算を取り扱っている。それぞれの会計処理に関する会計基準・会計法令を深く理解するとともに、批判的に評価するように心掛けてください。
レポート課題1	自己株式の本質について論じるとともに、自身の考えを述べてください。 留意点：資産説と資本減少説の特徴を理解したうえで検討してください。
レポート課題2	連結会計主体論について論じるとともに、自身の考えを述べてください。 留意点：親会社説と経済的単一体説について理解したうえで検討してください。

### 基本教材1

第1回	第1章 財務会計の機能と制度
第2回	第2章 利益計算の仕組み
第3回	第3章 会計理論と会計基準
第4回	第4章 利益測定と資産評価の基礎概念
第5回	第5章 現金預金と有価証券
第6回	第6章 売上高と売上債権
第7回	レポート課題1. の初稿作成
第8回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第9回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成
第10回	第7章 棚卸資産と売上原価
第11回	第8章 有形固定資産と減価償却
第12回	第9章 無形固定資産と繰延資産
第13回	レポート課題2. の初稿作成
第14回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第15回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成

## 基本教材2

第1回	第10章 負債
第2回	第10章 負債
第3回	第11章 株主資本と純資産
第4回	第11章 株主資本と純資産
第5回	第12章 財務諸表の作成と公開
第6回	レポート課題1. の初稿作成
第7回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第8回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成
第9回	第13章 連結財務諸表
第10回	第13章 連結財務諸表
第11回	第13章 連結財務諸表
第12回	第14章 外貨建取引等の換算
第13回	レポート課題2. の初稿作成
第14回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第15回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成

科目名	マーケティング論特講	担当者	アメミヤ フミタカ 雨宮 史卓	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	------------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講座はマーケティング戦略の機能・役割を基礎から応用まで論理的に修得する事により、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>1 マーケティング戦略の理論と実際が、市場動向、消費者ニーズの変化を捉えながら理解できる。</p> <p>2 実際のビジネスの場面で起きた事例に基づき、各個人が分析し問題を解決する手法を考案できるようになる。</p> <p>3 広告及び宣伝、PR等に焦点を置き、プロモーション全般の意義を理解し、マーケティング戦略の中でこれらがどのように機能しているかを論理的に解明できる。</p> <p>4 ブランド力を強化し、当該ブランドを拡張する場合、どのような広告戦略を行うべきかを既存の戦略にとらわれずに企画・検討できるようになる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 企業が製品・サービスを売るための手段としてマーケティングを捉えるだけでなく、より広い視点でマーケティングを捉える事を心掛ける。そのため、社会情勢、経済状況の変化とともに消費者の嗜好がどのように変化し、市場に影響を及ぼしてきたかを深く理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1 学修者がマーケティング戦略、ブランド・マネジメント、広告・プロモーション戦略に関連する知識を修得し、それぞれの知識を理論的に関連づけて理解する。(知識・解釈) 2 具体的な企業戦略の事例に対して、学んだ知識を活かして深く考えることで理解は一層明確になり、自らビジネスモデルを構築できる可能性を高める。(技能) 3 学修していく上で、修得した知識や理論と事例に基づくマーケティング戦略の間には異なる点が見受けられることがある。その場合でも、自ら修得した能力を応用的に適用することで、具体的な企業戦略や商品カテゴリ毎の市場動向に応じて、使いこなせる配慮ある行動をとることができる。(態度・反応)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 ・二冊の基本教材を熟読したうえで、レポートドラフトを作成する。(自習・レポート作成, SBO①②) 【15時間/レポート1本】 ・担当者によるコメント・指導に基づき、初稿を作成する。専門用語は予め各自で調べ理解しておく。(自習・レポート作成, SBO①②) 【15時間/レポート1本】 ・インタラクティブな学修の場(ディスカッション)を通じて、最終的にレポートを作成する。また、必要に応じて日程を調整し、個別に対面指導やゼミ形式での討論の機会を設ける。(自主研究・レポート作成・ディベート, SBO②③④) 【15時間/レポート1本】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・Manaba-Folio・メール・Zoom等を利用し、教員と院生との間で双方向による指導を行う。</p>		
スケジュール	<p>前期 課題1 初稿：令和6年6月中旬を目安とする、最終稿：学事暦で定められた日まで 課題2 初稿：令和6年7月中旬を目安とする、最終稿：学事暦で定められた日まで</p> <p>後期 課題1 初稿：令和6年11月初旬を目安とする、最終稿：学事暦で定められた日まで 課題2 初稿：令和6年12月初旬を目安とする、最終稿：学事暦で定められた日まで</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	1 教材の基本内容を修得し、理論を踏まえて解答されているか 2 自分の独自の考えを、相手に伝えるように解答できているか 3 教材以外の文献・資料・データ等を活用して解答しているか	70%
	観察記録	1 提出期限を厳守し、コメントへの適切な対応がなされているか 2 レポート字数・脚注・参考文献等の形式が守られているか	30%
履修者への要望	<p>・本講座は、例年、履修者が非常に多いため必ずスケジュールを守ること。</p> <p>・履修登録後、速やかに学修計画のすり合わせを行うために、担当教員(雨宮)に必ずメールにて連絡すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：フィリップ・コトラー，ゲイリー・アームストロング，恩藏直人            教材名：『コトラー，アームストロング，恩藏のマーケティング原理』（丸善出版，2014年） ISBN:978-4-621-06622-5 4,800円+税</p> <p>教材の1冊目は，最新の事例を数多く盛り込んだシンプルかつ体系的なマーケティングの良書である。アップ・トゥ・デートなマーケティングの本質や理念を章ごとに学んでほしい。全体を通読し，各章で学ぶコンセプトの概要，前章までに学んだコンセプトとの繋がりを理解し，体系的に学ぶことを心がけてほしい。</p>
参考図書	石井淳蔵・栗本契・嶋口充輝・余田拓郎『ゼミナール マーケティング入門』（日本経済新聞社，2004年） ISBN:4-532-13272-X 3,200円+税
履修上のポイント	まずは，マーケティングとは何か，という問いに対し企業が商品を買うという視点であるのに対して，顧客は商品の価値や，それにまつわる問題解決策を購入しているという視点で理論を考察してほしい。その際に，自身が経験した具体的な購買行動に置き換えながら学ぶことで，より深い理解に繋がる可能性がある。
レポート課題1	マーケティング戦略を成功させ，ヒット商品を市場投下している企業にはどのような差別化要因があるのだろうか。消費者ニーズや市場動向の変化を見極めながら，その要因を説明せよ。 留意点：有形財・無形財にとらわれず，自分自身が興味・関心のある商品を事例として取り上げ，学んできた理論と照らし合わせて考察してほしい。
レポート課題2	マーケティング・ミックスとプロモーション・ミックスの関係性を，商品の特質やブランド力を見極めた上で説明し，自分自身が興味・関心のある商品を例にとり，プロモーション・ミックスの最適化を論述しなさい。 留意点：マーケティング・ミックスの意義を深く理解し，プロモーションの種類を詳細に学んだ上で事例を選び，当該商品にはいかなるプロモーション戦略が必要かを考えてほしい。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：雨宮 史卓            教材名：『広告コミュニケーション』（八千代出版，2020年） ISBN:978-4-8429-1763-4 2,300円+税</p> <p>2冊目の教材は，広告コミュニケーションを中心にプロモーション戦略，ブランド戦略に焦点を当てた内容になっている。マーケティング戦略の中で，広告・プロモーションやブランド概念がどのように機能し，役割を担っているかを理論的に学んでほしい。こちらの本も事例が多く述べられているので，自分自身がビジネスモデルを構築する場合，いかなる可能性があるかという事を念頭に置くことを望む。前期・後期ともに，この二冊を基本教材として学修してほしい。</p>
参考図書	田中洋『ブランド戦略論』（有斐閣，2017年） ISBN:978-4-641-16510-6 4,000円+税
履修上のポイント	近年では，マーケティング戦略の中で，ブランド・マネジメントという領域が築かれている。その活動がブランドを基点として行われ，ブランドを構築・育成するための活動であるならば，広告を中心とした他の戦略もブランドを中心として行われるコミュニケーション活動であることを認識した上で学修してほしい。
レポート課題1	ブランドの概念を「競争の視点」と「財務の視点」に分けて考察し，企業にとってブランドを拡張することの意義を論じなさい。 留意点：なぜブランドを競争の視点として捉えるかの理由を論理的に学ぶこと。そして，財務の視点においては，ブランド・エクイティ，ブランド・アイデンティティの概念を理解すること
レポート課題2	第四の経済価値である経験価値が，ブランドの概念にどのような影響を与えるかを考察した上で，経験価値に対する広告戦略の役割を，サービス産業を事例にあげて説明しなさい。 留意点：まずは，経験価値が重要視される商品とコモディティ商品の違いを理解する。そして，経験価値を消費者に訴求する具体的な広告戦略を事例と共に述べることを勧める。

## 基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材1, 2に基づく学修①（マーケティングの本質）を行う。
第2回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材1, 2に基づく学修②（マーケティング・ミックス, 市場原理）を行う。
第3回	教材1に基づく学修③（企業とマーケティング戦略）
第4回	教材2に基づく学修④（プロモーションの役割と機能）
第5回	教材2に基づく学修⑤（広告コミュニケーション）
第6回	教材1に基づく学修⑥（広告とパブリック・リレーションズ）
第7回	教材1に基づく学修⑦（消費者と購買行動）
第8回	教材2に基づく学修⑧（企業と消費者間の共感性と広告コンセプト）
第9回	教材2に基づく学修⑨（広告コンセプトとタイム・マーケット）
第10回	教材1に基づく学修⑩（製品, サービス, ブランド）
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

## 基本教材2

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材1, 2に基づく学修①（ニーズ, ウォンツ, デマンドの関係性）を行う。
第2回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材1, 2に基づく学修②（ブランド概念の変遷）を行う。
第3回	教材1に基づく学修③（新製品開発と製品ライフサイクル）
第4回	教材1に基づく学修④（コミュニケーションによる顧客価値の説得）
第5回	教材2に基づく学修⑤（ブランドの基本的概念, ブランドを軸としたマーケティング戦略の展開）
第6回	教材2に基づく学修⑥（ブランド・ライフサイクル, ブランド拡張）
第7回	教材1に基づく学修⑦（人的販売と販売促進）
第8回	教材2に基づく学修⑧（経験価値とブランド概念）
第9回	教材2に基づく学修⑨（サービスに対する消費者行動, ストア・ブランド）
第10回	教材1に基づく学修⑩（マーケティングと社会的責任）
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	人材マネジメント論特講	担当者	カトウ コウジ 加藤 孝治	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	-------------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講座では、企業活動の根幹である組織・従業員のマネジメントの知識の修得を通じて、以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>①企業を構成する3つの資源（ヒト・モノ・カネ）のうち、労働力を人的資源・人的資本として捉えた時の人材の性格を把握し、労働者をマネジメントする方法につき自ら学ぶこと。 ②人材マネジメントの知識を持つことで、自らの属している組織の中での従業員などの行動パターンを理解し、組織における次に必要な行動・活動を自ら考えることができること。 ③組織の中で繰り返される経営活動・人事マネジメントについて、より深い見地から理解することができるようになることで、経営及び就業に関する行動に責任を持って自ら道をひらいていくようになること。</p> <p>上記の目的に対して、経営組織論・人的資源管理を修得することで、経営全般の管理に繋がる重要な企業経営の知識を身に付けることとなり、経営に関してより深い理解に到達することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 企業経営に必要な組織運営、人材マネジメントに関する専門性を理解する</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ①学修者が経営組織・人材マネジメントに関する知識を列挙し、それぞれの知識を関係づけて理解する(知識) ②具体的な企業の事例に対して、学んだ知識を活かして深く考えることで理解は一層明確になり、自ら使うことができる技能に高める(技能) ③理論と具体的な組織の中での活動の間には異なる点があるが、その考え方を応用的に適用することで、具体的なビジネスシーンに応じて使いこなせるように配慮ある行動をとることができる(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 課題教材を精読し十分に理解したうえで、具体的な考察を行う。具体的な事例に当てはめるためには課題教材を学修し、その2倍以上の時間を費やし考えることで、実際に活用できる知識となる。 ①基本教材を熟読したうえで、副教材も参考にしつつ、レポート(初稿)を作成する。 【15時間/レポート1本】 ②教員による初期の気づきを与えるコメント・指導に基づき、初稿の修正を行う。 【15時間/レポート1本】 ③より深い理解に到達するためのインタラクティブな学習の場(ディスカッション)となる「複数回の添削指導」を通じて、最終的に提出できるレポートを作成する。最終レポートに到達するまでには、与えられた課題以外に指示された追加資料を確認し、更に自主的に参考資料を探索するという自主的なインプットを行うことで、より深い理解に到達する。 【15時間/レポート1本】 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 具体的な企業事例については、各自が教材以外の関連書籍を探し、新聞・ネットメディアなどの記事のほか、企業の公表資料などにもアクセスしていく必要がある。論文、民間シンクタンクのレポートなどの幅広い情報源を活用することが望まれる。 教員から受講生の進捗状況を踏まえつつ、追加的なディスカッション(ケーススタディ)を盛り込む可能性がある。</p>		
スケジュール	<p>①学びにあたり、提出期限までに何度かレポートを使って、考え方を確認・交換する必要がある。前後期とも最終提出期限までに十分な時間を確保するために、課題1・課題2ともに以下の期限までに初稿提出すること(前期:7月15日、後期:11月15日)。 ②受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからないために、レポートの初稿を作成できなと感じたときは、開始後早めの時期(1か月程度)に、下記「履修者への要望」に記載したアドレスへメールで質問すること。効率的に学習に取り組むために、レポート作成前に、課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。 ③最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	①教材の内容を修得し、その考えを踏まえて解答されているか ②自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答できているか ③教材以外の資料を活用して解答しているか(加点項目)	80%
	観察記録	①最終提出までに複数回のレポート交換ができているか ②初稿提出期限(最終提出1か月前)が守れているか(減点項目)	20%
履修者への要望	<p>グローバル経営(MBA)部門のコア5科目の一つであり、他の科目(グローバル経営戦略論特講、アカウント論特講、マーケティング論特講、現代ファイナンス論特講)と合わせて履修することが望ましい。履修登録後、速やかに学修計画のすり合わせを行うために、担当教員(加藤)に連絡すること(kato.koji15@nihon-u.ac.jp)</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：教材①佐藤剛、教材②スティーブン・P・ロビンズ            教材名：教材①『グロービスMBA組織と人材マネジメント』（ダイヤモンド社，2007年）ISBN:978-4-47-800321-3 2,800円+税            教材②『〔新版〕組織行動のマネジメント』（ダイヤモンド社，2009年）ISBN:978-4-47-800459-3 2,800円+税</p> <p>前期教材①（グロービス）は経営組織と人材マネジメントの関係を理解してもらうために選んだ入門書である。全体を通読し，人材マネジメントに係る論点がどこにあるかを把握してほしい。            前期教材②（ロビンズ）は組織行動論を考えるための良書である。後期も活用するが，前期は組織の中で個人がどのように位置づけられるかを考えてほしい。</p>
参考図書	<p>金井壽宏，高橋潔『組織行動の考え方』（東洋経済新報社，2004年）ISBN:978-4-49-252146-5 2,400円+税            スマントラ・ゴシャール，クリストファー・A・バートレット『（新装版）個を活かす企業 自己変革を続ける組織の条件』（ダイヤモンド社，2007年）ISBN: 978-4-478-00194-3 2,592円+税</p>
履修上のポイント	<p>経営組織の中で人材がどのようにマネジメントされているのか，現代の組織運営上の問題点はどこにあるのかを把握してほしい。            その際に，社会人経験者は，自分が経験した具体的な事例に置き換えながら学ぶことでより深い理解に繋がるものである</p>
レポート課題1	<p>教材①（グロービス）を使い，従業員にとって納得性を与えるために，人事システムにおいて考えられている仕組みについて，その項目を挙げ，内容を説明しなさい。（字数3000字程度）            留意点：人事システムを，制度・仕組みを知識として理解するだけでなく，その背景，目的まで踏まえて説明すること。</p>
レポート課題2	<p>教材②（ロビンズ）に基づき，個人が組織の中で活かされるために必要な動機づけに関する理論をあげ，その内容を説明するとともに，具体的なプログラムとして応用されている事例を説明しなさい。（字数3000字程度）            留意点：教材②（ロビンズ）の第Ⅱ部で示されている内容を踏まえ，組織の中で個人が活かされていくために組織は何ができるのか，考えてほしい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：スティーブン・P・ロビンズ            教材名：新版『組織行動のマネジメント』（ダイヤモンド社，2009年）ISBN:978-4-47-800459-3 2,800円+税</p> <p>組織を運営していくために一人一人の行動と，部門の行動をどのようにコントロールするべきか考える。</p>
参考図書	<p>エイミー・C・エドモンドソン『恐れのない組織——「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす』（英治出版，2021年）ISBN: 978-4862762887 2,200円+税            E・H・シャイン『企業文化 改訂版：ダイバーシティと文化の仕組み』（白桃書房，2016年）ISBN: 978-4-561-23675-7 3,500円+税</p>
履修上のポイント	<p>組織運営においてルールは大事であるが，明文化されている仕組みだけでなく，目に見えない文化にこそ本質が宿っている場合があることも理解する。</p>
レポート課題1	<p>組織の中で，パワー，政治がどのように利用され権力を掌握することにつながるのか，組織内でコンフリクトが発生した時にどのように対処することができるのか，説明しなさい。（字数3000字程度）            留意点：ロビンズの第Ⅲ部に示されている内容からまとめる。その際に，自分がこれまで組織の中で経験したことのある事例も活用して説明することが望ましい。</p>
レポート課題2	<p>組織はヒトの集団であり，構成メンバーの意識が同じ方向に向かうほど強い組織となる。組織文化が企業競争力の強化に効果を上げていることについて説明しなさい。（字数3000字程度）            留意点：企業は組織を従業員にとって働きやすく，かつ自己実現を達成できる場となるように様々な工夫をしている。本課題に関しては，教材（ロビンズ）の第Ⅳ部からまとめるだけでなく，可能な限り，具体的な企業の状況を把握し，複数の企業を比較しながら説明することが望ましい。</p>

## 基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解。教材に基づく学修①（組織の目的、組織文化）
第2回	「学修の進め方」について教員との意見交換。教材に基づく学修②（組織構造）
第3回	教材1に基づく学修③（人事システム、多様性のマネジメント）
第4回	教材1に基づく学修④（組織と人材を動かす仕組み）
第5回	教材1に基づく学修⑤（組織と人材マネジメントの実践例）
第6回	教材2に基づく学修①（組織行動学とは何か）及び「学修の進捗状況」を教員と共有
第7回	教材2に基づく学修②（個人の行動の基礎、パーソナリティと感情）
第8回	教材2に基づく学修③（動機づけの基本的なコンセプト）
第9回	教材2に基づく学修④（動機づけ：コンセプトから応用へ）
第10回	教材2に基づく学修⑤（個人の意思決定）
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿提出
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

## 基本教材2

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解。教材に基づく学修①（集団行動の基礎）
第2回	「学修の進め方」について教員と意見交換。教材に基づく学修②（チームを理解する）
第3回	教材に基づく学修③（コミュニケーション）
第4回	教材に基づく学修④（リーダーシップと信頼の構築）
第5回	教材に基づく学修⑤（パワーと政治）
第6回	教材に基づく学修⑥（コンフリクトと交渉）及び「学修の進捗状況」を教員と共有
第7回	教材に基づく学修⑦（組織構造の基礎）
第8回	教材に基づく学修⑧（組織文化）
第9回	教材に基づく学修⑨（人材管理の考え方と方法）
第10回	教材に基づく学修⑩（組織変革と組織開発）
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿提出
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポート提出

科目名	多国籍企業論特講	担当者	イノウエ ヨウコ 井上 葉子	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	----------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	国際ビジネスにおける古典の基礎知識から最新の知識まで事例を交えて講義する。具体的には、国際的なビジネス環境や国際市場における経営戦略、国際ビジネスに関係する法と規制、グローバルな組織管理など、国際経営に関連するさまざまな側面を深く探求する。最新の研究、事例分析、論文執筆、プロジェクトの実施などを通じて、国際ビジネスにおける専門知識を深めることを目的とする。			
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルな視点から、ビジネスに接するマインドと知識を習得する。</li> <li>・クリティカルシンキングの養成：受講者に異なる国・文化におけるビジネス環境を分析してもらい、問題解決能力やクリティカルシンキングを養う。</li> </ul> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 専門的知識の獲得：国際経営に関する専門知識および各理論を理解する</li> <li>2) 研究スキルの向上：研究方法論やデータ分析のスキルを磨く機会を提供し、独自の研究プロジェクトを実施する能力を身につける。</li> <li>3) 現実世界への適用：国際ビジネスの実務において、習得した知識とスキルを活用できるよう、実務的な視点を持つ。</li> </ol>			
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①既存研究の文献・資料を幅広く読む</li> <li>②ビジネスの現状を理解する</li> <li>③理論と現状を常に照らし合わせることで、思考力を養成する</li> </ol> <p>上記の3点を学修するために、課題図書を読み込み、初稿作成・推敲・最終原稿作成をあわせて、レポート1本あたり45時間を要する</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>Google classroomなどを活用して、できるだけ多くの学生に寄り添った形で講義を進める。</p>			
スケジュール	<p>【初稿提出期限】</p> <p>前期課題：レポート1は5月末、レポート2は8月末 後期課題：レポート1は10月末、レポート2は12月末</p> <p>【最終提出期限】</p> <p>いずれも学事暦で定める最終提出期限までに提出すること</p>			
成績評価	種別	評価基準		割合
	レポート	既存研究の調査 独自性 既存研究と結論の相関性		90%
	観察記録	講義ルール レポート 講義への参加意欲		10%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際ビジネスの基本原則を理解するために、経済学、経営学、国際関係、国際マーケティングなどの基本的なコースの受講を勧める。</li> <li>・国際ビジネスの最新トレンドや国際政治、経済の動向を追跡し、業界の最新情報に敏感になる。</li> <li>・国際ビジネスに関連する実際のケーススタディを分析し、プロジェクトを実施して実務的なスキルを発展させる。</li> <li>・仕事で培った知識や経験を講義に活かし、manabaあるいはGoogle classroomを通じて積極的に発言する。</li> </ul>			

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：江夏健一編集 教材名：【シリーズ国際ビジネス】1 国際ビジネス入門 中央経済社 2008年 ISBN:978-4-502-39690-8</p> <p>国際ビジネスをはじめて学ぶ学生のために、歴史、理論、戦略、組織、人事などの諸領域を体系的にわかりやすく解説している。</p>
参考図書	国際ビジネス 1: グローバル化と国による違い チャールズ・W.L. ヒル
履修上のポイント	教科書には多くの情報が書かれているが、すべての情報が同じ重要度を持っているわけではないので、重要なポイントを押さえながら理解することが大切になる。 学修したあと、自分が理解できたかどうかを確認することも大切。理解できなかった箇所があれば、再度読み直すか、他の参考書を利用するなどして、理解を深めること。
レポート課題1	課題図書から各自の興味のある章の一つを選び、その内容をテーマにレポートを作成 留意点：理論と現状を関連づけ、ケースを挙げる。
レポート課題2	課題図書から、レポート課題で選んだ章と異なる章のうち、各自の興味のある章の一つを選び、その内容をテーマにレポートを作成 留意点：理論と現状を関連づけ、ケースを挙げる。

## 基本教材 2

教材の概要	著者名：江夏健一編集 教材名：国際ビジネス理論（シリーズ国際ビジネス）中央経済社 2008年 ISBN:978-4-502-39610-6
	多国籍企業についての理解が深まるよう、国際ビジネスの理論を時代ごとに網羅した入門書。それぞれの理論が、ビジネスの現場で起こっている事象や背後にある論理を見抜く手がかりとなるように実践的な解説を行っている。
参考図書	国際ビジネス 1: グローバル化と国による違い チャールズ・W.L. ヒル
履修上のポイント	教科書には多くの情報が書かれているが、すべての情報が同じ重要度を持っているわけではないので、重要なポイントを押さえながら理解することが大切になる。 学修したあと、自分が理解できたかどうかを確認することも大切。理解できなかった箇所があれば、再度読み直すか、他の参考書を利用するなどして、理解を深めること。
レポート課題1	課題図書から各自の興味のある章を一つ選び、その内容をテーマにレポートを作成 留意点：理論と現状を関連づけ、ケースを挙げる。
レポート課題2	課題図書から、レポート課題で選んだ章と異なる章のうち、各自の興味のある章を一つ選び、その内容をテーマにレポートを作成 留意点：理論と現状を関連づけ、ケースを挙げる。

### 基本教材1

第1回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第2回	教材の理解するために学生と教員と討論
第3回	教材の学修（第1章～第3章）
第4回	教材の学修（第4章～第7章）
第5回	中間ディスカッション
第6回	レポート課題1
第7回	レポート課題1資料収集
第8回	レポート課題1作成進捗確認
第9回	レポート課題1提出
第10回	教材の学修（第8章～第11章）
第11回	教材の学修（第12章～第15章）
第12回	ディスカッションレポート課題2
第13回	レポート課題2資料収集
第14回	レポート課題2作成進捗確認
第15回	レポート課題2提出

## 基本教材2

第1回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第2回	教材の理解するために学生と教員と討論
第3回	教材の学修（第1章～第3章）
第4回	教材の学修（第4章～第7章）
第5回	中間ディスカッション
第6回	レポート課題3
第7回	レポート課題3資料収集
第8回	レポート課題3作成進捗確認
第9回	レポート課題3提出
第10回	教材の学修（第8章～第11章）
第11回	教材の学修（第12章～第14章）
第12回	ディスカッションレポート課題4
第13回	レポート課題4資料収集
第14回	レポート課題4作成進捗確認
第15回	レポート課題4提出

科目名	流通ビジネス論特講	担当者	シロトリ カズオ 白鳥 和生	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	-----------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	流通ビジネスは「変化対応業」であり、その歴史は「再編成」の歴史である。ここ数十年のデジタル革命によって、小売業界の「前提」が激変した。顧客の期待はデジタルのスピードで進化している。時代はリアルな実店舗とネット通販が競争するマルチチャネルからリアルとネットが融合するオムニチャネルへとシフトしている。リアル小売業はネット通販へ、オンライン小売業はリアル店舗へそれぞれ進出する動きもあり、新しい購買経験が生活者に提供されるようになってきている。 本科目はデジタル時代の小売業の変化を、単なる突発的な事象としてとらえるのではなく、その歴史的背景や経緯を踏まえつつ、「体験」がより重要性を増す今後の消費社会の変容の方向性を理解することを目的とする。		
到達目標	【一般目標 (GIO)】 問題の発見・解決能力：事象を注意深く観察し、解決策を提案できる。 論理的・批判的思考力：得られる情報をも基に、論理的で批判的な思考ができる。 【行動目標 (SB0s)】 流通業界の歴史的な進展を理解できる。 デジタル化が小売業や顧客体験に与える影響が理解できる。 有力小売業の戦略と変容の背景・流れが理解できる デジタルトランスフォーメーション (DX) 時代における企業と消費者との関わり方、マーケティングや店舗の在り方など小売ビジネスの全体像を俯瞰できる。		
学修方略 (方法)	【学修方略 (LS) と学修時間】 デジタル技術の急速な進化で伝統的なマーケティングや消費者対応が変化しているという認識を持ちつつも、変わらないビジネスの本質を抑える。 教材、参考図書をベースに基本を理解し、新聞やシンクタンクなどの情報や小売の現場を訪ねることも研究にとって有用である。 基本教材の内容を理解し、それを自身で消化した上でレポート作成にあたる。初稿作成までに20時間程度の学修時間を確保する。数回の「添削指導」を通じ、より深い理解に到達する。最終的にトータルでレポート1本45時間ほどの時間を要する。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし		
スケジュール	履修後、早めに学修計画の擦り合わせを行う。 <前期>基本教材1レポート課題1の初稿提出は2023年6月末を期限とする。 <前期>基本教材1レポート課題2の初稿提出は2023年8月末を期限とする。 <後期>基本教材2レポート課題1の初稿提出は2023年10月末を期限とする。 <後期>基本教材2レポート課題2の初稿提出は2023年12月末を期限とする。 いずれも最終稿の提出期限は学事暦に従う。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材に対する理解、課題に対する思考のプロセスの適切であり、内容に独自性があるかを評価する。論文としての体裁がきちんと守られているかもみる。	80%
	観察記録	提出期限が守られているか、複数回のやりとりの中で修正が行われたかを評価する。	20%
履修者への要望	「マーケティング論特講」など経営系科目と合わせて履修することが望ましい。履修登録後、速やかに学習計画の擦り合わせを行うこととする。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：矢作敏行 教材名：『コマースの興亡史』（2021年、日本経済新聞出版）ISBN:978-4532135195
	本書は、明治から令和に至る商業の近現代史をたどり、それぞれの時代の商業（コマース）の特質を描き出している。特に小売業者の経営革新行動を中心に分析。流通革命期におけるダイエーに代表される総合量販店の成長と凋落、セブン・イレブン・ジャパンやファーストリテイリングをはじめとする専門量販店の持続的な躍進を分析し、小売企業の成長戦略のための基本的な指針を示している。また、デジタル破壊、オムニチャネル化、プラットフォームなどの先端的動きについても分析し、流通・マーケティングの視点から対面形式による商業の重要性、デジタル時代の商業倫理のあり方を示している。
参考図書	田村正紀『流通モード進化論』（2019年、千倉書房）ISBN:978-4805111703
履修上のポイント	コマースの世界ではインターネット社会の到来により、情報的にエンパワーメントされた消費者が流通・マーケティングプロセスに積極的に関与するようになる一方、企業がその一挙手一投足をデータで把握し、消費者行動をコントロールする可能性を急速に高めている。そうした認識の上で、小売業者の経営革新行動を分析するフレームワークとしての「小売事業モデル」を理解する。そして、なぜその経営主体が存在し、どのように社会に貢献するのかを示す「基本理念」、それをどのような事業の形にして競争を勝ち抜くのかという「市場戦略」、そして戦略を実行し収益を上げる「小売業務システム」の3層からなる分析枠組みで、戦後の小売業の興亡を追ってみる
レポート課題1	なぜ流通革命の担い手は総合量販店から専門量販店へ替わったのかを論じてください。 留意点：第3章から第7章までのケースと第8章「流通革命期の総括——小売事業モデルの比較分析」を踏まえてください。
レポート課題2	なぜデジタルプラットフォーマーは「勝者総取り」を実現できたのかを論じてください。 留意点：デジタル変革の3つの局面を踏まえてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：ダグ・スティーブンス 教材名：『小売の未来』（2021年、プレジデント社）ISBN:978-4833424158
	本書は、アフターコロナ時代における小売業の構造変化と再編成を予測している。アマゾンやアリババ、ウォルマートなど「怪物企業」が勢力を増す中で、リアルを中心とした中小小売業が生き残るための方法を提示している。それは消費者からの「10の問いかけ」に基づき「10のリテールタイプ」に変化していくことであり、ポジショニングこそが成否を握ると指摘している。パンデミックによる危機を100年に1度の機会と捉え復活に挑むのか。本書は後者の道を選択する勇気ある小売業者に、小売りの世界と消費者行動の深層を見極める視座を与える。
参考図書	フィリップ・コトラー 『コトラーのリテール4.0』（2020年、朝日新聞出版）ISBN:978-4022516763 ダグ・スティーブンス 『小売再生』（2018年、プレジデント社）ISBN:978-4833422734
履修上のポイント	パンデミックによる危機を100年に1度の機会と捉え復活に挑むのか。教材は後者の道を選択する勇気ある小売業者に、小売りの世界と消費者行動の深層を見極める視座を与えている。デジタルトランスフォーメーション（DX）化、リモートワーク、ネット販売などコロナ禍の新たなビジネス展開は、工業化社会が「前提」としてきた、集中と対面を基本とするビジネスパラダイムの見直しを、急激かつ抜本的に迫りつつあるのだということを意識する。
レポート課題1	これから加速するであろう「怪物企業」の戦略を簡潔に説明してください。 留意点：エブリシング・ストアとオムニプレザンスのキーワードを意識してください。
レポート課題2	急激なパラダイムシフトと怪物企業との競合に対する中小小売業の武器は何かを論じてください。 留意点：「10の問いかけ」と「10のリテールタイプ」を整理しつつ、考えてみてください。

## 基本教材1

第1回	学ぶべき課題について全体を把握すべく、基本教材の構成（目次）意識しながら斜め読みする。
第2回	教員と意見交換し、レポート作成までのスケジュールと重点的に学修したい項目を検討する。
第3回	教材に基づく学修①（序章・第1章）
第4回	教材に基づく学修②（第2章）
第5回	教材に基づく学修③（第3章・第4章）
第6回	教材に基づく学修④（第5章・第6章）
第7回	教材に基づく学修⑤（第7章・第8章）、レポート課題1のテーマを考察する
第8回	レポート課題1の初稿執筆・提出
第9回	レポート課題1の再検討、最終稿作成・提出
第10回	教材に基づく学修⑥（第9章）
第11回	教材に基づく学修⑦（第10章）
第12回	教材に基づく学修⑧（第11章・終章）、レポート課題2のテーマを考察する
第13回	レポート課題2の初稿執筆・提出
第14回	レポート課題2の再検討、最終稿作成・提出
第15回	全体を通じた振り返り

## 基本教材2

第1回	学ぶべき課題について全体を把握すべく、基本教材の構成（目次）意識しながら斜め読みする。
第2回	教員と意見交換し、レポート作成までのスケジュールと重点的に学修したい項目を検討する。
第3回	教材に基づく学修①（序章）
第4回	教材に基づく学修②（第1章）
第5回	教材に基づく学修③（第2章）
第6回	教材に基づく学修④（第3章）
第7回	教材に基づく学修⑤（第4章）
第8回	教材に基づく学修⑥（第5章）
第9回	教材に基づく学修⑦（第6章）
第10回	教材に基づく学修⑧（第7章）
第11回	教材に基づく学修⑨（第8章）
第12回	レポート課題1の初稿執筆・提出
第13回	レポート課題1の再検討、最終稿作成・提出
第14回	レポート課題2の初稿執筆・提出
第15回	レポート課題2の再検討、最終稿作成・提出

科目名	ビジネス法特講	担当者	ナカムラ リョウ 中村 良	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	---------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>経済法という法典は存在しません。また経済法をどのように考えるかについては、諸説あります。ビジネス法特講においては、「市場支配」に対する国家による規制法と定義し、私的独占の禁止および公正取引確保に関する法律（以下、独占禁止法とします）をその中心と考えます。経済法を理解することなく事業活動を進めることは、多くのリスクが予想されます。そこでリスクを回避するためにも、具体的な事例を通じて経済法（特に独占禁止法）を理解することが重要です。レポート1では、経済法とは何か、独占禁止法との関係、独占禁止法の目的及びその中心的な概念である私的独占・不当な取引制限等の主要概念を中心に勉強を進めて頂きます。勉強方法としては、独占禁止法に関する資料の収集、整理、要約、論点整理、検証、レポート作成といったプロセスを通じて、経済法に対する基本的な知識を身につけるとともに、予防・事後対応等の問題回避・解決能力を取得してもらうことを目的とします。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 【一般目標 (GIO)】 ビジネス場面において、ビジネスの憲法とも言える独占禁止政策を理解し、違反行為を予防し、また被害にあわないよう損害を最小にする回避行動、損害賠償請求等ができるような知識・技能を修得する。 【行動目標 (SB0s)】 【行動目標 (SB0s)】 1独占禁止法の意義・基礎概念をしっかりと理解する。(知識・想起) 2独占禁止法上の問題点を見いだせる。(知識・想起) 3問題回避のための必要な情報を調べられる。(知識：解釈) 4必要な情報を事例に適用できる(知識・解釈・技能)。5バランスの取れた結果を導き出せる。(態度・反応)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 学修方略 【学修方略 (LS) と学修時間】 1 独占禁止法の法律要件を抽象的に理解するだけでは、十分に理解したことにはなりません。典型的な事例を分析・検討することがとても重要です。まず、教材①で独占禁止法について概観し、次に教材②を熟読して、独占禁止法の意義、違法行為類型（要件）、執行手続、エンフォースメント等について勉強します。“自習研究”【20時間】 2 1で身につけた知識を立体化するために教材②の文中で紹介されている判例・審決について教材③で確認して、レポートを作成して下さい。“レポート作成”【10時間】 3レポート課題への質問、勉強の仕方、資料の収集方法等について、担当教員とメールでディスカッションする。“ディスカッション” (nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp)。【15時間】 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングに該当しない。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングに該当しない。</p>		
スケジュール	<p>前期：基本教材1 課題(1)：初稿は令和8年6月末をめやすに、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。 課題(2)：初稿は令和8年7月末をめやすに、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。 後期：基本教材2 課題(1)：初稿は令和8年11月初旬頃をめやすに、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。 課題(2)：初稿は令和8年12月初旬頃をめやすに、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	①初稿の締切り、②内容（課題の正確な理解）、③構成（論理性）、④情報収集（必要な情報を収集しているか）、⑤文章表現力	50%
	観察記録	レポート作成過程における質問のやりとり（質問、および添削に対する対応等）。	50%
履修者への要望	<p>1 基本教科書について不明な点、資料の調べ方等電子メールを活用し、どのような質問でも結構ですので、積極的に質問して下さい。 2 新聞等で特に独占禁止法に関連する報道があれば是非調べてみて下さい。 3 履修登録及びレポート提出時には必ず下記アドレスあてにメールをお願い致します。 nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：著者名：泉水文雄 教材名：教材名：独占禁止法（有斐閣2022年）ISBN-4641243468 定価6600円（税込み）
	教材は、法学部さらには法科大学院の教科書として使用に耐える教科書です。
参考図書	著者名：公正取引委員会、 教材名：「動画で分かる公正取引委員会」公正取引委員会HP（ <a href="http://www.jftc.go.jp/">http://www.jftc.go.jp/</a> ） 著者名：川濱昇、武田邦宣、和久井理子（編集） 教材名：『経済法判例・審決百選3版（別冊ジュリスト268）』（有斐閣 2024年）ISBN- 4641115680 定価 3300 円（税込み） 著者名 根岸 哲（編） 書 名 『注釈独占禁止法』（有斐閣 2009年）ISBN978-4-641-01836-5 定価7,000円+税 著者名 武田晴人 書 名 『談合の経済学』（集英社文庫 2006年）ISBN4-08-747091-1 定価533円+税
履修上のポイント	独占禁止法の法律要件を抽象的に理解するだけでは、十分に理解したことにはなりません。典型的な事例を分析・検討することがとても重要です。まず、教材を通読し、独占禁止法の要件について勉強します。そして知識を立体化するために、教材の文中で紹介されている判例・審決について、参考資料『経済法判例・審決百選（第3版）』で確認してください。不明な点は、担当教員にメール等で質問して下さい。
レポート課題1	「独占禁止法の目的について論じなさい」 留意点：留意点：学説、審決・判例を必ず検証し、自らの見解を示してください。
レポート課題2	「談合は、独占禁止法に違反するか論じなさい」 留意点：留意点：①談合とは何か。②何故談合が行われるのか。③談合は独占禁止法違反となるか。学説、審決・判例を丁寧に検討し自らの見解を示してください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：著者名：泉水文雄著 教材名：教材名：独占禁止法（有斐閣2022年）ISBN-4641243468 定価6600円（税込み）
	教材は、法学部さらには法科大学院の教科書として使用に耐える教科書です。少し難解かもしれませんが挑戦してみてください。
参考図書	著者名：公正取引委員会作成、 教材名：「動画で分かる公正取引委員会」公正取引委員会HP（ <a href="http://www.jftc.go.jp/">http://www.jftc.go.jp/</a> ） 著者名：川濱昇、武田邦宣、和久井理子（編集） 教材名：『経済法判例・審決百選3版（別冊ジュリスト268）』（有斐閣 2024年）ISBN- 4641115680 定価 3300 円（税込み） 著者名 根岸 哲（編） 書 名 『注釈独占禁止法』（有斐閣2009年）ISBN978-4-641-01836-5 定価7,000円+税 著者名 田辺 治（編） 書 名 『企業結合ガイドライン』（商事法務2014年）ISBN-13:978-4785721527定価3,400円+税 著者名 丹宗暁信（編） 書 名 『独占禁止手続法』（有斐閣2002年）ISBN-13:978-4641143210 定価4,500円+税
履修上のポイント	教材、参考図書を精読するとともに、インターネット等を通じて資料を検索・検討してください。
レポート課題1	「独占禁止法上禁止される企業結合を論じなさい」 留意点：留意点：企業結合の経営学的、経済学的なメリットおよびデメリットを検討し、そのうえで、独占禁止法 で企業結合を禁止する理由を論じて下さい。
レポート課題2	「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」 留意点：留意点：損害賠償請求訴訟の独占禁止法の執行方法における位置づけと法律要件について学説を整理してください。そのうえで、これまでの独占禁止法に関連する損害賠償請求事件を検討し、その問題点を指摘してください。

基本教材1

第1回	<p>①授業テーマ 経済法を学修する意義 学修方法 経済法とは何か 経済法と独占禁止法との関係とは</p> <p>②学修準備 (10分) 担当教員にメールを送り打合せ日時を調整する。</p> <p>③学修 (360分) nakamura.ryo@nihon-u.ac.jpにメールし、Zoom等のオンラインでの打ち合わせ日時を決める(オンラインでの打ち合わせが困難な場合はメールにその旨記載する)。資料の収集方法、条文の読み方、審決・判例の調べ方及びまとめ方を学修する。経済法を勉強する意義について専門的な知識を論理的に理解する。経済法とは何かを経済法學説史を通じて理解する。学修ノートを作成する(作成後利用するためにもデータで作成することを推奨)。</p>
第2回	<p>①授業テーマ 独占禁止法の概要 1</p> <p>②準備 (10分) 最新の六法(独占禁止法に改正があったので最新のものを推奨)および基本書を用意する。</p> <p>③学修(360分) 公正取引委員会の上記URLの独占禁止法の概要(教材①)について解説動画を視聴する。この時に六法(小型のものでよい)を手元に用意し、出来る限り条文を確認する。その後、教材②を精読する(第1回で詳しく説明する)。レベルの高い基本書なので分からないところは飛ばして読み進める。教材②で引用された条文は六法で、審決・判例は教材③で内容を確認する。学修して分からなかった用語等について法律学辞典等を用いて調べる。自分でしらべても不明な場合は、担当教員にメールする(nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp)。</p>
第3回	<p>①授業テーマ 独占禁止法総論 1</p> <p>②準備(30分) ミクロ経済学(又は価格理論)の教科書等で「完全競争」について調べておく。教材②③を用意する。</p> <p>③学修(360分) 独占禁止法の基礎にある経済理論について専門的な知識を理解する。授業で取り扱った理論について自分の言葉で説明できるようにしておく。自分でしらべても不明な場合は、担当教員にメールする(nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp)。</p>
第4回	<p>①授業テーマ 独占禁止法総論 2(「事業者」「一定の取引分野」「競争の実質的制限」「公共の利益」「公正競争阻害」)</p> <p>②準備(30分) 教材②③と六法を用意する。前回学修した経済理論について、それぞれのメリット・デメリットを確認しておく。</p> <p>③学修(360分) 独占禁止法の基礎概念を審決・判例を参照しながら理解する(E1, H1, I1)。学修した概念を審決・判例を引用しながら自分の言葉で説明できるようになる。自分でしらべても不明な場合は、担当教員にメールする(nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp)。</p>
第5回	<p>①授業テーマ 独占禁止法の概要(私的独占)</p> <p>②準備(60分) 前回学修した「基礎概念」を審決・判例を引用しながら自分の言葉で説明できるようにする。</p> <p>第5回</p> <p>③学修(360分) 私的独占についてその要件・効果、執行手続きについて教科書②を精読し理解する。教科書②で引用されている学説、審決・判例について教科書③で確認する。ここで取り扱った論点、学説、審決・判例を自分の言葉で説明できるようになる(E1, H1, I1)。不明な点があれば担当教員にメールする。</p>
第6回	<p>①授業テーマ 独占禁止法の概要(不当な取引制限)</p> <p>②準備(120分) 不当な取引制限に関する経済理論を復習しておく。第6回</p> <p>③学修(360分) 不当な取引制限の構成要件・効果、立証責任、執行手続等について教科書②の該当箇所を精読する。教科書②で引用されている審決・判例を教科書③で確認し、そこで引用されている学説、審決・判例を収集し検討する。検討した論点、学説、審決・判例を自分の言葉で説明できるようにする。</p>
第7回	<p>①学修テーマ レポート1「独占禁止法の目的について論じなさい」の作成1(経済理論・学説)</p> <p>②準備(10分) 教科書②③、六法、これまで作成したノートを用意する。</p> <p>③学修(360分) 談合に関連する経済理論・学説を収集する。収集した経済理論・学説を検討し、自分の言葉で要約する。</p>
第8回	<p>①学修テーマ レポート課題1「独占禁止法の目的について論じなさい」の作成2(審決・判例)</p> <p>②準備(60分) 前回収集、要約した経済理論・学説を確認しておく。</p> <p>③学修(360分) 談合に関連する審決・判例を収集する。収集した学説、審決・判例を検討し、論点、事実の概要、理由を要約し整理する。レポートの構成を考える。</p>
第9回	<p>①学修テーマ レポート課題1「独占禁止法の目的について論じなさい」の作成(初稿作成・提出)</p> <p>②準備(10分) これまでに作成した資料、六法、教科書②③等を用意する。</p> <p>③学修(360分) 前回作成した構成に従って、資料収集、整理、要約、検討した資料を使用しレポートを作成する。第9回 談合に関連する審決・判例を収集する。収集した学説、審決・判例を検討し、論点、事実の概要、理由を要約し整理する。レポートの構成を考える。</p>
第10回	<p>①学修テーマ レポート課題1「独占禁止法の目的について論じなさい」の作成(初稿作成・提出)</p> <p>②準備(10分) これまでに作成した資料、六法、教科書②③等を用意する。</p> <p>③学修(360分) 前回作成した構成に従って、資料収集、整理、要約、検討した資料を使用しレポートを作成する。作成したレポートを初稿として担当教員に提出する。</p> <p>④レポート提出後 これまでの学修方法(学修計画を含む)について検討し改善する。</p>
第11回	<p>①学修テーマ レポート課題1「独占禁止法の目的について論じなさい」の作成(最終稿の作成) 第10回</p> <p>②準備(120分) 初稿に添えられたコメントを理解し適切な修正を加える。</p> <p>③学修 レポート課題1お提出するための最終チェックをする(特に脚注)。</p>
第12回	<p>①学修テーマ レポート課題1「談合は独占禁止法に違反するか論じなさい」の作成1(談合の歴史) 第11回</p> <p>②準備(60分) 近所の図書館等で参考図書(武田晴人著『談合の経済学』)を借りる。</p> <p>③学修(360分) 上記参考図書を精読し、談合の歴史・その背景を理解しておく。その内容を整理し要約する。</p>
第13回	<p>①学修テーマ レポート課題1「談合は独占禁止法に違反するか論じなさい」の作成2(経済理論、学説) 第12回</p> <p>②準備(60分) 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。</p> <p>③学修(360分) 談合に関連する資料(経済理論、学説)を収集する。収集した学説を整理し要約する。</p>
第14回	<p>①学修テーマ レポート課題1「談合は独占禁止法に違反するか論じなさい」の作成3(審決、判例) 第13回</p> <p>②準備(60分) 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。</p> <p>③学修(360分) 談合に関連する資料(審決・判例)を収集する。収集した審決・判例を検討し、論点、事実の概要、理由を要約し整理する。これまでの学説の整理と合わせてレポートの構成を考える。</p>

科目名	ファミリービジネス論特講	担当者	カトウ コウジ 加藤 孝治	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	--------------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	本講座では、「ファミリービジネス（同族企業）」に係る研究の基本的な科目であり、ファミリービジネスの更なる理解を深めるための出発点となる知識を修得することを目的とする。日本の企業経営を理解するために、理論的にも実務的にも有用度の高い分野として、ファミリービジネスの特性を理解し、その運営・継承にあたっての問題点を発見し、解決に向けた基礎知識の獲得を本講座では目指す。ファミリービジネスについては、日本は老舗が多く、世界的にも注目が集まっている。地域経済活性化の担い手としてのファミリービジネスへの期待も高い。海外における注目度に対して、日本では研究が遅れていたが、現在、急速に研究が進んでいる注目分野となっている。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 ファミリービジネスの経営が一般的な企業経営と何が違うのか、基本的な知識を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>①ファミリービジネスの基礎となる概要及び基礎理論を説明できる（知識）。 ②ファミリービジネスと非ファミリービジネスの違いに基づいた経営知識を理解できる（技能）。 ③経営学の理論や心理学などの背景に基づくファミリービジネス研究に触れることで、事業経営に係る課題解決にむけたアイデアを積極的に発信することができる（態度）。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 課題教材を精読し十分に理解したうえで、具体的な考察を行う必要がある。 具体的な事例に当てはめるためには課題教材を学修し、十分な時間をかけて考えることで知識となる。</p> <p>1. 教材の熟読ならびに体系的な理解。 2. ファミリー企業の経営手法の特徴の理解。 3. 日本のファミリー企業と欧米のファミリー企業の比較。</p> <p>・基本教材を熟読し、副教材も参考にしつつレポート(初稿)を作成する。【15時間/レポート1本】 ・教員による初期のコメント・指導に基づき、初稿の修正を行う。【15時間/レポート1本】 ・より深い理解に到達するための学修の場となる「複数回の添削指導」を通じて、最終的に提出できるレポートを作成する。最終レポートに到達するまでには、与えられた課題以外に指示された追加資料を確認し、更に自主的に参考資料を探索するという自主的なインプットを行う。このプロセスを通じて、より深い理解に到達する。【15時間/レポート1本】。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 具体的な企業事例は、新聞・ネットメディアなどの記事のほか、企業の公表資料などから入手する。論文、民間シンクタンクのレポートなどの幅広い情報源も活用する。 受講生の進捗状況・理解度を踏まえつつ、追加的なディスカッション（ケーススタディ）を盛り込む可能性がある。</p>		
スケジュール	<p>①学びにあたり、提出期限までに何度かレポートを使って、考え方を確認・交換する必要がある。前後期とも最終提出期限までに十分な時間を確保するために、課題1・課題2ともに以下の期限までに初稿提出すること（前期：7月15日、後期：11月15日）。</p> <p>②受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからないために、レポートの初稿を作成できないと感じたときは、開始後1か月程度の早めの時期に、下記「履修者への要望」に記載したアドレスへメールで質問すること。効率的に学習に取り組むために、レポート作成前に、課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。</p> <p>③最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p>		
成績評価	種 別	評価基準	割合
	レポート	①教材の内容を修得し、その考えを踏まえて解答されているか ②自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答できているか ③教材以外の資料を活用して解答しているか（加点項目）	80%
	観察記録	①最終提出までに複数回のレポート交換ができているか ②初稿提出期限（最終提出1か月前）が守れているか（減点項目）	20%
履修者への要望	<p>本科目の課題は、経営関連科目の基礎の理解が前提となっている。グローバル経営（MBA）部門のコア5科目につき、必要に応じ同時履修することが望ましい。 また、ファミリービジネスを研究する受講生は、その他の関連科目もあわせて履修することが望ましい。 履修登録後、速やかに学修計画のすり合わせを行うために、担当教員（加藤）に連絡すること (kato.koji15@nihon-u.ac.jp)</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：教材①ファミリービジネス学会、奥村昭博・加護野忠男・曾根秀一編著 教材②ジャスティン・B・クレイグ他            教材名：教材①『日本のファミリービジネス（第2版）その永続性を探る』（中央経済社、2026年）            ISBN:9784-502-56381-2 2,700円+税            教材②『ビジネススクールで教えているファミリービジネス経営論』（プレジデント社、2019年）            ISBN:9784-833-42325-0 2,750円+税</p> <p>教材①はファミリービジネスの実態及び研究領域について幅広く論じたものとして、ファミリービジネスの基礎的な研究成果が網羅的に概説されている。            教材②はケーススタディを交えることで深い理解に適している。            いずれの教材も、ファミリービジネスの実態の理解と基本的な理論に基づくその優位性・特徴に対する論点整理を進めることに適している。</p>
参考図書	<p>階戸照雄、加藤孝治『ファミリーガバナンス スムーズな業承継を進めるために』（中央経済社、2020年）ISBN:978-4-50-2344718 2,600円+税</p>
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本でファミリービジネスがどのような位置づけにあるのかを理解する。</li> <li>・ファミリービジネスが非ファミリービジネスとどのような点が異なるのかを理解する</li> <li>・ファミリービジネスが持つ「革新性」を理解する</li> </ul>
レポート課題1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スリー・サークル・モデル及びスリー・ディメンション・モデルに基づき、ファミリービジネスの非ファミリービジネスとの違いを説明せよ。（字数3000字程度）</li> <li>留意点：ファミリービジネスにおける3つの利害関係者の存在と時間的な経過による変化の様相を論じること。</li> </ul>
レポート課題2	<p>ファミリー・アントレプレナーについて、通常のベンチャー企業との違いに着眼して説明せよ。（字数3000字程度）</p> <p>留意点：ファミリービジネスでは、単に守旧的に事業の存続を考えるのではなく、常に新しいチャレンジを行っている。その取り組みが成立する背景をファミリーとの関係で説明してほしい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：教材①ジャスティン・B・クレイグ他 教材②小野田鶴（著、編集）            教材名：教材①『ビジネススクールで教えているファミリービジネス経営論』（プレジデント社、2019年）ISBN:978-4-833-42325-0 2,750円+税            教材②「星野佳路と考えるファミリービジネスの教科書」（日経BP、2019年）ISBN-13:978-4296104444 1,800円+税</p> <p>教材①は前期に引き続き活用する            教材②は事例を踏まえながら、その解決策が提示されている。それぞれの事例の適否を考えながら読み進めてほしい。</p> <p>長期的な計画でマネジメントされているファミリー企業は、非ファミリー企業に比べて業績において優れており、寿命が長いという研究もあるが、その一方で、閉鎖性、保守性、内紛や私物化、人材不足、事業承継の失敗など、特有の経営課題も抱えていることが指摘されている。その問題点を理解してほしい</p>
参考図書	<p>①ジョン・A・デーヴィス他『オーナー経営の存続と継承』（流通科学大学出版、1999年）            ②デニス・ケニヨン・ルヴィネ・ジョン・ウォード編『ファミリービジネス永続の戦略』（ダイヤモンド社、2007年）            ③ダニー・ミラー、イザベル・ル・ブルトン＝ミラー『同族経営はなぜ強いのか?』（ランダムハウス講談社、2005年）</p> <p>参考図書に掲げる書籍は絶版となっているが、ファミリービジネスの基本図書として取り上げられる良書であり、図書館などでご確認ください</p>
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリービジネス経営に必要な知識は、経営の基礎知識がベースであることを理解する</li> <li>・自社の経営だけでなく社会貢献を意識することにファミリービジネスの特徴を見出す</li> <li>・次世代に事業を継承するために必要なことは何か、その基本的な知識を身に付ける</li> </ul>
レポート課題1	<p>ファミリービジネスと非ファミリービジネスの違いをスチュワードシップの観点から説明せよ。（字数3000字程度）</p> <p>留意点：「スチュワードシップを考えると、ファミリービジネスと非ファミリービジネスの違いが最も明確になる」との教材著者の主張を踏まえて、違いが分かるように説明することが求められる。</p>
レポート課題2	<p>ファミリービジネスにおけるリーダーの役割について、課題図書②で示されている事例を参考にして説明せよ。（字数3000字程度）</p> <p>留意点：ファミリービジネスを率いるためにファミリーの視点、ビジネスの視点で求められるリーダーシップを、課題図書①・課題図書②を通読したうえで、説明することが必要となる。</p>

## 基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解。教材に基づく学修①（第1章）
第2回	「学修の進め方」について教員との意見交換。教材に基づく学修②（第2章）
第3回	教材1に基づく学修③（第3・4章）
第4回	教材1に基づく学修④（第5・6章）
第5回	教材1に基づく学修⑤（第7・8章）
第6回	教材1に基づく学修⑥（第9章）及び「学修の進捗状況」を教員と共有
第7回	教材1に基づく学修⑦（終章）
第8回	教材2に基づく学修①（第I部 第1・2章）
第9回	教材2に基づく学修②（第I部 第3章）
第10回	教材2に基づく学修③（第I部 第4章）
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿提出
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

## 基本教材2

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解。教材に基づく学修①
第2回	「学修の進め方」について教員と意見交換。教材に基づく学修②
第3回	教材に基づく学修③（第I部第5章）
第4回	教材に基づく学修④（第II部第6章）
第5回	教材に基づく学修⑤（第II部第7章）
第6回	教材に基づく学修⑥（第II部第8章）及び「学修の進捗状況」を教員と共有
第7回	教材に基づく学修⑦（第II部第9章）
第8回	教材に基づく学修⑧（第II部第10章）
第9回	教材に基づく学修⑨（第II部第11章）
第10回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿提出
第11回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第12回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第13回	レポート課題1・レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポート提出

第15回	①学修テーマ レポート課題1「談合は独占禁止法に違反するか論じなさい」の作成4（初稿の作成と提出） 第14回 第15回 ②準備（60分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。 ③学修（360分） レポートの初稿を作成し、提出する。
------	--

## 基本教材2

第1回	①学修テーマ 公正競争阻害について1 第1回 ②準備（60分） 後期学修について打合せの日時を決める。前期の同様担当教員にメール（nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp）で日時を調整する。前期で学修した経済理論を確認する ③学修（360分） 公正競争阻害性の概要について教科書②で学修する。
第2回	①学修テーマ 公正競争阻害について2 ②準備 前回で学修した内容を確認する（60分） ③学修（360分） 不公正な取引方法の概要について教科書②で学修する。
第3回	①学修テーマ 公正競争阻害について3 ②準備 前回で学修した内容を確認する（60分） ③学修（360分） 不公正な取引方法の概要について教科書②で学修する。
第4回	①学修テーマ 公正競争阻害について ②準備 前回で学修した内容を確認する（60分） ③学修（360分） 不公正な取引方法の概要について教科書②で学修する。
第5回	①学修テーマ 公正競争阻害について5 ②準備 前回で学修した内容を確認する（60分） ③学修（360分） 不公正な取引方法の概要について教科書②で学修する。
第6回	①学修テーマ 公正競争阻害について6 ②準備 前回で学修した内容を確認する（60分） ③学修（360分） 不公正な取引方法の概要について教科書②で学修する。
第7回	①授業テーマ レポート課題1「独占禁止法上禁止される企業結合を論じなさい」の作成1（経済理論、学説） ②準備（60分） 前期で学修した企業結合規制に関連する経済理論を自分の言葉で説明できるようにする。 ③学修（360分） 企業結合規制についての基礎知識（経済理論、学説等）について教科書②を精読し理解する。企業結合規制の基礎となる論点、経済理論、学説を整理し、要約する。不明な点があれば担当教員にメールする。
第8回	①授業テーマ レポート課題1「独占禁止法上禁止される企業結合を論じなさい」の作成2（審決・判例） ②準備（60分） 前回学修した学説を自分の言葉で説明できるようにする。 ③学修（360分） 企業結合規制に関連する審決・判例を収集する。事前相談事例を収集する。収集した審決・判例の事実の概要、論点、理由等を要約する。
第9回	①学修テーマ レポート課題1「独占禁止法上禁止される企業結合を論じなさい」の作成3（初稿の作成と提出） ②準備（60分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。 ③学修（360分） レポートの初稿を作成し、提出する。
第10回	①学修テーマ レポート課題1「独占禁止法上禁止される企業結合を論じなさい」の作成5（最終稿の作成） ②準備（120分） 初稿を修正するのに必要な資料を収集する。 ③学修（360分） レポート課題1お提出するための最終チェックをする（特に脚注）。 ④レポート提出後 これまでの学修方法（学修計画を含む）について検討し改善する。
第11回	①学修テーマ 独占禁止法執行手続 ②準備（60分） ③学修（360分） 独占禁止法における執行手続きについて教科書②で基礎理論を身につける。関連する条文、審決・判例を要約する。
第12回	①授業テーマ レポート課題2「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の作成1（経済理論、学説） ②準備（60分） 前期で学修した損害賠償請求制度に関連する経済理論を自分の言葉で説明できるようにする。 ③学修（360分） 損害賠償請求制度の基礎知識（経済理論、学説等）について教科書②を精読し理解する。損害賠償請求制度の基礎となる論点、経済理論、学説を整理し、要約する。不明な点があれば担当教員にメールする。
第13回	①授業テーマ レポート課題2「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の作成2（判例・違約金条項） ②準備（60分） 前回学修した学説を自分の言葉で説明できるようにする。第13回 ③学修（360分） 損害賠償請求制度に関連する判例を収集する。違約金条項の例を収集する。収集した判例の事実の概要、論点、理由等を要約する。レポート課題2「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の構成を考える。不明な点があれば担当教員にメールする。
第14回	①学修テーマ レポート課題2「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の作成3（初稿の作成と提出） ②準備（60分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。 ③学修（360分） レポートの初稿を作成し、提出する。
第15回	①学修テーマ レポート課題2「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の作成4（最終稿の作成と提出） ②準備（60分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。 ③学修（360分） レポート課題2「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の最終稿を作成する。特にレポートの脚注を確認する。

科目名	ファミリーガバナンス論特講	担当者	シナト テルオ 階戸 照雄	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	---------------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本科目では、ファミリー企業のガバナンスにつき、海外の豊富な具体的な企業ケース・スタディも交えて、考察してゆくことで、以下の能力を習得することを目的とする。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。</p> <p>II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。</p> <p>III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。</p> <p>IV. 集団の活動において、より良い成果を上げるために、他社と協働し、作業を行うとともに、指導者として他社の力を引き出し、その活躍を支援することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 経営者が会社経営において適切な意思決定を行うために、経営戦略の基礎から応用までの知識を修得することを一般目標とする。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 企業を巡るファミリーガバナンス論はもとより、諸理論や経営課題について把握し、その中で個別企業がとっている行動の背景を理解・概観できるようになることである。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本図書・教材の十分な理解、参考文献の検索と適切な理解、レポート作成、受講者同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生によるディスカッションによりレポートの最終稿を完成させる。</li> </ul> <p>【学修時間】</p> <p>レポート課題1につき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材の学修：20時間</li> <li>レポート執筆：10時間</li> <li>レポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導等を含む）：15時間</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folioを利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。</li> <li>manaba folioの掲示板や相互ディスカッションを利用して、受講者同士の協働学習を行う。</li> <li>図書館、インターネット等で自ら論文検索して、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt; ・レポート課題1 初稿提出期限：6月末 ★最終稿提出期限=学事暦に定める締切日 ・レポート課題2 初稿提出期限：8月末 ★最終稿提出期限=学事暦に定める締切日</p> <p>&lt;後期&gt; ・レポート課題1 初稿提出期限：10月末 ★最終稿提出期限=学事暦に定める締切日 ・レポート課題2 初稿提出期限：12月末 ★最終稿提出期限=学事暦に定める締切日</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材内容を十分理解・修得し、レポートが作成されているかを基準とする（論旨明確さ、独創性、文章表現の妥当性、引用の適切性等）。	80%
	観察記録	初稿段階から最終稿までのプロセスを含む取組みを評価基準とする。	20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>初稿の提出は締め切りを遵守すること。</li> <li>経営関連科目の基礎の理解が前提のため、経営関連科目との同時履修が好ましい。また、他のファミリービジネス関連科目の履修も望ましいのは言うまでもない。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：ファミリービジネス学会編、奥村昭博・加護野忠雄編著、階戸照雄他共著            教材名：『日本のファミリービジネス—その永続性を探る—』（中央経済社、2016年）            ISBN:978-4-502-19011-7 2,400円+税</p> <p>前期はファミリー企業の現状と課題につき、理解を深めることに重点を置く。このため、データ・理論面だけではなく、実際のファミリー企業像が得られるよう、具体的な企業についての知識を得るように努める。</p>
参考図書	<p>ジョン・A・デーヴィス他『オーナー経営の存続と継承』（流通科学大学出版、1999年）            ISBN:978-4-94-774630-6 2,800円+税            全国社外取締役ネットワーク編著『〈社外取締役〉のすべて』（東洋経済新報社、2004年）            ISBN:978-4-49-255514-9 1,800円+税</p>
履修上のポイント	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファミリー企業の定義から、その実態までの数々のデータを基に、理解を深める。</li> <li>2. 一般的な企業とファミリー企業の経営課題の違いを十分理解する。</li> <li>3. 一般的な企業と比較して、ファミリー企業のガバナンスの問題点を考える。</li> </ol>
レポート課題1	<p>ファミリー企業成功の条件を述べよ。            留意点： 1社以上の具体例を説明すること。            留意点：『日本のファミリービジネス』は旧版、新版（未刊）どちらを購入してもレポート課題には影響しない。</p>
レポート課題2	<p>ファミリー企業における、コーポレート・ガバナンス（企業統治）の必要性につき、説明せよ。            留意点： 1社以上の具体例を含めること。            留意点：『日本のファミリービジネス』は旧版、新版（未刊）どちらを購入してもレポート課題には影響しない。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：ランデル・カーロック、ジョン・ワード（訳者）階戸照雄            教材名：『ファミリービジネス 最良の法則』（ファーストプレス社、2015年）            ISBN:978-4-90-433681-6 3,800円+税</p> <p>後期は、前期で習得した知識をベースにして、基本教材（『ファミリービジネス 最良の法則』）で広範囲に扱われている、ファミリーガバナンスを中心に知識を深めていく。本書は優れた実務的な経験を踏まえた理論書であり、深い理解が望まれる。</p>
参考図書	<p>階戸照雄、加藤孝治編著『ファミリーガバナンス』（中央経済社、2020年）            ISBN:978-4-502-34471-8 2,450円+税            加藤孝治、階戸照雄、水谷公彦編著『ファミリービジネス成功の秘訣』（中央経済社、2025年）            ISBN:978-4-502-53401-0 3,000円+税</p>
履修上のポイント	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 欧米のファミリー企業の現状につき、知識を得る。</li> <li>2. 日本のファミリー企業と欧米のファミリー企業の経営課題の違いを理解する。</li> <li>3. 公開企業（非ファミリー企業）のコーポレート・ガバナンス（企業統治）の問題点を理解する。</li> <li>4. ファミリー企業のガバナンスの問題点を理解する。</li> </ol>
レポート課題1	<p>ファミリーガバナンスとコーポレート・ガバナンスの違いにつき、説明せよ。            留意点：留意点： 1社以上の具体例を含めること。</p>
レポート課題2	<p>ファミリーガバナンス実現のための条件を述べよ。            留意点：留意点： 1社以上の具体例を説明すること。</p>

## 基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（第1章）を行う
第2回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（第2章）を行う
第3回	教材に基づく学修③（第3章）
第4回	教材に基づく学修④（第4章）
第5回	教材に基づく学修⑤（第5章）
第6回	教材に基づく学修⑥（第6章）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第7回	教材に基づく学修⑦（第7章）
第8回	教材に基づく学修⑧（第8章）
第9回	教材に基づく学修⑨（第9章）
第10回	教材に基づく学修⑩（終章）
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

## 基本教材2

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（なぜファミリービジネスは悪戦苦闘しているのか）を行う
第2回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（ファミリー計画と事業計画の策定を同時進行させる）を行う
第3回	教材に基づく学修③（ファミリーの価値観と企業文化）
第4回	教材に基づく学修④（ファミリーとビジネスのビジョン：ファミリーのコミットメントを探る）
第5回	教材に基づく学修⑤（ファミリーの戦略：ファミリーの参加に関するプランニング）
第6回	教材に基づく学修⑥（ビジネス戦略：会社の将来の計画）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第7回	教材に基づく学修⑦（ファミリービジネスを成功へと導くための投資）
第8回	教材に基づく学修⑧（ファミリービジネス・ガバナンスと取締役会の役割）
第9回	教材に基づく学修⑨（ファミリーガバナンス：ファミリー集会とファミリー協定）
第10回	教材に基づく学修⑩（木を植える人々）
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	事業承継論特講	担当者	ソネ ヒデカズ 曾根 秀一	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	---------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

### 【科目概要】

目的	本講座では、「事業承継」について経営学の視点を中心に理解し、その知識を得るとともに、実践的な課題解決に関して修得することを目的とする。 日本の地域、経済の活性化を担っていく存在として、近年、中小企業とりわけ、ファミリービジネス（同族企業、家族企業）に注目が集まっている。また、欧米の大学では、ファミリービジネス論の授業が盛んに行われ、わが国でもファミリービジネスを取り扱った授業が増えつつある。その中でも本講義では、ファミリービジネスの中でも重要項目となる事業承継に焦点をあて、理解を深めていく。「理論・概念」と「実例」の対応関係に留意し資料の読み込みがのぞまれる。 以上の目的を達成することにより、理解力に加え、論理的かつ批判的思考力を中心に、問題発見、解決能力、計画・戦略立案、導入、遂行できる能力の獲得を目指す。		
到達目標	<b>【一般目標(GIO)】</b> ファミリービジネスならびに事業承継の内容と位置づけについて、専門性を理解する。  <b>【行動目標(SBOs)】</b> ・ファミリービジネスの基礎となる概要及び基礎理論を説明できる（知識）。 ・それをもとに、事業承継の仕組みを理解し、ケース事例を分析・評価・形成できる（技能）。 ・経営学の理論や情報などをもとに、事業承継に関する諸課題解決策の議論に参加し、コミュニケーションする（態度）。		
学修方略 (方法)	<b>【学修方略(LS)と学修時間】</b> 1. 教材の熟読ならびに体系的理解する。 2. 長寿企業、ファミリー企業における事業承継の特徴や問題点を理解する。 3. 事業承継に至るまでの後継者育成について理解する。 4. 後継者の正統性の獲得および課題について検討を行う。 ・1つのレポート作成にあたり基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上Manaba-folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。（合計45時間） <b>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</b> ・manaba folioを利用して、教員と院生との間での双方向を重視した指導を実施する。		
スケジュール	・複数回にわたるレポートを提出することで修士論文作成の際の必要となる基礎的な事項を修得することができる。具体的には、第1回目のレポートの初稿は、最終稿提出の1～2か月ぐらい前、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材内容の理解、修得、レポートの構成、文章表現を基準とする。	80%
	観察記録	草稿段階から最終稿に至るまでのプロセスや取組みを評価基準とする。	20%
履修者への要望	本講義の課題学修にあたっては、経営関連科目の基礎的理解が前提なため、経営関連科目との同時履修が望ましい。 また、他のファミリービジネス関連の同時履修も望ましい。		

### 【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：落合康裕  教材名：『事業承継のジレンマ：後継者の制約と自律のマネジメント』（白桃書房、2016年） ISBN:978-456126682-2 3,200円+税</p> <p>テキストは長期存続している企業群4社を対象に、経営学、ファミリービジネスの視点を援用しながら事業承継をテーマに考察し論じたものである。そして、伝統と革新のダイナミズムの解明に取り組んだ研究成果である。ファミリー型長寿企業にみられる商慣習やしきたりといった厳しい伝統の継承が求められることが多いファミリー型長寿企業の経営者は、どのようにして独創的な行動をとり次世代の経営者として育てていくのか、というリサーチクエスションのもとに議論が進められていく。事業承継の理解に加えて、それに関連した諸事情の理解に有効である。</p>
参考図書	ファミリービジネス学会編、奥村昭博・加護野忠男編 『日本のファミリービジネス：その永続性を探る』（中央経済社、2016年） ISBN:978-4-502-19011-7 2,400円+税
履修上のポイント	・事業承継の概要、プロセスについて理解する ・ファミリー企業と非ファミリー企業の事業承継の違いを理解する。 ・事業承継の課題と解決策について理解する。
レポート課題1	◎ファミリー型長寿企業の経営者は、どのようにして独創的な行動をとり次世代の経営者として育てていくのか説明せよ。 留意点：テキストのリサーチクエスションでもあるため、丹念に読むことで解が導かれると考える。
レポート課題2	◎ファミリービジネスにおける承継者の正統性の獲得について、教材以外の事例もあげながら説明せよ。 留意点：教材以外の正統性の獲得に関する事例を、文献やインターネット等から1つ以上具体的にあげて論じること。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：曾根秀一            教材名：『老舗企業の存続メカニズム：宮大工企業のビジネスシステム』（中央経済社、2019年）            ISBN:978-4-502-29981-0 3,800円+税</p> <p>本書はファミリービジネスの中でも長期存続してきた建築企業群4社を対象に、老舗企業の存続や事業承継のメカニズムを経営学（とくに経営戦略論、組織論）、経営史学融合の方法から論じたものである。そして、そこから伝統と革新のダイナミズムの解明に取り組んでいる。ファミリー型長寿企業にみられる商慣習やしきたりといった厳しい伝統の継承が求められることが多いファミリー型長寿企業の経営者は、どのようにして独創的な行動をとり次世代の経営者として育てていくのか、など先行研究では触れられてこなかった点について議論が進められる。</p>
参考図書	<p>デニス・ケニヨン・ルヴィネ・ジョン・ウオード編            『ファミリービジネス永続の戦略』（ダイヤモンド社、2007年） ISBN:978-4-478-33125-5 2,000円+税            星野妙子編            『ファミリービジネスの経営と革新：アジアとラテンアメリカ』（アジア経済研究所、2004年）            ISBN:978-4-258-04538-9 4,500円+税</p>
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国における長期存続企業の事業承継について理解する。</li> <li>・事業承継における後継者の正統性の問題を理解する。</li> <li>・承継プロセスにおける承業経営者の育成、選定、役割に着目し、その必要性について理解する。</li> </ul>
レポート課題1	<p>◎承業経営者（中興の祖）および企業家精神の発露が長期存続に対してどのような役割を果たすのか述べよ。            留意点：複数企業の事例を含めながら説明することが望ましい。</p>
レポート課題2	<p>◎長期存続を果たすために最も重要なことは何であるか。事業承継の視点も含めながら述べよ。            留意点：著者が論じていることをまとめたうえで見解を示してほしい。</p>

### 基本教材1

第1回	オリエンテーション：より詳細な授業の概要説明と導入
第2回	事業承継、ファミリービジネスの定義・概要・特徴
第3回	事業承継、ファミリービジネスの先行研究と理論
第4回	事業承継のプロセスと世代間の相互作用的展開
第5回	ファミリービジネスのガバナンス
第6回	ファミリービジネスの存続と後継者育成
第7回	ファミリービジネスにおける承継プロセス
第8回	ファミリービジネス特有の経営戦略
第9回	ファミリービジネス内外の利害関係者との関係性と維持
第10回	生得的な地位と獲得的な地位とのジレンマ
第11回	事業承継における後継者の正統性の獲得
第12回	ファミリービジネスの未来と課題、レポート課題1,2の初稿の提出
第13回	レポート課題1に関する教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題2に関する教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第15回	まとめと振り返り：レポート課題1,2に関する自らの考えを共有し最終レポートを提出する

## 基本教材2

第1回	オリエンテーション：より詳細な授業の概要説明と導入
第2回	老舗企業の定義・概要・特徴
第3回	老舗、ファミリービジネス研究の変遷
第4回	ファミリービジネス、事業承継を捉えた理論
第5回	長期存続を果たす経営の人材
第6回	長期存続を果たすガバナンス
第7回	顧客関係、組織構造、技能の継承を反映した事業承継
第8回	承業経営者（継承経営者）の誕生とその役割
第9回	生得的獲得と十全的参加
第10回	事業承継と存続の軌跡
第11回	組織文化と企業家精神
第12回	サステイナブルな経営論の再考、レポート課題1,2の初稿の提出
第13回	レポート課題1に関する教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題2に関する教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第15回	まとめと振り返り：レポート課題1,2に関する自らの考えを共有し最終レポートを提出する

科目名	事業創造論特講	担当者	ナカムラ ユウイチロウ 中村 裕一郎	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	---------	-----	-----------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講座は、新規事業創造（企業内での新規事業開発、ベンチャー企業の起業）についての知識を修得することにより、以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>①新規事業創造の方法論と日本の現状について、自ら学び、当該分野における課題を提示できる。 ②自らの属している組織における新規事業創造の課題を抽出して、その課題を解決するための行動・活動を自ら考えることができる。 ③社会に求められる新しい事業を創造するため、指導的立場で企業内において新しい事業を立ち上げること、あるいは、自らベンチャー企業を起業することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 企業内における新規事業開発、ならびにベンチャー企業の起業に必要な事業創造に関する専門性を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ①事業創造に関する理論や事例について説明できる。（知識） ②事業創造を阻害する課題を抽出し、その解決策を提示・実行できる。（技能）。 ③現実の社会に求められている新規事業を立ち上げるため、自ら行動し、多くの関係者と協調できる。（態度・習慣）</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 ①基本教材・副教材を学修する。（自習、SBO①②）【20時間/レポート1本】 ②レポートの初稿を作成する（自習・レポート作成、SBO①②）【10時間/レポート1本】 ③教員とのディスカッション（複数回の添削指導）を通じて、最終的にレポートを作成する。最終レポートを完成させるには、提示された教材以外に自ら参考資料を探索して、そこから得られる知見を加えることが必須である。（自主研究・レポート作成・ディベート、SBO②③）【15時間/レポート1本】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folioの掲示板機能を利用した、複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生とのディスカッションによって、アクティブラーニングを行う。</p>		
スケジュール	<p>前期は、レポート課題1の初稿の締切りを6月末、課題2の初稿の締切りを8月末とする。最終稿の提出期限は、いずれも学事歴で定められた期日とする。 後期は、レポート課題1の初稿の締切りを10月末、課題2の初稿の締切りを12月15日とする最終稿の提出期限は、いずれも学事歴で定められた期日とする。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	①レポートが求める課題に対して適切に解答されているか。 ②結論の論拠が明確で、説得力のあるものになっているか。 ③結論に独自性があるか。（加点項目）	80%
	観察記録	①レポートの提出期限が守られているか。 ②教員とのディスカッションへの対応	20%
履修者への要望	<p>提示された教材、参考図書以外に、新聞・雑誌・ネットメディアなどの記事のほか、学術論文、民間シンクタンクのレポートなどの幅広い情報源を活用することが望まれる。 学修計画のすり合わせを行うために、履修登録後、速やかに担当教員に連絡すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：(1)グロービス経営大学院，(2)ブランク，ステイーブン G.            教材名：(1)『グロービスMBA事業開発マネジメント』（ダイヤモンド社，2010年） ISBN: 978-4478012130 2,800円+税            (2)『アントレプレナーの教科書[新装版]』（翔泳社，2016年） ISBN:978-4798143835 2,400円+税</p> <p>教材(1)、参考図書(2)は、新規事業開発やそれに必要な事業計画書についての標準的な考え方を述べた文献。            教材(2)、参考図書(2)は、事業創造の新しいプロセスについて述べた文献。            レポート課題1を行うには参考図書(1)を参照すること、レポート課題2を行うには参考図書(2)を参照することが望まれる。</p>
参考図書	<p>(1)グロービス経営大学院編著『グロービスMBAビジネスプラン[新版]』（ダイヤモンド社，2010年） ISBN: 978-4478014745 2,800円+税            (2)マウリヤ，アッシュ『実践リーンスターアップ』（オライリージャパン，2012年） ISBN: 978-4873115917 2,200円+税</p>
履修上のポイント	<p>新規に事業を創造するための標準的なプロセスと、新しいプロセスについて学ぶ。自らの体験等を踏まえて、それらを実践するとどうなるかについて深く考察して欲しい。</p>
レポート課題1	<p>事業創造のプロセスにおける事業計画書（ビジネスプラン）の役割、意義について、昨今の経営環境を踏まえて、5,000字以内にまとめなさい。            留意点：取り上げる事業創造のプロセスは、企業内における新規事業開発であっても、起業を前提とする事業創造であっても構わないが、どちらについての記述であるか明確にすること。</p>
レポート課題2	<p>シリコンバレー等のベンチャー企業で採用されるようになった新しい事業創造プロセスが日本においても実践可能なものであるかについて5,000字以内にまとめなさい。            留意点：新しい事業創造プロセスを日本で実行しようとする際に阻害要因となり得るものを挙げ、その阻害要因を克服できる可能性を考察すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：(1)米倉誠一郎，(2)中村裕一郎            教材名：(1)『経営革命の構造』（岩波書店，1999年） ISBN：978-4004306429 820円+税            (2)『アライアンス・イノベーションー大企業とベンチャー企業の提携:理論と実際ー』（白桃書房，2013年） ISBN:978-4561266204 3,500円+税</p> <p>教材(1)は、産業革命からシリコンバレーまでの技術と組織のイノベーションの主役の変遷をたどる経営通史。参考図書(1)、(2)は、その2000年以降の変化がわたる文献。            教材(2)は、大企業の事業創造にとって重要なベンチャー企業との提携が、日本ではあまり行われていない原因とその解決策を提示する。解決策としてCVCの活用を提言するが、参考図書(3)はそのCVCについて述べている</p>
参考図書	<p>(1)マラビー，セバスチャン『The Power Law (ザ・パワー・ロー) ベンチャーキャピタルが変える世界(上)』（日経BP 日本経済新聞出版，2023年） ISBN:978-4296115082 1900円+税            (2)後藤・ウィックハム『ベンチャー・キャピタリストー世界を動かす最強の「キングメーカー」たち』（ニューズピックス，2022年） ISBN:978-4910063218 2,600円+税            (3)ロマンズ，アンドリュー『CVCコーポレートベンチャーキャピタルーグローバルビジネスを勝ち抜く新たな経営戦略』（ダイヤモンド社，2017年） ISBN:978-4478084212 2,200円+税</p>
履修上のポイント	<p>イノベーションや事業創造の仕組みとしてのシリコンバレーモデルのエコシステムについての理解を深めることが目標。それには、シリコンバレーを構成する主要なメンバーへの理解が不可欠。</p>
レポート課題1	<p>イノベーションや事業創造における、ベンチャー企業、ベンチャーキャピタル、大企業それぞれの役割について5,000字以内にまとめなさい。            留意点：昨今の企業を取り巻く経営環境の大きな変化に留意して考察すること。</p>
レポート課題2	<p>課題1で述べられたベンチャー企業、ベンチャーキャピタル、大企業それぞれの役割が、我が国において十分に果たされているかどうかについて5,000字以内でまとめなさい。            留意点：欧米や中国の状況と比較して試みるのが重要</p>

## 基本教材1

第1回	本科目の「目的」と「到達目標」を理解した上で「学修の進め方」を、教材の概要を理解する
第2回	教材(1)に基づく学修①（アイデアとビジネスモデル、ビジネスプラン）
第3回	教材(1)に基づく学修②（新事業戦略の定石）
第4回	教材(1)に基づく学修③（人材・組織づくりとリーダーシップ）
第5回	教材(1)に基づく学修④（マネジメント・システムの強化、新ビジネスに必要なもの）
第6回	レポート課題1について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第7回	レポート課題1の初稿に対する教員から指摘に基づき内容を再検討する
第8回	レポート課題1について最終レポートを提出する
第9回	教材(2)に基づく学修①（製品開発モデルと顧客開発モデル）
第10回	教材(2)に基づく学修②（顧客発見）
第11回	教材(2)に基づく学修③（顧客実証）
第12回	教材(2)に基づく学修④（顧客開発と組織構築）
第13回	レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第14回	レポート課題2の初稿に対する教員から指摘に基づき内容を再検討する
第15回	レポート課題2について最終レポートを提出する

## 基本教材2

第1回	教材(1)に基づく学修（イノベーション・モデルの変遷）
第2回	教材(2) 第1章に基づく学修（イノベーション・モデルとしてのシリコンバレー）①
第3回	参考図書(1)に基づく学修（イノベーション・モデルとしてのシリコンバレー）②
第4回	参考図書(2)に基づく学修（シリコンバレーモデルを超える新たなイノベーション・モデル）
第5回	教材(2) 第2章に基づく学修（大企業にとってのベンチャー企業との提携の意義）
第6回	レポート課題1について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第7回	レポート課題1の初稿に対する教員から指摘に基づき内容を再検
第8回	レポート課題1について最終レポートを提出する
第9回	教材(2) 第3～5章に基づく学修（日本の大企業とベンチャー企業との提携）
第10回	参考図書(3)に基づく学修（イノベーションを駆動する存在としてのCVCの役割）
第11回	教材(2) 第8章に基づく学修（日本の大企業がベンチャー企業との提携を成功させるための方策）
第12回	ここまでの学修を踏まえ、ベンチャー企業、大企業、ベンチャーキャピタルの状況について調査・考察
第13回	レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第14回	レポート課題2の初稿に対する教員から指摘に基づき内容を再検討する
第15回	レポート課題2について最終レポートを提出する

科目名	地方創生・振興論特講	担当者	カタガミ トシキ 片上 敏喜	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	------------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

### 【科目概要】

目的	本講座では、身近にある地域の営みを見つめ直し、それらを対象とした活動から、自らの地域社会を住みやすくしていく取組みとしての地方創生・振興論の考えやアプローチのあり方等について修得することを目的とする。 地域経済、過疎化、地域の雇用、地域環境の変化などの諸問題に対応するためには、地方自治体や企業をはじめ、関連する諸団体や人々が地域を軸として展開していく幅広い分野からのアプローチが重要となる。本講座では、地域が抱える様々な課題に、多様な側面から接近することを通じて、地域活性化の本質について理解を深めていく。		
到達目標	【一般目標(GIO)】 地方創生や地域振興は、何を持って達成されるのか、ということについての知識や枠組み、働きかけのあり方について修得する。 【行動目標(SBOs)】 地方創生・地域振興の目指すべき方向について説明できる(知識) 地方創生・地域振興を行う時の具体的なアプローチについて理解できる(技能) 自身の身近にある地域の価値を発見し、その価値を発信していくために必要な要件やアイデアを述べることのできる(態度)		
学修方略 (方法)	【学修方略(LS)と学修時間】 課題教材の内容を十分理解した上で、地方創生や地域振興における課題や展開手法、地域を担う人びとの育成の在り方について検討を行う。また地域を活性化するための目的やそれを行うことが私たちの生活にどのような影響を持つのかということについて、考えを深める。 一つのレポート作成にあたっての教材・参考文献等の読み込みについては20時間以上、manaba folioへの提出等については、初稿15時間以上、推敲10時間以上を目標とする(計45時間以上)。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folioを活用した相互交流を重視した指導を行う。		
スケジュール	レポートを提出することを通じて、基礎的かつ応用的な知識を修得するために、課題1・2の初稿提出は、前期7月末、後期11月末とする。レポートの最終提出については、学事暦に定められた日までに必ず提出することを求める。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材内容の理解、修得、レポート内容・構成、文章表現等により評価する。	80%
	観察記録	初稿提出から最終稿の提出に至るまでの過程や受講者の取り組みの姿勢等から評価する。	20%
履修者への要望	履修登録を行った際に、その旨を担当教員(katagami.toshiki@nihon-u.ac.jp)にメールで連絡をお願いします。		

### 【レポート課題】

基本教材1	
教材の概要	著者名：岡田 知弘 教材名：『地域づくりの経済学入門(増補改訂版)－地域内再投資力論』(自治体研究社、2020年) ISBNコード：9784880377117 2,970円(税込)  本テキストは、経済のグローバル化の進行の中で、どのように地域を活性化されていけば良いかという観点から編まれている。近年の新型コロナウイルス感染症等から端を発して課題がより鮮明に浮き彫りになった一極集中による「過剰、過密」がもたらす多くの弊害に対して、「地域内再投資力」(＝地域内で繰り返し再投資する力)を軸に、人々の「生活領域」から活性化を考え、理解を高めていくことに適している。
参考図書	内田樹著『ローカリズム宣言「成長」から「定常」へ』(株式会社デコ、2018年) ISBNコード：9784906905164 1,760円(税込)
履修上のポイント	・地域とは何かを理解する。 ・地域づくりの本義について理解する。 ・地域社会の持続可能性とは何かということについて理解する。
レポート課題1	本テキストを全て熟読した上で、地域内再投資力・地域内経済循環の重要性と具体的なアプローチについて説明を行う。 留意点：教材以外で、受講者自身が関心を持つ対象を文献・インターネット・現地調査等から2つ以上、事例を取り上げて具体的に論じる。
レポート課題2	過去の地域開発政策の失敗した要因について説明を行う。あわせて、教材以外の事例も取り上げながら、失敗例とその要因について説明を行う。 留意点：教材以外で、受講者自身が関心を持つ対象を文献・インターネット・現地調査等から2つ以上、事例を取り上げて具体的に論じる。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：藤山 浩            教材名：『田園回帰1%戦略－地元にと仕事を取り戻す－』（農山漁村文化協会、2015年）ISBNコード：9784540142437 2,420円（税込）</p> <p>本テキストは、地域創生・地域振興に重要な人口の問題を人々が暮らす地域のあり方とともに考え、これからの生活や暮らし、持続可能な地域社会を形成していくためのアプローチについて考察することを中心に編まれている。特に、工場誘致や観光開発といった手法のみで地域の活性化をはかるのではなく、地域内でいかにして経済循環を起こしていくかということについて、理解を高めていくことに適している。</p>
参考図書	<p>藤山浩編著『「循環型経済」をつくる』（農山漁村文化協会、2018年）ISBNコード：9784540171086 2,860円（税込）            渡邊格著『田舎のパン屋が見つけた「腐る経済」』（講談社、2017年）ISBNコード：9784062817141 869円（税込）</p>
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域振興を行う上で必要な要素について理解する</li> <li>・地域を支える根幹となる人口問題について理解する。</li> <li>・地域を支える社会システムのあり方について理解する</li> </ul>
レポート課題1	<p>本テキストを熟読した上で、現在の日本において大都市に人口が集中し、過剰・過密になっている現状がもたらす様々な問題について説明を行った上で、それらの問題を解決することがもたらす効果について具体的に述べる。            留意点：教材以外で、受講者自身が関心を持つ対象を文献・インターネット・現地調査等から 2つ以上、事例を取り上げて具体的に論じる。</p>
レポート課題2	<p>本テキストで述べられている田園回帰を行うための条件の整備について、どのような要素が求められるかということの説明した上で、それらの要素を重視して取り組んでいる地域を、文献・インターネット・現地調査等を通じて取り上げて論じる。            留意点：上記の対象地域については、2つ以上の地域を取り上げて論じる。</p>

### 基本教材1

第1回	課題に対する理解、教材に基づく学修①（はじめに・第1章）
第2回	教材1に基づく学修②（第2章）
第3回	教材1に基づく学修③（第3章）
第4回	教材1に基づく学修④（第4・5章）
第5回	教材1に基づく学修⑤（第6・7章）
第6回	教材1に基づく学修および学修の進捗状況を教員と共有
第7回	教材1に基づく学修⑥（第8・9章）
第8回	教材1に基づく学修⑦（第10・11章）
第9回	教材1に基づく学修⑧（第12章）
第10回	教材1に基づく学修および学修の進捗状況を教員と共有
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容を取りまとめて、初稿提出
第12回	レポート課題1について、教員からの指摘事項を受けて、それらの指摘に基づいた内容の再検討
第13回	レポート課題2について、教員からの指摘事項を受けて、それらの指摘に基づいた内容の再検討
第14回	レポート課題1・2に関する総合的な内容の深化
第15回	レポート課題1・2に関して、自身の考察を教員と共有して最終レポートを提出する

## 基本教材2

第1回	課題に対する理解、教材に基づく学修①（はじめに・序章）
第2回	教材2に基づく学修②（第1章）
第3回	教材2に基づく学修③（第2章）
第4回	教材2に基づく学修④（第3章）
第5回	教材2に基づく学修⑤（第4章）
第6回	教材2に基づく学修および学修の進捗状況を教員と共有
第7回	教材2に基づく学修⑥（第5章）
第8回	教材2に基づく学修⑦（第6章）
第9回	教材2に基づく学修⑧（第1～6章）
第10回	教材2に基づく学修および学修の進捗状況を教員と共有
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容を取りまとめて、初稿提出
第12回	レポート課題1について、教員からの指摘事項を受けて、それらの指摘に基づいた内容の再検討
第13回	レポート課題2について、教員からの指摘事項を受けて、それらの指摘に基づいた内容の再検討
第14回	レポート課題1・2に関する総合的な内容の深化
第15回	レポート課題1・2に関して、自身の考察を教員と共有して最終レポートを提出する

科目名	ローカルビジネス論特講	担当者	サトウ ショウヘイ 佐藤 奨平	開講期	通年	単位数	4	分野名	国際情報
-----	-------------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	グローバル化、人口減少、少子高齢化、デジタル化、新型コロナなどの環境要因は、地域経済・社会の変容に影響を与えてきた。こうした中、地域に根ざした産業は創意工夫で日々アイデアを磨き合い、新たな製品・サービスの開発・提供を通じて、地域の魅力創出や課題解決などの顧客創造に向き合っている。グローバリゼーションの進展下において、昨今のローカルビジネスが地域密着型経営や高品質地域特産化による製品差別化で生き残りを図ろうとしているのは、その例証であるといえよう。日本が資源に乏しい国であると言われることがあるが、地域に目を向けると、むしろそこは宝の山にも思えてくることがある。近年では、潜在的な資源を顕在化することで、新たな価値創出を実現するローカルビジネスが続々と登場している。本特講では、ローカルビジネスの最新動向に注目しながら、食・農・資源・観光・まちづくり・サステナビリティ等の観点による新たな価値創出の理論と方法について理解を深め、考察を試みる。		
到達目標	<b>【一般目標(GIO)】</b> <b>【一般目標(GIO)】</b> 複数の具体的な事例から、新常态社会でのローカルビジネスの方向性を理解する。 <b>【行動目標(SBOs)】</b> <b>【行動目標(SBOs)】</b> ①ローカルビジネスの事例調査に取り組むことができる。 ②ローカルビジネスの具体的な事例研究(ケーススタディ)から得た知見をもとに、自身の研究・実務や社会活動に生かすことができる。 ③地域活性化・地域創生等の課題解決型ローカルビジネスの創出に向けて行動できる。		
学修方略 (方法)	<b>【学修方略(LS)と学修時間】</b> <b>【学修方略(LS)と学修時間】</b> 基本教材の内容を理解しながらレポートを作成する。ローカルビジネスに関連する知識を広げるために、シラバスに記載した参考図書のみならず、シンクタンクや行政等の公表する論文・報告書、各種記事からも情報を収集する。 <b>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</b> <b>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</b> ①基本教材の内容を理解しながらレポートを作成する。(15時間/レポート1本) ②教員のコメントを踏まえてレポートに加筆して仕上げる。(15時間/レポート1本) ③以上を踏まえ、自身で行ったローカルビジネス調査の結果を提出する。(15時間/レポート1本)		
スケジュール	<b>【前期】</b> ・基本教材1を用いた「レポート課題1」の初稿提出期限を2026年6月末とする。 ・基本教材1を用いた「レポート課題2」の初稿提出期限を2026年7月末とする。 ・基本教材1の最終稿の提出期限は学事暦で定められた日までとする。 <b>【後期】</b> ・基本教材2を用いた「レポート課題1」の初稿提出期限を2026年10月末とする。 ・基本教材2を用いた「レポート課題2」の初稿提出期限を2026年11月末とする。 ・基本教材2の最終稿の提出期限は学事暦で定められた日までとする。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	①基本教材の内容を理解したうえで論述しているか。 ②論理的に述べているか。 ③基本教材以外の資料を活用して論述しているか。	80%
	観察記録	①レポートの提出期限が守られているか。 ②レポートの論文としての体裁が守られているか。	20%
履修者への要望	基本教材を用いた学修と併せて、ローカルビジネス(1か所以上)を調査していただきたい。調査手法は現地調査や現地視察が望ましいが、制約がある場合は、ウェブサイトやオンライン等を駆使することでも構わない。何らかの手法を駆使して、ローカルビジネスのケーススタディ(事例研究)を完成させていく。不明点や質問等については、manaba folioで受け付ける。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：北川太一編著            教材名：『地域産業の発展と主体形成－食と農、資源を活かす－』放送大学教育振興会、2020年。            ISBN：978-4-595-14134-8</p> <p>食と農、資源を基軸に、地域産業と主体形成にかかわる理論、鍵概念、事例について解説している。食と農、資源に関わるローカルビジネスの理論と展開を、主体形成を地域経営の観点から考察している。近年の政策動向の解説を踏まえ、地域経営の理論と展開、フードシステム、地域ブランド商品づくり、農村女性起業、農山村レクリエーション、地場産業、非営利協同セクター等の展開とそのケーススタディの知見が述べられている。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本大学食品ビジネス学科編著『人を幸せにする食品ビジネス学入門（第2版）』オーム社、2021年。</li> <li>・小田切徳美編『新しい地域をつくる－持続的農村発展論－』岩波書店、2022年。</li> <li>・加藤孝治・階戸照雄・水谷公彦編著『ファミリービジネス成功の秘訣－地域との共存による事業承継－』中央経済社、2025年。</li> </ul>
履修上のポイント	<p>まずは、ローカルビジネスを取り巻く近年の政策・経済・社会・技術動向をおさえつつ、「新しい内発的発展論」等の地域経営論、フードシステム論、産業集積論などのローカルビジネスの理論編を理解する。前期では、本書（基本教材1）から多様なローカルビジネスの理論と事例に触れ、そのうえで後期は応用編として、ローカルビジネスのマーケティングのあり方を検討したのち、最終的に調査をもとにケーススタディを行う。</p>
レポート課題1	<p>食と農を基軸とするローカルビジネスの展開と課題をまとめ、考察を述べよ（3,000字程度）。</p> <p>留意点：留意点：第1章から第8章までの内容を参考にするとよい。</p>
レポート課題2	<p>本書で取り上げられた事例を振り返り、特に印象に残ったものを取り上げて、その特徴と他地域への適用可能性について検討せよ（3,000字程度）。</p> <p>留意点：留意点：第1章から第15章までの内容をもとにしてください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：西村順二・陶山計介・田中洋・山口夕妃子編著            教材名：『地域創生マーケティング』中央経済社、2021年。            ISBN：978-4502396816</p> <p>本書の表紙に記載されたサブタイトルは、“Rise of Regions in Japan :Marketing Theory and Cases”である。ローカルビジネスの応用編として、マーケティングの視点から地域創生のあり方を考えていく。多様な地域資源を活かした多様な視点・手法を理解するために、地域・都市の再生、地域の歴史・文化の再発見、伝統産業・地場産業の役割とその継承、観光産業の推進、ローカルビジネス・イノベーション、「コト」ベースのブランディング、グローバリゼーション、SDGsを題材にしたローカルビジネスのケーススタディを検討する。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関満博『地域産業の「現場」を行く』第1集～第10集（完結）、新評論、2008年～2017年。</li> <li>・宮副謙司『地域活性化マーケティング－地域価値を創る・高める方法論－』同友館、2014年。</li> <li>・岩永洋平『地域活性マーケティング』ちくま新書、2020年。</li> </ul>
履修上のポイント	<p>前期（基本教材1）で学んだ多様なローカルビジネスの理論と事例を踏まえ、後期は応用編として、基本教材2を用いてローカルビジネスのマーケティングのあり方を検討するとともに、調査をもとにケーススタディを行う。</p>
レポート課題1	<p>本書で取り上げられた事例を振り返り、特に印象に残ったものを取り上げて、その特徴と他地域への適用可能性について検討せよ（3,000字程度）。</p> <p>留意点：第1章から第10章までの内容をもとにしてください。</p>
レポート課題2	<p>調査に基づいてローカルビジネスのケーススタディ（事例研究）を行い、まとめよ（3,000字程度）。</p> <p>留意点：現地調査・視察を行うことが望ましいが、制約がある場合は、ウェブサイトやオンライン等を駆使することでも構わない。何らかの手法を駆使して、ローカルビジネスのケーススタディ（事例研究）を完成させていく。</p>

## 基本教材1

第1回	本講義の目標とアプローチ―地域をめぐる状況と先行研究― 【◆基本教材1を用いた「レポート課題1」の作成を開始する】
第2回	国土政策の変遷と農業・農村地域政策の展開
第3回	地域経営の理論と展開
第4回	地域産業の発展とフードシステム 福島県におけるワイン産地の形成に向けた課題（ケーススタディ）
第5回	地域住民主体による地域ブランド商品づくりの転換
第6回	地域の発展における農村女性起業の役割 女性起業の展開と役割（ケーススタディ）
第7回	【◆基本教材1を用いた「レポート課題1」：内容をまとめ、初稿を提出する】
第8回	【◆基本教材1を用いた「レポート課題1」：教員からのコメントをもとに、内容を再検討する】
第9回	田園回帰時代における農山村レクリエーションの展開 【◆基本教材1を用いた「レポート課題2」の作成を開始する】
第10回	農山村資源を活用した地域産業の展開 海外における地域産業の展開事例・オランダ（ケーススタディ）
第11回	産業集積の実態―地域学習とイノベーション― 地場産業の発展とモノづくり
第12回	地域産業の主体形成と非営利協同セクターの役割 地域産業の発展と主体形成の課題
第13回	【◆基本教材1を用いた「レポート課題2」：内容をまとめ、初稿を提出する】
第14回	【◆基本教材1を用いた「レポート課題2」：教員からのコメントをもとに、内容を再検討する】
第15回	【◆基本教材1を用いた「レポート課題1」及び「レポート課題2」の最終稿を提出する】

## 基本教材2

第1回	地域の活性化を考える視座 【◆基本教材2を用いた「レポート課題1」の作成を開始する】
第2回	地域創生の理論とマーケティング・コミットメント 持続可能なまちづくりに求められる観光産業
第3回	地域創生とSDGs 地域創生と地域住民・観光客の満足
第4回	地域創生と「コト」ベースのブランディング （事例）地域創生におけるゲートキーパーの役割―川上町役場と川上大雪酒造との関係を中心に―
第5回	（事例）地域特産品の創出と地場産業の発展 （事例）着地型観光による地域創生
第6回	（事例）有田焼にみる海外展開と地域創生 （事例）山梨ワインクラスター―文化システムの視点から見た地域産業―
第7回	【◆基本教材2を用いた「レポート課題1」：内容をまとめ、初稿を提出する】
第8回	【◆基本教材2を用いた「レポート課題1」：教員からのコメントをもとに、内容を再検討する】
第9回	調査に基づくケーススタディ（事例研究） 【◆基本教材2を用いた「レポート課題2」の作成を開始する】
第10回	調査に基づくケーススタディ（事例研究）
第11回	調査に基づくケーススタディ（事例研究）
第12回	調査に基づくケーススタディ（事例研究）
第13回	【◆基本教材2を用いた「レポート課題2」：内容をまとめ、初稿を提出する】
第14回	【◆基本教材2を用いた「レポート課題2」：教員からのコメントをもとに、内容を再検討する】
第15回	【◆基本教材2を用いた「レポート課題1」及び「レポート課題2」の最終稿を提出する】

科目名	調査分析特講	担当者	タナカ ケンイチロウ 田中 堅一郎	開講期	通年	単位数	4	分野名	共通
-----	--------	-----	----------------------	-----	----	-----	---	-----	----

【科目概要】

目的	<p>本講義の目的は、①調査の種類、その中でも質問紙法（アンケート調査）と面接調査（ヒアリング調査）について学習し、実際に調査票を作成し、面接計画を作ることを目的とする。②調査分析に必要な統計手法について学習し、実際に分析できることを目的とする。</p> <p>I. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的な考察を通じて、具体的かつ論理的な見解を示すことができ、その限界を認識することができる。</p> <p>II. データを分析し、分析結果の意味を理解し、問題を解決することができる。</p> <p>III. 経験や学修から得られた知識や教養に基づき、倫理的な課題を理解し説明できる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 データを注意深く読み取り、適切な分析を行うことができ、分析結果を客観的に解釈することができる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ・データを収集するための調査票を作成することができる（もしくは調査的面接を計画することができる）。</p> <p>・データ分析に必要な統計学的知識を理解することができる。</p> <p>・データ分析に必要なコンピュータ・リテラシーを身につけられる。</p> <p>・収集されたデータを、統計学的知識と統計パッケージのリテラシーを駆使して分析し、分析した結果を解釈することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑をする。 1つのレポート課題の完成までに最低45時間の学習時間を要するものとする。</p> <p>・基本教材および参考文献の読み込み：20時間 ・レポート課題の執筆：10時間 ・Manaba-Folioへのレポート課題提出後の推敲と最終稿の完成（担当教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・レポートの推敲過程において、Manaba-Folioの全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に、想定される質問とその回答を纏めた「Q &amp; A」を公開する。また、レポート課題2では分析すべきデータをアップロードする。さらに「スレッド」に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。</p> <p>・オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。</p>		
スケジュール	<p>前期： 基本教材1のレポート課題1：6月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9月中旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。 基本教材1のレポート課題2：8月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9月中旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期： 基本教材2のレポート課題1：11月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2027年1月上旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。 基本教材2のレポート課題2：12月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2027年1月上旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は（原則的に）0点となります。</li> <li>レポート課題の作成において、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います（こうしたレポートは評価の対象としません）。教材の引き写しは評価の対象外とします。</li> </ul>	79%
	観察記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終提出までにManaba-Folio上でレポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。</li> <li>草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は79点以下しか得られません。</li> </ul>	21%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート作成にあたって文献を引用した場合は、それらすべてをレポートの巻末に示してください。その際、本文に引用した文献（引用文献）と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献（参考文献）とは仕分けて示してください。</li> <li>要覧にもあるように、後期課題のレポートでは、意味ある情報を的確に、かつ少数の値に集約して表現し、それらの値を効率よく記述しわかりやすく示すこと。表や図をレポートに提示する場合は、必ず通し番号とその表題をつけること。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：鈴木淳子            教材名：教材1：『質問紙デザインの技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2016年） ISBN:978-4-7795-1075-5 2,800円+税            教材2：『調査的面接の技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2005年） ISBN:978-4-88-848960-7 2,500円+税</p> <p>教材1は，主として心理学で用いられる調査法の概要とその手法について解説したもの。            教材2は，研究方法としての面接・インタビューの概要とその手順について詳細に解説したもの。</p>
参考図書	<p>・大竹恵子（編著）『なるほど！ 心理学調査法』（北大路書房，2017年） ISBN:978-4-7628-2990-1 2,200円+税            ・高橋尚也他（編著）『心理調査と心理測定尺度 計画から実施・解析まで』（サイエンス社，2023年） ISBN 978-4-7819-1568-5 2,350円+税            ・三浦麻子（監修），米山直樹・佐藤 寛（編著）『なるほど！ 心理学面接法』（北大路書房，2018年） ISBN:978-4-7628-3051-3 2,400円+税</p>
履修上のポイント	<p>レポート課題における「①質問紙（アンケート調査）を行う手順」，「②質問紙法の実施方法の違いによる区分と，それらの長所と短所」は，教材の『質問紙デザインの技法』を参考にし，「③面接調査（ヒアリング調査）を行う手順」と「④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と，それらの長所と短所」は，教材の『調査的面接の技法（第2版）』を参考にする。</p>
レポート課題1	<p>以下に示す項目について，教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。            ①質問紙法（アンケート調査）を計画し実施するまでの手順            ②質問紙法（アンケート調査）の実施方法の違いによる区分と，それらの長所と短所            ③面接調査（ヒアリング調査）を実施するまでの手順 ④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と，それらの長所と短所</p> <p>留意点：各項目あたり2,000字以内を目安に説明すること。</p>
レポート課題2	<p>以下の2項目のうち，一つを選ぶこと：            ①任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について，調査内容をまとめ，実際に質問紙（アンケート）を作成する。            ②任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について，調査内容をまとめ，ヒアリング調査計画書と調査に必要な書類を作成する。</p> <p>留意点：教材と参考書をよく読んで作成すること。調査票の作成にあたっては，調査後に分析がしやすいように配慮すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：南風原朝和            教材名：『心理統計学の基礎 統合的理解のために』（有斐閣アルマ，2002年） ISBN:4-641-12160-5 2,200円+税</p> <p>この教材は，統計的手法について詳細に解説したものである。</p>
参考図書	<p>・村井潤一郎・柏木恵子『ウォームアップ心理統計』（東京大学出版会，2008年） ISBN:978-4-13-012046-3 2,000円+税            ・松尾太加志・中村知靖『誰も教えてくれなかった因子分析 数式が絶対に出てこない因子分析入門』（北大路書房，2002年） ISBN:978-4-76-282251-3 2,500円+税            ・繁榎算男・森 敏昭・柳井晴夫『Q &amp; Aで知る統計データ解析 Dos and DON'Ts』（サイエンス社，2008年） ISBN:978-4-78-191186-1 2,450円+税</p>
履修上のポイント	<p>・データ解析用ソフト（Excelアドインソフト）は教務課より無料提供されるが，もし受講者所有のPCがMackintoshの場合はインストールに不具合が生じることがある。その際には，担当講師（田中）まで相談すること。            ・（基本教材2に関しては）高等学校の数学Bを履修した程度の知識があることが望ましい。</p>
レポート課題1	<p>以下に示す用語について，教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。            ①偏相関 ②決定係数 ③標準偏回帰係数 ④因子負荷量 ⑤多重共線性</p> <p>留意点：各用語あたり800字以内を目安に，3,000～4,800字の範囲で説明すること。説明には数式を用いてよい。ただし，その際に用いた記号について脚注をいれること。</p>
レポート課題2	<p>与えられたデータをもとに，統計解析ソフト（BellCurve Excel統計，(株)社会情報サービス）を用いて以下に指定された分析を行い，その結果を要約すること。            ①すべての変数について度数分布，代表値，散布度を示す。 ②任意に2変数を選び相関図を描き，その相関図について相関係数を算出する。 ③3つ以上の変数を選び，重回帰分析法を実施する。 ④5つ以上の変数を選び，因子分析法を実施する。</p> <p>留意点：分析用のデータは「調査分析特講」受講者が確定した後に大学院専用サイト（Manaba-Folio）にアップロードされる。PC統計解析ソフトの出力結果をそのままレポートにペースト・コピーして提出しないこと（ただし，掲載する図表をExcelで作成するのはかまわない）。</p>

## 基本教材1

第1回	質問紙調査法について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：質問紙とは何か、質問紙法の基礎（教材1；1章，2章）
第2回	質問紙法の調査プロセス，データ収集の技法（教材1；3章，4章）
第3回	サンプリングの技法，調査実施に向けての準備（教材1；5章，6章）
第4回	倫理的ガイドライン，質問紙デザインの基礎，質問紙の構成と体裁（教材1；7章，8章，9章）
第5回	質問の種類と順序，質問作成，ワーディング（教材1；10章，11章，12章）
第6回	選択回答法，自由回答法，予備調査（教材1；13章，14章，15章）
第7回	レポート課題1：①，②の草稿作成
第8回	調査的面接法について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：調査的面接法とは何か（教材2；第1章）
第9回	調査的面接法の分類，データ収集法の組み合わせ（教材2；第2章，第3章）
第10回	調査的面接法のデザイン（教材2；第4章）
第11回	調査的面接法のガイドライン（教材2；第5章）
第12回	レポート課題1：③，④の草稿を作成 ①②とともに提出し，その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第13回	レポート課題1の最終レポート作成
第14回	レポート課題2の草稿を提出し，その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第15回	レポート課題2の最終レポート作成

## 基本教材2

第1回	心理学研究における統計の役割について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：心理学研究と統計（第1章）
第2回	分布の記述的指標（第2章）
第3回	相関係数の理解と回帰係数（第3章），確率モデルと標本分布（第4章）
第4回	統計的推定・検定（第5章），平均値差と連関についての統計的推定（第6章）
第5回	線形モデルの基礎（第7章），偏相関と重回帰分析（第8章）
第6回	実験デザインと分散分析法（第9章）
第7回	因子分析法（第10章）
第8回	レポート課題1の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第9回	レポート課題1の最終レポート作成
第10回	実習課題(1)：サンプルデータを確認し，Excelと統計解析ソフトの操作に慣れる。
第11回	実習課題(2)：①サンプルデータの全変数について度数分布，代表値，散布度を示す。 ②任意に2つの変数を選び相関図を描き，その相関図について相関係数を算出する。
第12回	実習課題(3)：③3つ以上の変数を選び，重回帰分析法を実施する。
第13回	実習課題(4)：④5つ以上の変数を選び，因子分析法を実施する。
第14回	レポート課題2の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第15回	レポート課題2の最終レポート作成

科目名	統計基礎 I	担当者	サトウ トモヒコ 佐藤 友彦	開講期	通年	単位数	2	分野名	共通
-----	--------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	----

【科目概要】

目的	<p>最近の統計ソフトは大変に使い勝手が良く、統計的基礎や計算の前提条件を理解しなくても、形の上では統計の計算結果を得られるが、多くの場合、前提条件や利用条件を知らないことで、統計結果の解釈に間違いが散見される。</p> <p>本科目では、従来のような数式を中心とする説明ではなく、我々の身近にあるような具体的な例を取り上げ、できるだけ数式を介さず、統計の基本概念を理解する。また、表計算ソフトを使うことで、数学が苦手な人でも統計処理の基本的な考え方を理解することを目的とする。</p>								
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 統計が身近な疑問や現象に答えてくれるものであり、比較的身近な数学であることを理解する。統計処理は、決して理解が難しい数学ではなく、非常に単純な数学的思考に立脚した数値処理であることを理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ① 本科目では、統計処理ではよく使われている「平均・分散」や「有意さを表す検定」について理解することを目指す。 ② 特に「検定」に関しては、その背景にある単純な仮定を理解することで、検定の「考え方」や「適用範囲」を理解する。 ③ ここでは、それらの統計処理を使って身近なデータを処理し、それによって具体的な統計処理技術の習得も目指す。</p>								
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>① 指定教科書を熟読する。【SBO①】 【30時間/1冊】 ② 与えられた課題についてレポートを提出する。【SBO②&amp;③】 【45時間/レポート1件】 ※ なお、参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をすること。質問内容に関しては、基本的なことや専門なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構わないので、遠慮なく質問すること。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨する。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けること。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等を積極的に活用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員に質問すること。</p>								
スケジュール	<p>① レポートの受付は何時でも行っているので、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成レポートを提出することを推奨する。 ② レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解すること。なお、教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際のレポート提出は、基本的に認めない。【締め切り1~2ヶ月前にはレポート初稿を1本は必ず提出をしていること】 ③ レポートの提出期限：最終稿は学事暦で定められた期限までに提出すること。</p>								
成績評価	種別	評価基準							割合
	レポート	<p>「分散」や「検定、分散分析」について数学的背景を理解できたか。 「検定、分散分析」についての統計処理を行うことができるか。 「検定、分散分析」の適用範囲を理解できたか。</p>							70%
	観察記録	<p>「分散」や「検定、分散分析」についての疑問や質問が解決できたか。 「検定、分散分析」について、議論することができるか。</p>							30%
履修者への要望	<p>数学、特に統計処理が苦手な人が受講することをお勧めする。指定教材をしっかり読むこと。また、実際にExcelを操作して分析までたどり着くには、継続的・反復的に学修する必要がある。本科目で学ぶ項目は基本的なことが主であり、数学や統計処理が得意な人は受講しても意味はないので注意すること。</p>								

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：(1) 向後千春, 富永敦子 (2) 涌井貞美            教材名：(1)            『First Book 統計学がわかる』(技術評論社, 2007年),            ISBN:978-4-7741-3190-0 1,680円+税</p> <p>または            (2)            『意味がわかる統計解析』(ベレ出版, 2013年)            ISBN:978-4-86064-345-4 2,000円+税</p> <p>(1)は、数式をなるべく使わずに統計処理の仕組みを説明し、初心者でも気軽に読めて統計を学習できる教科書。あるハンバーガーショップで起こる様々な疑問や問題を、統計処理を使って登場人物たちと一緒に解決していく。基本統計量、区間推定、検定など統計データ分析の基本を理解できる。統計が苦手と思っている人には最適な教科書である。            (2)は、(1)ほど易しくないが、内容豊富で統計解析の基本を解説している。(1)を補う本として適している。</p>
参考図書	<p>以下は必要に応じて入手するとよい。</p> <p>菅民郎, 『Excelで学ぶ統計解析入門 Excel2019/2016対応版』(オーム社, 2020年)            ISBN:978-4-274-22641-0 2,800円+税 (やや辞書的な扱い)            小島寛之, 『完全独習 統計学入門』(ダイヤモンド社, 2006年),            ISBN:978-4-478-82009-4 1,800円+税 (教科書同様の入門書だが, Excelとの対応が乏しい)</p>
履修上のポイント	<p>本科目は、とにかく数学が苦手な、統計学が苦手な人のための科目である。多くの教科書に見られるような数式で説明することを極力避け、表計算ソフトを使うことで数式による説明を介さずに、統計データ処理を学ぶ。まずは、基本教材を手元に置き、手(PC)を動かして統計データ処理を行うこと。また、データは総務省統計局の統計データ (<a href="https://www.stat.go.jp/data/">https://www.stat.go.jp/data/</a>) などインターネットを活用して取得するとよい。</p>
レポート課題1	<p>(1) t検定とは、何を説明するための統計処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、t検定の前提条件や、何を計算する必要があるかなど、人に説明することを意識してレポートを作成せよ。            (2) さらに、身の回りのデータを1件用意してt検定を行い、その結果を考察せよ。</p> <p>留意点：1. レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。2. 分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。3. データの準備が困難な場合は、悩まずに連絡をすること。</p>
レポート課題2	<p>(1) 分散分析とは、何を説明するための統計処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、分散分析の前提条件や、何を計算する必要があるかなど、人に説明することを意識してレポートを作成せよ。            (2) さらに、身の回りのデータを1組用意して分散分析を行い、その結果を考察せよ。</p> <p>留意点：1. レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。2. 分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。3. データの準備が困難な場合は、悩まずに連絡をすること。</p>

## 基本教材1

第1回	統計と確率の関係について理解する。特に、統計から導かれる確率の考えが、個人の意思決定に利用できない理由等、統計処理の問題点を理解する。また、授業を受講する上で必須な、各自のパソコンのExcelで「データ分析」が使えるようにするための設定手順を確認する。
第2回	平均と分散、特に分散についての重要性について学ぶ。また、分散や標準偏差の考えと計算方法、その意味について理解する。
第3回	統計分布としての正規分布、大数の定理と中心極限定理について理解する。
第4回	データが従う統計分布が理解できると、それを利用した区間推定と信頼区間の考えを導入することができる。この信頼区間の考えが、有意差検定の基本であることを理解する。
第5回	有意差検定の考え方の基本を学ぶ。第4回内容の「信頼区間」との関係を理解する。また、有意差検定の考え、「帰無仮説」や「対立仮説」についても理解する。
第6回	カイ2乗の考え方を学ぶ。また、有意差検定の最も基本になる考えについて、カイ2乗検定を使った具体的な計算方法について理解する。
第7回	カイ2乗検定の実際の計算を学ぶ。特に、実際のデータを使って、カイ2乗検定の具体的な計算方法の手順を理解する。
第8回	有意差検定で、最も利用されている「t検定(対応なし)」の考え方を学ぶ。特に、正規分布とt分布、その信頼区間について理解する。
第9回	実際のデータを使った「t検定(対応なし)」の計算方法について学ぶ。計算の手順と、Excelにおける「データ分析」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も学ぶ。また、「t検定(対応なし)」の前提条件である「等分散性」についても理解する。
第10回	実際のデータを使った「t検定(対応あり)」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も理解する。さらに第9回内容の「t検定(対応なし)」との違いについても理解する。 →【レポート1への取り組み(目安)】
第11回	多変量の有意差検定である「分散分析」の考え方を理解する。特に「t検定」との違いと、「分散分析」の考え方を理解する。特にF分布とF値の考えを理解することを目的とする。また、分散分析の前提条件である等分散性についても理解する。
第12回	実際のデータを使った「分散分析(1要因)」についての計算方法を理解する。特に「等分散検定」と「分散分析」の計算手順について理解する。
第13回	「分散分析(2要因)」について「分散分析(1要因)」との違いについて理解する。特に「分散分析(多要因)」で現れる「交互作用」について理解する。
第14回	実際のデータを使った「分散分析(2要因)」についての計算方法を理解する。特に「交互作用」について理解する。 →【レポート2への取り組み(目安)】
第15回	半年間の学修内容について、データ分析の立場から、統計分析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	統計基礎Ⅱ	担当者	サトウ トモヒコ 佐藤 友彦	開講期	通年	単位数	2	分野名	共通
-----	-------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	----

【科目概要】

目的	<p>最近のコンピュータの高性能化に伴い、高性能な統計ソフトも自由に利用できるようになり、その結果、今までは難しかった多変量解析などが簡単に利用できるようになった。しかし、統計処理が簡単に利用できる一方、その基本にある数理的背景を理解しないままデータ処理を行っているケースが多く見られるようになってきた。</p> <p>本科目では、実際の修士論文や研究に利用されることが多い『多変量解析』における「回帰分析」、「相関係数」や「因子分析」などの数学的背景と前提条件、利用条件などを理解する。また、身近な具体例を使い、なるべく数式を介さずに表計算ソフトを利用することで、その基本的考え方を理解することを旨とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>本科目では、実際に様々な統計処理で使われることが多い「多変量」の統計処理について学ぶ。特に、「相関」、「(重)回帰分析」や「因子分析」についての考え方や処理方法の修得を目指す。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>① 多くの学生が統計を嫌いになるきっかけとなっているのが、この「多変量統計解析」だが、その理論的背景を理解することを目指す。</p> <p>② 多変量解析が単純な数学的仮定(線形関係)の上に成り立っていることを理解する。</p> <p>③ その上でこれら線形関係を解くための数学が「線形代数」に起因することを認め、その線形代数の手法が「最小2乗法」や「(座標)回転」や「固有値」と関係することを理解する。その上で、多変量解析では何を計算するのかを理解することで、その適用範囲を各自が理解できることを目指す。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>① 指定教科書および参考文献を熟読する。【SBO①】【30時間/1冊】</p> <p>② 与えられた課題についてレポートを提出する。【SBO②&amp;③】【45時間/レポート1件】</p> <p>※ なお、参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をすること。質問内容に関しては、基本的なことや専門なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構わないので、遠慮なく質問すること。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨する。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けること。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。</li> <li>・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等を積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員に質問すること。</li> </ul>		
スケジュール	<p>① レポートの受付は何時でも行っているため、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成レポートを提出することを推奨する。</p> <p>② レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解すること。なお、教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際でのレポート提出は、基本的に認めない。【締め切り1~2ヶ月前にはレポート初稿を1本は必ず提出をしていること】</p> <p>③ レポートの提出期限：最終稿は学事暦で定められていた期限までに提出すること。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	「多変量解析」の数学的仮定を理解できたか。「相関」や「重回帰分析」、「因子分析」とは何かを理解できたか。エクセルを使って、「多変量解析」処理を行うことができたか。	70%
	観察記録	「多変量解析」に関する疑問や不明な点が解決できたか。「多変量解析」に関する統計処理技術を議論できたか。	30%
履修者への要望	<p>統計処理が苦手な人が受講することをお勧めする。ただし、数学が特に苦手な人は、「統計基礎Ⅰ」の後に受講することが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：(1) 向後千春, 富永敦子 (2) 石井俊全            教材名：(1) 『FirstBook「統計学がわかる」一回帰分析・因子分析編一』(技術評論社, 2009年)            ISBN:978-4-7741-3707-0 1,680円+税</p> <p>または            (2) 『意味がわかる多変量解析』(ベレ出版, 2014年),            ISBN:978-4-86064-398-0 1,900円+税</p> <p>理数系以外の学生で統計を知っている人でも、「回帰分析」や「因子分析」など、データ間の「関係を調べる」ための統計データ処理の仕組みを理解している人は多くない。            (1)は、極力数式を使わず、データの「関係を調べる」ための統計データ処理の基本的な仕組みを解説している。アイスクリームショップを舞台に登場人物のアルバイトと一緒に悩みながら、気温とアイスクリームの売り上げの関係など、あなたの研究・調査に応用できるような話題を取り上げる。比較的理解することが難しいといわれている「多変量データ解析」を理解できるようになる。            (2)は、(1)ほど易しくないが、内容豊富で多変量解析の基本を解説している。(1)を補う本として適している。</p>
参考図書	<p>以下は必要に応じて入手するとよい。            上田太郎, 小林真紀, 瀧上美喜, 『Excelで学ぶ回帰分析入門』(オーム社, 2004年)            ISBN:978-4-274-06556-9 2,800円+税(回帰分析・多変量解析におけるExcelの操作説明が豊富)</p>
履修上のポイント	<p>本科目では、多変量解析の基本的な仕組みや数理的背景を理解することを目的とする。ここでは数式による説明をできるだけ避け、表計算ソフトExcelを使って、直接データを統計処理する。数学が苦手な人でも「相関」や「(重)回帰分析」, 「因子分析」の基本的な仕組みを理解することを目標としている。まずは、基本教材を手元に置き、手(PC)を動かして統計データ処理を行うこと。また、データは総務省統計局の統計データ (<a href="https://www.stat.go.jp/data/">https://www.stat.go.jp/data/</a>) などインターネットを活用して取得するとよい。</p>
レポート課題1	<p>(1) 「相関」と「回帰分析」は何を知るための統計データ処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、説明変数や因子間の線形性について注意しながら、人に説明することを意識してレポートを作成せよ。            (2) さらに、身の回りのデータを用意し、「相関」と「回帰分析」を計算し、それぞれの結果を考察せよ。            留意点：1. レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。2. 分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。3. データの準備が困難な場合は、悩まずに連絡をすること。</p>
レポート課題2	<p>(1) 「因子分析」は何を知るための統計データ処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、説明変数や因子間の線形性について注意しながら、人に説明することを意識してレポートを作成せよ。            (2) さらに、身の回りのデータを用意し、「因子分析」を計算し、その結果を考察せよ。なお、PC環境により因子分析の計算が困難な場合は、「重回帰分析」を行い、その結果を考察せよ。            留意点：1. レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。2. 分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。3. データの準備が困難な場合は、悩まずに連絡をすること。</p>

基本教材1

第1回	本科目で行う「多変量解析」についての概要を理解する。また、本科目で必要な各自のパソコンでの統計処理を行うための設定についても理解する。
第2回	教科書の例題を参考に、データの構造を表す「散布図と相関」について理解する。特に、データ間の関係がデータ解析に重要な要素であることを理解する。
第3回	前回講義の「散布図」を基に、より定量的である「相関係数」について理解し、その計算方法を理解する。また、偏差積についても理解する。
第4回	相関検定で、より定量的に判断できる「無相関検定」について理解する。この「無相関検定」を行う場合には、統計基礎Iで学習した「有意差検定」を利用することを理解する。
第5回	「回帰分析」の考え方を学ぶ。特に計算の要となる「最小二乗法」について理解する。
第6回	実際のデータを使った「単回帰分析」について具体的な計算方法を理解する。また、単回帰分析と相関係数との関係についても理解する。 →【レポート1への取り組み(目安)】
第7回	「重回帰分析」の考え方と計算方法を理解する。特に、重回帰分析での「説明変数の線形性の仮定」について理解する。また、重回帰分析で重要な条件である「多重共線性」についても理解する。
第8回	実際のデータを使って「重回帰分析」の計算方法を理解する。ここでは1ステップずつの計算方法を説明し、エクセルの「データ分析」を使った計算方法も理解する。
第9回	多変量解析における「相関行列」について理解する①。第3回の「相関」との関係を理解する。
第10回	多変量解析における「相関行列」について理解する②。「相関行列」の利用方法を理解する。
第11回	多変量解析として「主成分分析」の数学的な仕組みを理解し、主成分分析では何が分るのかを理解する。
第12回	実際のデータを使って、主成分分析の計算方法を理解する。各自の身の回りにある具体的なデータを利用し、主成分分析の計算方法を理解する。
第13回	「因子分析」の考え方を理解する。特に、因子分析の意味と、その結果の解釈の方法を理解する。また、「因子分析」の解法の基本である「行列式の解法」についても理解する。また、「主成分分析」との違いも理解する。
第14回	「因子分析」の計算方法について、教科書を参考に理解する。また、因子分析の解釈の方法も合わせて理解する。 →【レポート2への取り組み(目安)】
第15回	半年間の学修内容について多変量解析の立場から理解し、多変量解析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	行動経済学特講	担当者	ヨネダ ヒロヤス 米田 紘康	開講期	通年	単位数	4	分野名	共通
-----	---------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	----

【科目概要】

目的	2002年にダニエル・カーネマンとバーノン・スミスがノーベル経済学賞を受賞したことを契機に、行動経済学と実験経済学が注目された。その後、2013年にロバート・シラー（行動ファイナンス）、2017年にリチャード・セイラー（実践的な行動経済学：ナッジ）の受賞が続いたことで、一般社会や教育機関に知られることとなった。本科目では、行動経済学の理論と実践例を理解し、自身が応用できる能力を身につけることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 現代社会の種々の活動には、プレイヤーとして人間が関わる。地球環境から個人消費まで与える影響は、大きい。この科目では、経済活動に焦点を当てて、人間行動の理解ができることを目指す。それらに加えて、現実社会の問題を解消できる提案力を身につける。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材から情報を正しく理解することができる（知識）</li> <li>・教材から情報を正しく表現することができる（技能）</li> <li>・得た知識を用いて、応用することができる（問題解決）</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本教材・副教材を学修する（自習、SB01, 2）【20時間/レポート1本】</li> <li>2. レポートの初稿を作成する（自習・レポート作成、SB01, 2）【10時間/レポート1本】</li> <li>3. 教員との複数回による添削を通じて、最終的にレポートを完成させる（自主研究・レポート作成・ディスカッション、SB01, 2）【15時間/レポート1本】</li> </ol> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folio の掲示板機能やメールを利用して個別指導で解決する。</li> <li>・指定教科書にかかれていない疑問などは、その他書籍やインターネットなどを積極的に活用し各自解決することを希望する。ただし、それでも解決できない場合は、担当教員に質問すること。</li> </ul>		
スケジュール	<p>(前期)</p> <p>基本教材1のレポート課題1： 6月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>基本教材1のレポート課題2： 8月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>(後期)</p> <p>基本教材2のレポート課題1： 11月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>基本教材2のレポート課題2： 12月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p>		
成績評価	種 別	評 価 基 準	割 合
	レポート	1. 設問内容に明確に答えているか 2. 適切な日本語で書かれているか	70%
	観察記録	1. 提出期限が厳守されているか 2. 担当教員との対応	30%
履修者への要望	<p>レポートの書き方について不安がある人は、一般的な書籍また大学図書館などを通じて準備をしてください。 なお、以下のURLを参考にしても構いません。</p> <p><a href="https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofWriting.pdf">https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofWriting.pdf</a></p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：黒川 博文（著） 教材名：分析者のための行動経済学入門 プロスペクト理論からナッジまで、人間行動を深く網羅的に解明する（ソシム、2024、税込2750円）  人間行動をより深く理解することで得られる知見を、データ分析に活かすことを目的とした書籍である。特に後半部分では、標準的な経済学と行動経済学の違いについて、説明されている。
参考図書	相良奈美香（著）、「行動経済学が最強の学問である」、SBクリエイティブ（税込1870円） 筒井 義郎、佐々木 俊一郎、山根承子、グレッグ・マルデワ（著）、「行動経済学入門」、東洋経済新報社（税込2640円）
履修上のポイント	従前の経済学とどのような点が異なるのかについて、注目して理解を深めてほしい。
レポート課題1	第1章から第3章までについて、各章を1000字程度で要約した上で、第4章の期待値理論→期待効用理論→プロスペクト理論の流れを説明すること。 留意点：箇条書きは極力使用しないこと。理論が変化しているということは、従前の理論に何らかの問題点があり、新理論がそれを解消したことを示している。それらの変遷をしっかり押さえること。
レポート課題2	第5章から第7章について、各章を1000字程度で要約した上で、第8章以降のナッジを含む行動経済学の実践の可能性と課題点を述べなさい。 留意点：4章から7章までは、人間行動を説明する理論を述べている。それらを踏まえたうえで、実践の可能性や問題点に触れると良いだろう。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：リチャード・セイラー（著）、キャス・サンスティーン（著）、遠藤 真美（翻訳） 教材名：NUDGE 実践 行動経済学 完全版（日経BP、2022、税込2530円）  ノーベル経済学賞を受賞したリチャード・セイラーが、ナッジの必要性とその実例についてまとめている。古典的な事例から最新の事例までが取り上げられている。
参考図書	ファスト&スロー あなたの意思はどのように決まるか？ 文庫（上）、税込1210円 ファスト&スロー あなたの意思はどのように決まるか？ 文庫（下）、税込1210円
履修上のポイント	レポート1で理解した理論がどのように現実世界で実践できるのか、その目の付け所と効果に注目してほしい。
レポート課題1	第1章から第8章までの実例を踏まえたうえで、あなたが新たに応用例を提示しなさい。当然、すでに実践されているものは認められません。  以下の点には、触れること。 ・現在どのような問題があるのか ・それをどのようなナッジで解消するのか ・そのナッジは、第1章から第8章あるいは行動経済学のどのような理論と関連するのか 留意点：実践例が非常に多く取り上げられているので、自身の関心あるいは現実世界の喫緊の課題に絞り込むと良い。
レポート課題2	第9章から第14章までの実例を踏まえたうえで、あなたが新たに応用例を提示しなさい。当然、すでに実践されているものは認められません。  以下の点には、触れること。 ・現在どのような問題があるのか ・それをどのようなナッジで解消するのか ・そのナッジは、第9章から第14章あるいは行動経済学のどのような理論と関連するのか 留意点：実践例が非常に多く取り上げられているので、自身の関心あるいは現実世界の喫緊の課題に絞り込むと良い。

## 基本教材1

第1回	基礎知識：人間行動を読み解く行動経済学
第2回	分析方法：因果分析1
第3回	分析方法：因果分析2
第4回	分析方法：経済モデル1
第5回	分析方法：経済モデル2
第6回	考え方：不確実性下の意思決定1
第7回	考え方：不確実性下の意思決定2
第8回	考え方：時間を通じた意思決定分析1
第9回	考え方：時間を通じた意思決定分析2
第10回	考え方：他社を考慮した分析1
第11回	考え方：他社を考慮した分析2
第12回	考え方：体系的に誤る意思決定1
第13回	考え方：体系的に誤る意思決定2
第14回	実践：ナッジ1
第15回	実践：ナッジ2

## 基本教材2

第1回	バイアスと誤謬
第2回	ナッジの役割
第3回	社会規範、同調
第4回	ナッジのタイミング
第5回	選択アーキテクチャー
第6回	誘惑
第7回	優れた情報開示
第8回	スラッジ：ナッジの悪用
第9回	老後資金を貯める方法
第10回	ナッジの持続効果
第11回	ローンの借り方
第12回	保険の考え方
第13回	デフォルト効果
第14回	ナッジの活用
第15回	ナッジの課題

### 特別研究の研究領域

グローバルに展開する企業による形成されたグローバル・ビジネス・エコシステム (GBE) に関して、その現象と本質を解明することにフォーカスした研究です。グローバル環境における不確実性の高まり、テクノロジーの進歩、さらに消費者嗜好の分散と集中のいずれもが目まぐるしく変化する中で、グローバル企業が海外進出にあたって、単独の企業や商品での展開はもはや不可能となってきた。グローバルな競争優位は、より多くのグローバルリソースを取り込めるビジネス・エコシステムの構築と、それによる価値創造の多寡および優劣によって決定づけられるようになってきているのです。本特別研究では、グローバル・ビジネス・エコシステムに関する既存研究に基づいた、従来の市場とヒエラルキーの2次元の枠組みを中心とする国際ビジネス理論に、より柔軟で、より多面的なビジネス・エコシステムという新たな分析軸を加え、より網羅的なグローバル・ビジネス視点を持つように指導する。そして、各自が、GBEの形成条件、要因、経路、段階、循環、消滅、進化を分析し、グローバル・ビジネスの理論研究をより時代に見合った形で進展させることを望む。

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

1. 研究の目的、目標、方法、タイムスケジュールを明確にする。
2. 文献レビューとして、関連する文献を広範囲にわたって読み込み、研究背景を理解する。
3. 研究計画に従い、対象とする研究領域でデータの収集を行う。
4. 収集したデータを分析し、得られた結果を解釈する。
5. 研究結果を整理し、論文にまとめる。
6. 研究成果は進捗にあわせて発表し、随時指導を行う。
7. 教員からのフィードバックのもとに修正を行い、最終論文の完成を目指す。

### 特別研究の進め方

1. 研究の目的、目標、方法、タイムスケジュールを明確にする。
2. 文献レビューとして、関連する文献を広範囲にわたって読み込み、研究背景を理解する。
3. 研究計画に従い、対象とする研究領域でデータの収集を行う。
4. 収集したデータを分析し、得られた結果を解釈する。
5. 研究結果を整理し、論文にまとめる。
6. 研究成果は進捗にあわせて発表し、随時指導を行う。
7. 教員からのフィードバックのもとに修正を行い、最終論文の完成を目指す。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

特別研究では幅広く経営学をベースとした研究領域を対象としています。私は消費関連産業の研究とファミリービジネスを対象として研究しています。具体的には、消費行動あるいは社会構造において、消費者・利用者の意識とそれに働きかける企業行動及び社会の制度の変化などを対象とした研究です。

ただし、特別研究では「経営学的アプローチ」での研究であれば、受講生の取り上げるテーマ（産業、切り口）は特定しません。例えば、以下のテーマが考えられます。

- ①企業あるいは顧客との間の駆け引きとなる戦略論的アプローチ
- ②企業そのものの競争力につながる組織論（人的資源マネジメント）的アプローチ
- ③消費行動・企業行動を理解するための外部環境（社会のしくみ）を整理する産業調査アプローチ

もう一つの研究アプローチが、「ファミリービジネス」です。

日本の産業構造の中に多く存在するファミリービジネスの事業承継を重要なテーマとして取り上げ、その企業が存続することによって維持される地方の経済力に関する内容も研究テーマとして取り組んでいます。この分野に関する研究テーマとしては、経営学的アプローチだけではカバーできない切り口が提示されることもあり得ます。

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

限られた期間短い時間の中で論文を書き上げていくときの第一の関門が、どのようなテーマで研究するかを決めるところにあります。これまでの指導経験ではテーマの決定・研究計画の作成に時間がかかり、かつ、最後まで悩み続けるポイントです。大学院に進んでいる以上、自らのテーマ、問題意識に基づきやりたいことは臆げに分かっているものの、その問題の本質を探ろうとすればするほど難しくなります。実際に研究に着手しようとする、そもそも自分が研究したいと考えている企業・産業の実態はどのようなものか、正確に理解できていないことも多いのです。必要なことは、問題意識を正確に理解することであり、ここに時間をたっぷりとるようにしてください。

次に学術論文を書いていくための研究作法（文章の書き方、先行研究の調べ方、引用の方法など）に対する理解も不可欠です。普段に使っている文章と、学術文章は形式も全く違いますので、作法を覚えてください。

### 特別研究の進め方

最初の問題意識が明確になったら、論文の作成に向けて研究に着手してください。最初の問題設定を面倒がらずに行うことが研究を成功支えるための重要なポイントだと考えます。

修士論文の作成は、最後は時間との戦いになりますが、問題意識が固まっていれば、最後のラストスパートは乗り切ることが出来るでしょう。修士論文の作成・仕上げの段階では、学生相互にその内容をチェックするピアレビュー方式で実施します。

ステップバイステップで、研究目的に沿った、研究に取り組んでいってください。

夏季・冬季、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、合計で年間 1 時間以上の対面形式（オンラインを含む）による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

本特別研究では、国際貿易と通商政策およびグローバル化と国際制度の進展を主な研究領域とします。グローバル化の進展に伴う国際貿易構造の変化、企業の海外進出に伴う国際分業の変化、国際制度の設計に伴う貿易障壁への影響、国際取引の円滑化に伴う地域経済活性化などの国際経済的要因に着目して、理論的・実証的・政策的など幅広い分析視点から、グローバル市場やローカル市場が抱える課題を分析・考察することを目指します。

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

国際経済政策を分析する研究能力を育成することを目標とします。研究課題は大学院生自身が考えている問題意識と学術的な研究意義の両面から決定していき、国際経済学の分析視点から修士論文の作成を試みます。興味のある研究分野や研究対象が国内経済や地域経済、多国籍企業や中小企業であっても、グローバル経済という研究観点を取り入れて専門的に研究を進めていきます。

### 特別研究の進め方

はじめに、ゼミでのディスカッションを通じて自分にとって興味のある研究テーマと関連するキーワードについて明確にしていきます。次に、問題意識と研究意義を再検討するために、研究テーマに関する先行研究や専門的資料などを数多くサーベイしていきます。サーベイしたものは要点を簡潔にまとめ、ゼミで報告をするようにします。以上のことが整理されたら、研究論文での仮説構築と分析手法について固めていき、最終的に論文の作成に取り組みます。状況に応じて進め方は変化するかもしれませんが、ゼミでのディスカッションを常にベースとして研究論文の作成を行っていきます。夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間 1 時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

本特別研究では、国際通商政策、経済活動のグローバル化、地域経済を主な研究領域とする。具体的には、国際通商政策の歴史的推移、世界経済のグローバル化の進展と新たな国際分業の出現、産業集積、企業生産活動のグローバル化といった要因に着目する。これらを通じて、地域経済や国際経済の諸問題に対し、地球規模の政策視野を持ったグローバルなアプローチを採用し、理論的かつ実証的な分析を行うことを目指す。

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

大学院生の問題意識と主体的な研究姿勢を尊重し、各自の研究課題を決定する。研究計画を作成し、それに基づいて指導を行うが、特に国際貿易と経済開発の分析視点を重視する。理論と実証の両面から国際経済政策を分析する能力の育成を目指し、研究の進捗を丁寧にサポートする。

### 特別研究の進め方

主に以下のようなプロセスで研究指導を行う。

- ① 研究テーマの選定
- ② 研究計画の作成
- ③ 研究テーマ関連の参考文献目録の作成
- ④ 先行研究成果の概観と先行研究の内容検討
- ⑤ 研究方法の策定と資料収集
- ⑥ 研究内容を具体化し、論文作成に着手
- ⑦ 論文の構成案を作成し、中間報告
- ⑧ 論文の草稿を作成し、中間報告
- ⑨ 修士論文の完稿

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間 1 時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

経営組織論、経営戦略論、イノベーション研究など

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

本研究の研究指導は、組織・戦略・イノベーションなど幅広い経営学上のテーマに関して研究指導を行うものである。理論的な知識だけでなく、リサーチメソッドについても理解を深めることも狙いとしている。

### 特別研究の進め方

指導教員と研究テーマについて話し合いながら進めていく。原則としてZoomやSlackなどのツールを通じて指導を進めていくものとする。

研究指導においては、学説や理論に関する知見だけではなく、リサーチメソッドに関する文献を読むような機会も提供していく。

夏季・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間 1 時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

地域活性化、なかでも農村地域の振興、農業・食品産業の振興、食料・農業・農村政策を対象にした研究を行います。多様なステークホルダーが社会課題の解決のために協働するメカニズムを分析することや、従来と異なる政策革新を実現するための環境整備などについて考察することに力を入れています。また、持続可能な社会の構築のために欠かせない自然資本（森林、農地、河川など）のマネジメントについても研究しています。

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

もっとも重要視しているのは、的確な問（リサーチクエスチョン）を立てることです。社会経験豊富な院生の皆さんは、具体的な事例の情報を数多く持つておられることが強みです。しかし、この強みは、学術的な考察を深めていく際に必要不可欠な概念の明確化、理論の組み立てにおいて、弱みになってしまうことも少なくありません。まずは、院生の皆さんが、問題意識の明確化と骨太な問題設定を行えるよう、しっかりとコミュニケーションをとって行きます。さらに、分析対象の確定、理論・先行研究の調査、分析枠組の検討、調査・分析の実施と、院生自ら、計画的に研究を進められるよう、伴走していきます。

### 特別研究の進め方

まずは、問題意識の明確化と問題設定を行うために、対話型の指導（オンライン中心）を行います。続いて、院生が、理論・先行研究の調査、概念の明確化、分析枠組の検討等を行って研究計画を作成できるよう、指導します。この際、並行して、基礎的な文献を用いて、社会科学の研究を行う際のリサーチデザイン、標準的な方法論等に関する知識の修得を支援します。この後、院生が、研究計画に則して、自ら計画的に調査・分析を実施し、論文の執筆作業を進められるよう、指導します。時間的制約の中、着実に論文執筆を進めるため、節目節目で、論文構成案の報告、論文草稿の中間報告等の機会を設け、修士論文の完成を支援します。夏季・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間 1 時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

本特別研究は、日中関係および米中関係の歴史の変遷を分析軸とし、現代中国政治の制度的・権力構造的展開と対外政策の変容を解明することを主要な研究領域とする。

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

中国の各時期における内政・外交政策の決定過程を明らかにするとともに、日米両国の対中政策が変化した要因について分析するよう指導する。院生は、自ら設定した研究テーマに基づき、先行研究を積極的に調査し、関連する資料を収集・整理・分析したうえで、修士論文の完成を目指す。

### 特別研究の進め方

教員の指導を受けつつ、研究方法と目的を明確にし、慎重にテーマを選定したうえで論文を作成します。したがって、本特別研究の進め方は以下の通りです。

- ① テーマの選定
- ② 研究計画書の作成
- ③ テーマと関係する先行研究の調べと整理
- ④ 参考文献や資料の収集
- ⑤ 仮説の立案と検証
- ⑥ 論文執筆
- ⑦ 第一次途中報告
- ⑧ 論文の修正
- ⑨ 第二次途中報告
- ⑩ 論文の修正
- ⑪ 論文の完成

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間 1 時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

この特別研究においては、国際政治史、国際政治理論を含む国際政治学全般を研究領域として、基本的に広範なテーマに対応します。とくに担当教員が現代ヨーロッパ政治やヨーロッパ統合研究を専攻する関係から、こうしたテーマは歓迎します。ただし中東・アラブ研究は特殊な専門知識を必要とすることから除外し、また中国や日本関連のテーマについては他に専門教員がいるため、この特別研究では対応しません。現代の国際政治は多様な国やアクターが絡む複雑な現象となっていますので、狭い領域にこだわることなく多様性をキーワードとして研究を進めていきましょう。

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

基本的には院生自身がどのような問題意識をもち、どのようなテーマや領域に関心があるのか、現時点でどのような知識があるのかが研究を進める上での最初のポイントになります。その上で指導教員は院生がどのような知識を身につける必要があるのか、またどの方向に研究を進めればよいのか、どのような視野を持たなければいけないかをアドバイスします。ただし院生には主体的な取り組みが求められます。教員が細かな指示を出すわけではないことにご留意ください。

### 特別研究の進め方

以下の手順で特別研究を進めていき、適時打ち合わせや指導の場を設けます。

- 1) まず関心領域の中から研究テーマの候補を挙げてもらいます。
- 2) いくつかある研究テーマの候補の中から正式なテーマを決めます。
- 3) 研究を進めるために必要な文献・資料のリストを作成し収集を始めます。
- 4) 文献・資料を読み進めてもらい分析を進めます。
- 5) 論文の構成を決めて執筆を始めます。
- 6) 論文作成の中間報告と修正をおこなってもらいます。
- 7) 論文を完成させます。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間 1 時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

日本政治史研究のアプローチ方法は様々です。担当教員の経歴を考えるに、対象とする時代は、幕末から昭和までが望ましいです（平成・令和も対応できますが、古代や中・近世は荷が重いです）。つぎに内容ですが、広く政治・マスコミとし、特定の事件や制度、政策、組織、人物の他、日本が対象ならば外交や地域、思想を対象とする研究も歓迎いたします。むろん史料研究自体は行いますが、私は史学科卒ではないため、専ら古文書の解読方法について学びたいという方は、遺憾ながら他をお探し下さい。

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

皆さんが各々に選択する研究テーマにより、ポイントは変わってくるものと思われませんが、修士論文の完成を第一に考えるならば、入学までにある程度、興味関心を整理しておき、早々に優れた先行研究と出会うことが必要です。好奇心旺盛は歓迎すべき長所ですが、2年間は一瞬です。年限を気にせず学問と向き合えば理想ですが、まずは専門性の高い修士論文をしっかりと完成させ、どうしても心残りがあるならば、それらは博士後期課程で取り組みましょう。

### 特別研究の進め方

まずは皆さん自身が研究テーマを決め、指導を受けつつ、必要な参考文献や資料を収集し、論文の適切なアウトラインを作り上げることが目標です。各自の力量やテーマにも拠りますが、通常このアウトラインは何度も作り直すことになるはずですが、大抵は欲張りすぎて、一冊の本でも纏めきれない壮大な議題設定をしてしまうからなのですが、これは決して無駄にはなりません。主題の周辺を把握することは、自分の論文の学術的意義を知る上で必要な作業ですし、今後の研究課題の発見にも繋がります。イメージとしては、周辺を広く学びつつ、これだというピンポイントを見定め、深く掘り下げると良いでしょう。夏季・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。